



【別冊】

生物多様性に関する活動事例集

生物多様性に関するアンケート
—自然の恵みと事業活動の関係調査—
＜2017年度調査結果＞

2018年2月

一般社団法人 日本経済団体連合会
経団連自然保護協議会
生物多様性民間参画パートナーシップ

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
1-1	目標5	高砂熱学工業株式会社	自治体推進の「企業の森林づくり」への参画により、環境保全に寄与する重要性の認識の深化。 ・高砂熱学の森 ・京都モデルフォレスト運動 ・みやぎの里山林協同再生支援事業	TAKASAGO CORPORATE REPORT 2017 P. 23 https://www.tte-net.com/csr/pdf/csr_2017.pdf
1-1	目標1	第一三共株式会社	生物多様性への取り組み 環境経営基本方針と第3 期中期環境経営方針において、生物多様性と生態系サービスに配慮した事業活動を行う旨を明記しています。これらの方針などに基づき、「生物多様性基本方針・行動指針」を策定しています。	http://www.daiichisankyo.co.jp/corporate/csr/report/databook/pdf/databook2017.pdf バリューレポート2017
1-1	目標1	アジア航測株式会社	【エコファーストの約束の達成】アジア航測は、航空測量業界のトップ企業として、環境省よりエコファースト企業の認定を受けています。当社が掲げた「エコファーストの約束」を果たすため、低炭素社会の実現への貢献、自然共生型社会の実現への貢献、自然災害発生時における情報提供等の取組みを進めています。	http://www.ajiko.co.jp/csr/ecofirst.html http://www.ajiko.co.jp/CSRレポート2016p3
1-1	目標1	キリンホールディングス株式会社	【生物資源に関するビジョンの設定】2050年に向けた「キリングループ長期環境ビジョン」の中で「生物資源」を4つの重要テーマの一つに選定。2050年までに生物資源を持続可能な形で使用していることを到達目標に掲げ、ガイドラインや行動目標を設定して活動を推進している。具体的な活動としては、2014年からの東野市ホップ畑・上田市ぶどう畑における生物多様性の確保など。	http://www.kirinholdings.co.jp/csv/env/bioresour/
1-1	目標5	JFEホールディングス(株)	「マリンストーン®」を用いた海域環境改善 製鋼スラグ製品「マリンストーン®」は閉鎖性海域のヘドロ状底質からの硫化水素発生を抑制する機能があり、横浜市山下公園前領域の実地調査でも生物付着基盤や海域環境改善材として有効に機能していることが確認されている。	http://www.jfe-holdings.co.jp/environment 2017CSR報告書p53
1-1	目標4	住友金属鉱山株式会社	当社は2020年のありたい姿を実現するための具体的な目標の一つに、生物多様性保全の推進を掲げています。そして生物多様性保全へのアプローチは、地球温暖化対策、環境負荷低減および生態系の保全の三つの観点から取り組んでいます。	統合報告書2017 p.82
1-1	目標4	住友林業株式会社	2012年に「生物多様性宣言」、「生物多様性行動指針」、「生物多様性長期目標」を制定した「宣言」「指針」は現在環境方針に統合。長期目標は、「愛知目標」を網羅的に検討し、対応する長期目標を事業レベルで具体的に落とし込んでいる。	http://sfc.jp/information/society/environment/performance/preservation/preservation01.html
1-1	目標1	大成建設株式会社	日建連(建設業団体)において、2016年に発行された「生物多様性行動指針」の解説及び具体事例資料を制作。建設業に関わる会員企業の社員や作業員への具体的な取組の展開を図っている。	http://www.nikkenren.com/kankyau/
1-1	目標6	株式会社北洋銀行	生物多様性保全を目的とした「ほっくー基金」を平成22年に設立し、官民連携からなる「ほっくー基金選定協議会」で選定のうえ、北海道の希少動植物保護に取り組む団体等累計42先(平成29年9月末時点)に寄付を贈呈しました。 「ほっくー基金」の主な原資として、「ほっくー定期預金」を全店でお取り扱いしており、同預金の残高0.01%相当額と、満期案内不発行による郵送料相当額を「ほっくー基金」に拠出しています。	http://www.hokuyobank.co.jp/about/csr/csr_report.html 2017年CSRレポート P.17-20
1-1	目標1	JXTGエネルギー株式会社	「生物多様性」の企業方針への取り組み	http://www.noe.jxtg-group.co.jp/csr/environment/biodiversity/index.html
1-1	目標4	丸紅株式会社	天然木を伐採することの無い、環境に配慮した持続可能な植林事業を行っている。	アニュアルレポート 2017 P.73 http://www.marubeni.co.jp/ir/reports/annual_report/data/ir2017_jp_06.pdf
1-1	目標1	株式会社SUBARU	2017年4月に環境方針を制定。環境行動指針の調達では、「私たちは生物多様性など環境保護に配慮した調達を実施します。」とした。	https://www.subaru.co.jp/csr/environment/010_vision.html
1-1	目標1	日本水産(株)	環境憲章行動指針に「生物多様性の保全」を加えている。	http://www.nissui.co.jp/social/environment/05.html
1-1	目標7	野村ホールディングス株式会社	●アグリビジネス グループ会社である野村アグリプランニング&アドバイザーを中心に、地域に密着したアグリ産業化をサポート。千葉県と北海道の実証農場で得られたノウハウを活用し、企業の新規農業参入へのサポート、農林水産省の支援を受けた全国での六次産業化推進セミナーを開催。	http://www.nomuraholdings.com/jp/csr/sustainable/services.html
1-1	目標7	前田建設工業株式会社	■MAEDAの森佐久での植樹祭 福井県、長野県、熊本県の全国3カ所にある「MAEDAの森」では、森林保全活動の一環として毎年行う森林整備活動を通じて、現地NPO法人や社員・家族とともに森づくりの輪を広げています。MAEDAの森 佐久(長野県)では、2016年11月にNPO法人森のライフスタイル研究所、ならびに地元の皆様と共に植林を行いました。	http://www.maeda.co.jp/csr/report/pdf/2017/2017_report.pdf 2017年CSR報告書P49
1-1	目標8	興和株式会社	生活関連事業の中での、オーガニックコットンの販売拡大	

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
1-1	目標5	参天製薬株式会社	森林保全活動を、二酸化炭素の吸収だけでなく、水源かん養力の維持により、生物多様性保全につながると考え取り組んでいる。	http://www.santen.co.jp/ja/csr/eco/eco003.jsp
1-1	目標14	積水ハウス株式会社	◆在来種を中心とする造園緑化事業の推進 当社は住宅メーカーで、庭や街路の造園緑化事業をおこなっているために、そこで採用する植物について(一般的に用いられる園芸種・外来種で無く)地域の生きものにとって活用可能性の高い在来種の植物をお客様に提案して積極的に植栽している(2001年のプロジェクト開始以降の植栽開始以降の樹木累積は1300万本で、その過半数が在来種)	サステナビリティレポート2017 p.29~ https://www.sekisuihouse.co.jp/sustainable/biodiversity/index.html
1-1	目標5	イオン株式会社	植樹活動:1991年より新しく店舗がオープンする際、店舗が地域に根ざしコミュニティの場となること、緑を育む心が地域の人々に広がることを願い、お客さまとともに店舗敷地内に植樹する「イオン ふるさとの森づくり」を実施。又、(公財)イオン環境財団は、さまざまな国や地域で政府や地方自治体と協力し、自然災害などで荒廃した森を再生させることを目的とした植樹活動を実施。労使で東日本大震災で失われた海岸林再生の植樹も実施。累計1144万本。	http://www.aeon.info/environment/shokuju/
1-1	目標1	株式会社SUBARU	2011年に自動車メーカーとして初めて全特約店、全拠点で「エコアクション21」の認証を取得し、運用を促進中。その実績が認められ、環境省よりさらなる普及促進のための「バリューチェーンモデル事業第一号」に認定されました。	https://www.subaru.co.jp/csr/environment/020_management.html
1-1	目標6	東亜合成株式会社	バラスト水処理システムにおける薬剤の製造販売	http://www.toagosei.co.jp/csr/csr_report/東亜合成グループレポート2017の20ページの基礎化学事業の社会的課題解決への挑戦
1-1	目標1	富士フイルム株式会社	富士フイルムグループは、創業以来「環境配慮・環境保全は企業活動の根幹を成す」という考え方に基いて様々な環境保全活動に取り組んできた。その一環として、2009年6月に「生物多様性の保全」に関するグループ共通の取り組み方針を明確化し、富士フイルムグループ「生物多様性の保全に関する基本認識と行動指針」を制定し、生態系サービスを将来に向けて存続させるため、社内外での取り組みを進めている。	http://www.fujifilmholdings.com/ja/sustainability/vision/creature.html
1-1	目標6	東亜合成株式会社	苛性ソーダ、液体塩素、次亜塩素酸ソーダ、高分子凝集剤「アロンフロック」等、水環境の保全の基盤となる製品の安定供給	http://www.toagosei.co.jp/products/basis/inorganic_organic/ 東亜合成HP製品情報
1-1	目標14	東レ株式会社	①東レでは、従来より地域の植生を考慮した「鎮守の森方式」にて工場緑化活動を全社的に推進している。 ②2012年に従来の緑化方針を発展的に改訂し、「東レグループ緑化基本方針」として制定した。	http://www.toray.co.jp/csr/activity/safety/biodiversity.html 東レグループCSRレポート2017(P63)で公開
1-1	目標1	エイピーピー・ジャパン株式会社	2014年9月にニューヨークで開催された「国連気候サミット」に参加し、唯一の製紙会社として「森林に関するニューヨーク宣言」に署名しました。さらにCOP21、ボン・チャレンジ、IUCNの活動等に参加するとともにSDGsの指針に沿った取り組みを行っています。	2015年CSR報告書
1-2	目標1	株式会社 熊谷組	2010年3月 生物多様性保全の取り組み方針を策定(2016年4月 改訂)	会社HP
1-2	目標1	三井住友トラスト・ホールディングス株式会社	生物多様性問題に対する取組を経営課題として推進。①企業方針として生物多様性行動指針を制定 ②2008年のCOP9においてドイツ政府提唱の「ビジネスと生物多様性イニシアティブ」に賛同し、リーダーシップ宣言へ署名、活動を推進 ③2012年のRio+20にて「自然資本宣言」に署名 ④エコプロダクツ展(2007年より生物多様性をテーマに継続出展)など、啓発活動に努める。	CSRレポート2016 (p.8-25) http://smth.jp/csr/report/2016/full/all.pdf
1-2	目標1	田辺三菱製薬株式会社	田辺三菱製薬グループの環境ポリシーとして、地球環境の保護に積極的に取り組み、すべての企業活動において環境に与える影響を評価し、継続的に環境負荷を低減することを定めている。また、環境中期行動計画において「生物多様性の保全」をテーマに「事業活動と生物多様性との関わりを把握し、生物多様性保全の取り組みを推進する」を目標として活動を進めています。	http://www.mt-pharma.co.jp/shared/show.php?url=../csr/report/csr_pdf/index.html CSR活動報告2017 (pdf: P25, P31)
1-2	目標1	ライオン株式会社	ライオンは、「2020年までに全事業所で生物多様性保全活動の実施」を中期環境目標に掲げ、現在10事業所(工場:8、オフィス:2)において各種生物多様性保全活動を実施している。具体的には、①事業所内のビオトープにおいて、希少種や在来種の生息環境を整え、生態系ネットワークを形成する活動、②NPOと連携した、外来種の駆除や希少生物保護の活動、③各活動を活用した、子どもたちを対象とした環境教育や見学会開催等を実施している。	http://www.lion.co.jp/ja/csr/biodiversity/activity/
1-2	目標1	株式会社カネカ	2010年度に生物多様性に関する活動方針を制定し、企業活動が生態系におよぼす影響に注目して、環境への負荷を軽減する技術や素材、製品を提供するとともに生産における環境負荷の軽減に努めています。また、社会貢献活動の一環としても、社外の多様な生物多様性活動との連携・協力を行っています。	当社公式ホームページに掲載予定
1-2	目標1	株式会社 三菱ケミカルホールディングス	中期経営計画の重要課題(マテリアリティ)のひとつに生物多様性保全を選定し、情報を開示。三菱ケミカルホールディングスグループ生物多様性保全の方針および行動指針の下、活動を実施しています。	http://www.mitsubishichealth.co.jp/csr/download/pdf/17.pdf KAITEKI REPORT2017 p63

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
1-2	目標4	三菱商事株式会社	取締役会や社長室会において審議される全ての案件については、投融資委員会にCSR担当部局がメンバーとして参加することで、生物多様性も含めた環境に与える影響も踏まえた意思決定が行われるような審査体制が整備されている。	三菱商事 統合報告書2017 P24
1-2	目標1	ダイハツ工業株式会社	・従業員に向けた啓発活動 環境月間では、社長の生物多様性についての考えをメッセージの中でダイハツグループ全体に発信。また生物多様性について従業員に情報と考える機会を提供すると共に生物多様性ポスターを掲示し、「生物多様性」が従業員の目に触れる機会を多くした。 従業員は生物多様性保全への理解促進を継続して推進するため「生物多様性がかわら版」を発行している。	https://www.daihatsu.com/jp/csr/conservation/biodiversity.html
1-2	目標14	株式会社ダイセル	ダイセルグループでは、「モノづくり」の会社として存続し成長していくための「人づくり」や社会と調和した工場づくりを目指し、従業員をはじめ、そのご家族、協力会社の皆様、近隣の皆様と一緒に「いのちの森づくり」に取り組んでいます。	https://www.daicel.com ダイセルグループCSR報告書2016(p14) ダイセルグループ ニューラルレポート2017 (p35)
1-2	目標4	サントリーホールディングス株式会社	持続可能な社会に向けてサントリーの『水理念』を策定。 水は最も重要な原料であり、貴重な共有資源です。次の理念をグループ全体で共有しステークホルダーの期待に応えます。 1.水循環を知る:使用する水について流域を調べ理解を深めます。2.大切に使う:節水に努め、浄化した水は自然に還します。3.水源を守る:使用する水の水源保全に努めます。4.地域社会と共に取組む:水課題の解決への貢献を通じて地域コミュニティを支援します。	http://www.suntory.co.jp/company/csr/highlight/2017/mizu/
1-2	目標1	東レ株式会社	2010年12月に東レグループ生物多様性基本方針を制定し、全社員へ周知、各社員が生物多様性の価値を理解し、東レグループとしての行動を認識している。	http://www.toray.co.jp/csr/activity/safety/biodiversity.html
1-2	目標4	株式会社大林組	当社は、持続可能な社会の実現をめざして、中長期環境ビジョン「Obayashi Green Vision 2050」を策定し、事業活動を通じて地球環境の課題解決に取り組んでいます。その中で2050年のあるべき社会像の一つとして「自然共生社会」を掲げ、「生物多様性が適切に保たれ、自然の恵みを将来にわたって享受できる」社会の実現を目指しています。2016年度は取組として開発時の影響評価技術を案件検討時に活用しました。	コーポレートレポート 2016 P.43 http://www.obayashi.co.jp/uploads/File/ir/report/2016/ir2016.pdf
1-2	目標1	株式会社 熊谷組	当社が進める自然環境の保全、再生、創出の取組みのひとつである「ホテルの棲める環境づくり(ホテルIoT技術)」が、「国連生物多様性の10年日本委員会」が推奨する連携事業に認定。 (建設業では初めての認定)	CSR報告書2014p25
1-2	目標1	伊藤忠テクノロジーソリューションズ株式会社	MOTTAINAIキャンペーンに賛同すると共に、公益財団法人世界自然保護基金ジャパン(WWFジャパン)への支援を行っています。	http://www.ctc-g.co.jp/about/csr/environment/index.html#anc_biodiversity 生物多様性保全への取組み
1-2	目標1	株式会社 熊谷組	当社施工の大山ダム(発注者:独立行政法人水資源機構、大分県日田市)の「ホテルの棲める環境づくり(ホテルIoT技術)」について、生物多様性の保全や向上に貢献する取組みを定量評価するJHEP認証を取得。	CSR報告書2015p33
2-1	目標5	花王株式会社	花王は「原材料調達調達ガイドライン」を定め、持続可能な原材料の調達に取り組んでおり、また基本原料であるパーム油や紙・パルプの調達において、原産地の森林破壊ゼロを支持しています。	http://www.kao.com/jp/corp_csr/procurement_05.html
2-1	目標12	富士通株式会社	シマフクロウの音声認識プロジェクト: 絶滅危惧種であるシマフクロウの生息域調査のため、公益財団法人日本野鳥の会に音声認識ソフトウェアを提供しています。鳴き声を自動抽出できるようになり、解析時間は大幅に削減され、効率的な調査に役立っています。	http://www.fujitsu.com/jp/about/environment/activities/japan/owl/index.html
2-1	目標9	パナソニック株式会社	商品分野の取組み: 船舶向けバラスト水処理装置	http://www.panasonic.com/jp/corporate/sustainability/downloads.html サステナビリティデータブック2017
2-1	目標12	(株)極洋	持続可能なクロマグラの完全養殖。	弊社「CSR報告書」 2017(14頁上参照) http://www.kyokuyo.co.jp/environment/report/
2-1	目標4	王子ホールディングス株式会社	国内に19万ha、海外に28万haの森林を所有・管理し、持続可能な森林経営を展開、今後も長期に亘り管理して行く。	「王子グループレポート2017」;P41~42
2-1	目標11	日本電信電話株式会社	NTT都市開発が構築した品川シーズンテラスは、武蔵野台地部と東京湾臨海部との境界部に立地しており、敷地内に整備した3.5haの広大な緑地は、両方の自然生態系の中継点としての機能が期待されている。この点が評価され、公益財団法人都市緑化機構による「社会・環境貢献緑地評価システム(SEGES)」において「緑の保全・創出により社会・環境に貢献する開発事業(都市開発版SEGES)」として認定された。	http://www.ntt.co.jp/csr/report.html NTTサステナビリティレポート2016,P084

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
2-1	目標10	中日本高速道路株式会社	【地球温暖化の抑制】当社では、高速道路ネットワークやETCレーンの整備、付加車線の設置などによる渋滞緩和により、自動車交通に起因するCO2排出量を削減しています。また、LEDなどの高効率照明器具の積極的な採用による電力消費量の抑制や、太陽光、水力発電などの再生可能エネルギーの利用により、地球温暖化の防止に貢献しています。	https://www.nexco.co.jp/corporate/csr/csr_download/NEXCO中国日本レポート2017_P48
2-1	目標14	ソニー株式会社	熊本の豊富な地下水を使用しているソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株)熊本/ソニーセンターでは「使った水はきちんと戻そう」をスローガンに、地下水の還元を目指す「地下水涵養」を実施しています。これは、NPO団体「環境ネットワークくまもと」、菊陽町および大津町の農家の皆様「水土里ネット」など多くの方々と協力して、2003年に始めて毎年継続しています。	https://www.sony-semiconductor.co.jp/kanryo/kankyo_kanyou http://www.sony.co.jp/SonyInfo/csr_report/environment/site/biodiversity/kumamoto.html
2-1	目標6	マルハニチロ株式会社	2017年12月には、ストックホルム・レジリエンス・センターが世界の科学者と大手水産企業8社に呼び掛けて実施した「キーストーン・ダイアログ」に参加。違法・無報告・無規制を意味する「IUU」漁業の削減減少を宣誓するとともに、世界初のグローバルイニシアチブである「海洋管理のための水産事業」を開始。	http://www.maruhonichiro.co.jp/csr/environment/biodiversity.html
2-1	目標4	花王株式会社	2018年末完了をめどに、パーム核を供給しているパーム油のミルの特定に努めています。また、小規模農家への原産地追跡をより確かなものにするため、2016年に第三者機関などとも協力しながら小規模農家への関わりを強めるプロジェクトについて調査を実施しました。	http://www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/sustainability2017-031.pdf
2-1	目標5	大阪ガス株式会社	オフィスビルや分譲・賃貸マンションの開発・運営を手掛けるグループ会社では、「環境との共生」を掲げ、物件の植栽に地域性種苗等を導入しています。生物多様性に配慮した植栽計画・実施への継続的な取り組みが評価され、2016年度グッドデザイン賞を受賞しました。	http://www.osakagas.co.jp/company/csr/charter02/biodiversity.html#4
2-1	目標6	日本水産(株)	国内外グループ会社を含め水産物を取り扱う会社は、持続可能な漁業の商品(MSC商品)の取扱いを行っている。	
2-1	目標5	積水ハウス株式会社	◆ゼロ・デフォorestation(生態系の破壊につながる森林破壊をゼロにする) 住宅に用いる木材について、トレーサビリティのとれた合法木材の使用を前提とし、さらに持続可能性の高い認証材や伐採地の環境・社会にも配慮した「フェアウッド」の利用を進め、2006年から独自の「木材調達ガイドライン」を設けサプライヤーの協力を得て実態調査を行って改善を進めている。最近では持続可能性の高い材(S・Aランク)が93%となっている。	サステナビリティレポート2017 p.29~ https://www.sekisuishouse.co.jp/sustainable/biodiversity/index.html
2-1	目標20	ナブテスコ株式会社	タイでのマングローブ植樹	https://www.nabtesco.com/ir/pdf/2016_12/integrated_report_2016.pdf
2-1	目標4	花王株式会社	紙・パルプは2020年までに再生紙または持続可能性に配慮したもののみの購入を目指しており、2016年末時点で認証品の購入と合わせて99%が追跡可能な紙・パルプとなっています。また、グローバルで使用する段ボールの50%をFSC認証に切り替えるという当初の年間目標を達成しました。	http://www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/sustainability2017-031.pdf
2-2	目標14	近鉄グループホールディングス株式会社	吉野線を紅葉や季節の花で華やかに彩る「吉野線 華(はな)いっぱい計画」を2016年3月から推進しています。第一期として合計1万本の樹木等を植樹し、特に福神駅から薬水駅の間は、約1kmにわたって、モミジ570本を集中的に植樹し、新たな名所化を目指しています。また、地元自治体の植樹等の取組みと連携して沿線の景観整備を図り、鉄道での旅の楽しみとおもてなしをご提供します。	http://www.kintetsu-ghd.co.jp/csr/csr_report.html CSRレポート2016 P.50
2-2	目標7	パナソニック株式会社	調達分野の取り組み: 木材の調達において、「調達排除に努める区分」に当たるものを2014年から3年連続0を達成	http://www.panasonic.com/jp/corporate/sustainability/downloads.html サステナビリティデータブック2017
2-2	目標4	味の素株式会社	生態系・生物多様性を含む自然環境の保全に貢献する、持続可能な調達の実現	味の素グループ サステナビリティデータブック2017 特集2:地球との共生 P37
3-1	目標4	エイピーピー・ジャパン株式会社	APPグループは2013年12月に「森林保護方針(FCP)」を発表し、自然林伐採の即時停止を誓約し実行に移しています。この誓約により自然林を破壊することなく、持続可能な植林により紙を生産しています。	2015年CSR報告書
3-1	目標12	戸田建設株式会社	トンネル工事における猛禽類の保全事例	http://www.toda.co.jp/solution/ecology/symbiosis/index.html
3-1	目標12	中国電力株式会社	発電所構内で繁殖している「ハヤブサ」の親子を1992年に発見し、野鳥の専門家の指導をいただきながら煙突の中段に巣箱を2000年に設置。繁殖期には保守工事を避けるなどできるだけ刺激を与えないよう配慮したところ、その後、ほぼ毎年2~3羽のヒナが育っている。	http://www.energia.co.jp/corp/active/csr/kanryou/index.html 2017環境報告書p25

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
3-1	目標15	東京急行電鉄株式会社	二子玉川ライズでは、多摩川や国分寺崖線、等々力溪谷など周辺の植生を施設内に再現することで、多摩川と国分寺崖線をつなぐ生物ネットワーク構築に貢献している。また、多摩川の生態系を維持・保全する取り組みが高く評価され、生物多様性を高める事業を評価する「JHEP(ハビタット評価認定制度)」の最高ランクAAAを取得している。	当社「環境報告書2016」該当ページ： http://www.tokyu.co.jp/csr/tkk_kankyo/pdf/data/2016envreport_focus1.pdf
3-1	目標5	カシオ計算機株式会社	環境や社会に配慮した紙の利用を社会全体で推進することを目的に立ち上げた「持続可能な紙利用のためのコンソーシアム」に2014年6月に参画、取り組みを開始しました。	http://www.casio.co.jp/csr/env/biodiversity/
3-1	目標12	パナホーム株式会社	創業50周年を機に、次代に向けて、事業活動、お客様や地域住民を含む社会からの信頼、そして、地域の生態系を保全しながら地球環境を未来につなぐ象徴として千里本社ビル横に『つながりのひろば』を開設(2013年)	http://www.panahome.jp/company/environment/social/index.html#plaza
3-1	目標5	ミサワホーム株式会社	住宅用構造材の木材をPEFC認証を取得しているフィンランド工場より調達し、生物多様性の保全を目的とした、独自の「木材調達ガイドライン」を策定し、環境目標を策定。	www.misawa.co.jp/corporate/csr/ 2017年CSRレポートp30
3-1	目標7	(株)アレフ	生物多様性に配慮したお米の調達の取り組み	
3-1		オムロン株式会社	オムロン株式会社:ピオトープ 野洲事業所は、工場からの排水を浄化するだけでなく有効活用するため、事業所内にピオトープ「ぼてじゃこの池」を設置し、環境省が絶滅危惧IA類に指定している「イチモンジタナゴ」の保護・繁殖に取り組んでいます。今では、近隣から生物多様性教育の場として、多くの方に見学のためにご来所いただいています。地域の水辺環境の原風景復元はかなりのレベルで成果を上げてきています。植物種数、昆虫種数は年々増加しています。	http://www.omron.co.jp/sustainability/environment/reduce/biodiversity/
3-1	目標7	三井住友海上火災保険株式会社	インドネシア林業省と連携し2005年からの6年間に、不法伐採により荒地化した野生動物保護林350haに約30万本を植林。2011年からは地元住民の経済的自立を目的とした農業技術指導、小学校の先生への環境教育を行い、森林再生と持続可能な地域社会の形成を目指している。2016年度より第三期を開始、苗木を住民に配布し植林・育林方法の指導等による、住民の生計向上への貢献と不法伐採の防止等を推進している	http://www.ms-ins.com/company/csr/environment/rainforest/
3-1	目標15	三菱ガス化学株式会社	『環境保全投資』と称して、投資回収期間が長いなどの理由で通常の投資案件には乗りにくい、環境負荷削減効果が大きい案件を募集・選考し、投資を実行している。この環境保全投資に、生物多様性保全に係る投資も対象としている。(現在のところ生物多様性保全として実施した事例はない。)	http://www.mgc.co.jp/csr/index.html CSRレポート2017 42ページ 環境保全投資
3-1	目標5	北海道電力株式会社	【京極発電所(純揚水式水力)における水辺環境の保全対策】 京極ダム調整池は、発電所運転に伴って調整池水位が変動し、調整池の末端は冠水と露出を繰り返す環境となります。そのため、調整池末端には、現地で発生する礫岩や木材等を用いてログダム、石組みなどを設置し、魚類の退避可能な瀬や淵を形成するとともに、川の深さや流れに変化がある水辺環境を造成しました。	北海道電力HP水力発電について http://www.hepco.co.jp/energy/water_power/kyogoku_ps/env_protection/animal_plant.html
3-1	目標9	株式会社緑生研究所	外来種駆除活動の実施	
3-1	目標5	協和発酵キリン株式会社	協和発酵キリングループでは、生態系を維持し、生物多様性を守る活動として2007年度からキリングループの水のめぐみを守る活動に取り組んでいる。2016年は、協和発酵キリン高崎工場、および宇部工場、協和発酵バイオ山口事業所で、水源の森づくり活動として、下草刈りや植林、間伐作業を実施。 また、新たな取り組みとして、海外グループ会社(タイ)では、行政と連携し、プラセー流域マングローブ林保護センターにてマングローブを500本植樹。	http://www.kyowa-kirin.co.jp/csr/environment/biodiversity/index.html
3-1	目標7	レンゴー株式会社	機密書類など未利用古紙の処理設備導入による板紙用パルプ原材料の古紙利用の拡大	http://www.rengo.co.jp/environment/koshi.html
3-1	目標8	ウシオ電機株式会社	無水銀ランプの実用化に向けた取り組み	http://www.ushio.co.jp/jp/technology/challenge/101100.html
3-1	目標7	森永乳業株式会社	紙パック飲料の一部と、アイスクリーム製品の一部にFSC認証紙を使用して、管理された森林資源の利活用をしています。アイスクリームの製品は、2018年を目標にすべての紙資材をFSC認証紙の採用を検討しています。	http://www.morinagami.co.jp/corporate/csr/pdf/2017/23_28.pdf
3-1	目標1	東亜建設工業株式会社	水域の工事における生き物への影響の見える化「水中騒音振動監視システム」 本システムは工事に伴う水中の騒音や振動が、周辺に生息する水生生物に影響を及ぼさないよう監視するものです。水中騒音振動計を水底に設置して騒音および振動を自動測定し、洋上ブイに設置した通信制御装置によって測定データを自動送信・解析します。解析データは事務所のパソコンや携帯電話など様々な場所から監視できます。 ※平成28年度水路技術奨励賞受賞	①コーポレートサイト http://www.toa-const.co.jp/techno/civileng/environment/h18/ ②2017年CSR報告書(P32) http://www.toa-const.co.jp/company/csr/csr_pdf2017/csr17_p32.pdf
3-1	目標1	日本郵船株式会社	当社は船の調達から処分までのライフサイクル全工程が生物多様性に影響を与える可能性があることを認識し、事業活動と生物多様性の関係を示すマップを作成しています。これにより船舶の調達・運航・解体の各段階での生物多様性への影響を把握しています。	NYK website 環境ページ http://www.nyk.com/csr/envi/action/biodiversity.html#a03

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
3-1	目標5	三菱ケミカル株式会社	三菱ケミカルの各事業所で地球環境貢献への取組みを活動目標に掲げ、独自の活動を行っている。ある事業所では事業所緑地帯の生息調査、原生する植物の保護により生物多様性を向上させるとともに、事業所内ボランティアで整備を行うことで従業員の意識を向上させる取組みを実施している。	2016年よりスタートしており今後各レポートで紹介予定
3-1	目標12	日本ケミコン株式会社	山形県の事業所にて県の保護蝶であるチョウセンアカシジミが幼虫時代に食物とする「デワノトネリコの木」の植樹に力を入れ保護活動を行っている。	ケミコンレポートp32(統合報告書:2016年11月発行) http://www.chemi-con.co.jp/ir/ird_report.html
3-1	目標6	味の素株式会社	水産資源の持続可能性を高めるカツオ生態調査(大学や国内外研究機関との協働によるカツオ回遊ルートの調査)	味の素グループ サステナビリティデータブック2017 特集2:地球との共生 P38 https://www.ajinomoto.com/jp/activity/sustainability/skipjack/
3-1	目標10	株式会社 安藤・間	東日本大震災で岩手県陸前高田市に壊滅的な被害を与えた大津波は気仙川河口からも侵入しその流域に多大な被害を与えました。当社は津波に備えて気仙川河口に水門を新設しています。気仙川は毎年秋に多くの鮭が遡上してくる河川として知られています。工事にあたっては鮭が遡上する時期には、河川に濁りが生じるような工事を行わない、また、大きな振動や騒音が生じない工法を採用するなど環境に配慮して施工を進めています。	http://www.ad-hzm.co.jp/csr/csr_2017.html CSR報告書2017P33
3-1	目標5	トヨタ自動車株式会社	トヨタ及びグループの22社で「オールドヨタ自然共生ワーキンググループ」を立ち上げ(2015年)、森林保全、生態系保全などの取組みの拡大、情報発信の充実、グループの連携強化を図っています。2016年度は、国内で116件の活動を実施しました。	環境報告書2017p36 http://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/report/archive/er17/pdf/er17_full.pdf
3-1	目標3	サッポロホールディングス株式会社	ポッカサッポロは、森林の保全、育成に欠かせない間伐材を含む国産材を30%以上使用した紙製飲料容器のカートカンを採用しています。国産の木質資源を活用するとともに、売上げの一部を「緑の基金」に寄付することで、日本の森林を守り育てる一助となっています。健全な森林の保全・育成はCO2の吸収を促し、地球温暖化を防ぐことはもちろん、森で生活する動植物などの生態系保全にも役立ち、豊かな国土を守ることにつながります。	http://www.sapporoholdings.jp/csr/earth/nature_3.html
3-1	目標1	三菱電機株式会社	「事業所の生物多様性保全活動」3つの方向性(生きものへの負の影響を低減する/生きものとのより豊かな共生をめざす/働く中で社員が自然との関係を取り戻す)、と施策を実行し、事業所での生物多様性に配慮した緑地づくりなどを行なっています。	http://www.mitsubishielectric.co.jp/corporate/environment/biodiversity_preservation/index.html
3-1	目標12	日本精工株式会社	工場の敷地内に生息・生育している貴重な動植物(レッドデータリスト掲載種)について、保護しながら、毎年生息・生育状況のモニタリングを継続しています。	2013年CSR報告書P.45
3-1	目標7	㈱ニチレイ	水産・畜産事業を手掛ける当社グループでは、2006年からインドネシア・カリマンタン島において「生命(いのち)の森プロジェクト」を展開しています。これは、粗放養殖されたブラックタイガーえびの収益金の一部を使い、現地生産者と協働で実施しているマングローブ林の再生プロジェクトです。この活動には地元企業を通じWWFインドネシアも参画しています。現在までにマングローブの植樹面積は東京ドーム65個分にのびます。	http://www.nichireifresh.co.jp/environment/ニチレイフレッシュHP
3-1	目標12	近鉄グループホールディングス株式会社	「シカ踏切」シカは、線路をはさんで存在する生息域を行き来しますが、線路周辺に設置された「獣害防止ネット」がガードレールの役割をしてシカが入り込むのを防ぎつつ、ネットの張られていない場所をシカが通るように誘導し、その場所に設置した装置から、列車運行時間帯はシカが嫌がる「超音波」を出して、鹿を横断させず、列車が通らない時間帯は自由に横断してもらった仕組みで、超音波が踏切の代わりになります。	http://www.kintetsu-group.co.jp/csr/csr_report.html CSRレポート2016 P.50
3-1	目標18	㈱三菱東京UFJ銀行	大規模プロジェクトによる環境・社会リスクと影響を特定、評価し、管理するための枠組みである「赤道原則」の採択と遵守を通じ、持続可能な環境・社会の実現に貢献。	http://www.mufg.jp/csr/juten/sustainability/sکیدou/
3-1	目標5	東日本旅客鉄道株式会社	「ふるさとの森づくり」として、2004年から継続して、その土地固有の樹木を植えて森を再生させる活動を実施しており、これまでに福島県大玉村・二本松市、新潟県津南町・十日町市・小千谷市、宮城県大崎市の各箇所にて実施した。累計約15万7500本を植樹、約1万1千人が参加している。	JR東日本グループ CSR報告書2017(WEB版p.121) http://www.jreast.co.jp/eco/report/2017.html
3-1	目標4	富士ゼロックス株式会社	お客様に販売する用紙・自社内で利用する用紙を調達する上で、用紙調達規則を設定し、現地監査や環境管理役員を議長とする会議体での確認等を行い、森林資源の持続性や生物多様性への配慮、地域社会との調和を図った用紙の安定調達を実施しています。	①グリーン市場拡大のためのグリーン購入大賞(第18回)優秀賞受賞 http://www.gpn.jp/press_release/G.taisho/release_171109.pdf ②Sustainability Report 2017 P36 http://www.fujixerox.co.jp/company/csr/sr2017/booklet.html

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
3-1	目標5	(株)ニコン	森林資源の保全の一環として2013年に「紙調達方針」制定。森林資源の持続的な利用に配慮した紙への転換を推奨している。使用量が多く社会への影響が大きい紙資源から優先的にFSC森林認証紙への転換を進め、国内では映像事業の全商品カタログや、ニコンのコーポレート部門が発行する印刷物、社用封筒および名刺などをFSC森林認証紙に転換。2017年3月期からは、映像事業以外の製品のカタログ、使用説明書などについても転換を進めている。	http://www.nikon.co.jp/sustainability/environment/resource-circulating.pdf P43 http://www.nikon.co.jp/sustainability/environment/paper_procurement_policy.pdf
3-1	目標12	戸田建設株式会社	トンネル工事におけるホタルの保全事例	http://www.toda.co.jp/solution/ecology/symbiosis/index.html
3-1	目標3	高砂熱学工業株式会社	「環境保全への貢献」 各分野における環境保全への取り組み状況と成果の認識。	TAKASAGO CORPORATE REPORT 2017 P. 21 https://www.tte-net.com/csr/pdf/csr_2017.pdf
3-1	目標18	第一三共株式会社	生物多様性指標の導入 第一三共国内グループの事業活動における全ての環境負荷について、いであ株式会社を通じ、NGOであるGlobal Footprint Networkの専門家と協業し、生物多様性に係る指標である「エコジカル・フットプリント(EF)」を算定しました。責任ある企業活動の一環としてEFを活用し、生物多様性に配慮した活動を推進することで、愛知ターゲットの実現に協力していきます。	https://www.facebook.com/bd20maru/ にじゅうまるプロジェクト Facebook
3-1	目標4	キリンホールディングス株式会社	【スリランカの紅茶農園におけるレインフォレスト・アライアンス認証取得支援】キリンググループは2013年から良質な茶葉の産地であるスリランカの紅茶農園の持続性向上に向けた取り組みを展開している。内容は自ら持続可能性を高める意欲がある農園を支援するためレインフォレスト・アライアンス認証の取得に向けたトレーニング費用の助成である。2016年までの累計で90以上の紅茶農園がトレーニングを開始し、40農園が認証を取得している。	http://www.kirinholding.co.jp/csv/env/bioresour/blacktea.html
3-1	目標7	スズキ㈱	「スズキ下川テストコースの森林」適正管理 スズキのテストコースは、森林が90%を占める北海道北部の下川町にあります。下川町は2003年に北海道で初めて国際的なFSC®森林管理認証を取得し、テストコース敷地に含まれる約303haの森林も2006年に追加認証されました。(FSC®C015134)	スズキ環境・社会レポート2016(森林保全活動) http://www.suzuki.co.jp/about/csr/report/2016/pdf/2016_envj_06_05.pdf
3-1	目標4	三井住友トラスト・ホールディングス株式会社	生物多様性問題の解決に貢献する金融商品・サービスを提供。①日本経団連自然保護基金の公益信託を受託・運営 ②トラスト地の買取に寄付する社会貢献寄付信託を販売 ③生態系への配慮や認証制度をとり入れた環境配慮型建築コンサルティング ④自然資本評価を組み入れた環境格付融資の提供 ⑤生物多様性に配慮する企業に投資する生物多様性SRIファンドの販売。	CSRレポート2016 (p.19-25) http://smth.jp/csr/report/2016/full/all.pdf
3-1	目標12	株式会社三井住友フィナンシャルグループ	アースウォッチジャパンと連携を行い、東北被災地の干潟における生態系調査のボランティア活動に従業員が参加。	
3-1	目標12	中国電力株式会社	発電所における防波護岸前面の海域に人工リーフ(浅瀬)を設置することにより、水深が浅くなったことで、海底面に太陽光が届きやすくなり、クロメなどの海藻草類や魚介類の良好な繁殖・生育の場となっている。海藻草類の生息状況について、適宜調査を実施し、順調な生息を確認している。	http://www.energia.co.jp/corp/active/csr/kankyou/index.html 2017環境報告書p24
3-1	目標4	東京急行電鉄株式会社	当社では、町田市と共同で、南町田駅南エリアにおける「南町田拠点創出まちづくりプロジェクト」を推進している。駅・商業施設・鶴間公園・境川のつながりを生み出すことで、地域の回遊性とにぎわいを創出し、水と緑の魅力を生かした新しい豊かなパークライフの実現を目指している。	当社ニュースリリース： http://www.tokyu.co.jp/company/news/list/Pid=2528.html
3-1	目標6	JFEホールディングス㈱	「海洋生態系を守る」 JFEパラストエース®は、船舶のパラスト水に存在する生物を除去・殺菌する水処理システム。「パラスト水管理条約」による船舶へのパラスト水処理装置の搭載要求に対応するシステムで、各地で注水・排水が繰り返されるパラスト水に含まれる海洋生物による生態系の乱れを防ぎ、海の生態系保護に貢献します。	http://www.jfe-holdings.co.jp/environment 2017CSR報告書p30
3-1	目標19	キヤノン株式会社	4万5,000㎡ある敷地面積のうち82%が緑地であるキヤノンリサーチセンターフランスでは、2011年からフランスの野鳥保護団体「LPO」の助言のもと、敷地内の定期的な生物多様性調査を行っています。緑地整備方針を見直し、生物多様性の保全や生息する生物種の拡大をめざし、活動しています。	http://global.canon/ja/csr/report/pdf/canon-sus-2017-j.pdf キヤノンサステナビリティレポート2017 P24
3-1	目標4	株式会社セブン&アイ・ホールディングス	持続可能な漁業を実践するアラスカ産水産物の特長を社内外に伝えています。2017年度は、8月に販売強化月間として、セブン-イレブンの一部店舗で、アラスカ産鮭を使ったオリジナル商品セブンプレミアム「紅鮭の塩焼き」にPOPをつけて、「天然」「環境に配慮」などの特長をPRしました。また、スーパーマーケットや百貨店店頭で、販売会も開催しています。その他、社員食堂でのメニュー提供を通じて社員にも啓発を実施しています。	http://www.7andi.com/csr/theme/theme5/raw-material.html

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
3-1	目標12	パナホーム株式会社	『つながりのひろば』にて地域の生態系のネットワーク、絶滅危惧種を保全 (ミナミメダカ:H25.6月 30匹放出→H29.6月 推定1500匹) (カワバタモロコ:H25.6月 30匹放出→H29.6月 推定100匹)	http://www.panahome.jp/company/environment/social/index.html#plaza
3-1	目標7	住友林業株式会社	社有林において「生物多様性保全に関する基本方針」を定め、全社有林の森林認証の取得、環境林の設定、生態系に大きな影響を及ぼす施業の禁止、生物多様性豊かな水辺を保全するマニュアルの制定、社有林に生息する動植物をまとめたレッドデータブック作成などを行っている。	http://sfc.jp/information/society/environment/performance/preservation/preservation02.html
3-1	目標5	積水化学工業株式会社	国内すべての生産事業所・研究所において緑地の質向上を目指しています。2016年度は、土地利用通信簿の評価点が全社平均で13.4ポイント向上しました(2013年度比)。	2016年CSRレポートp27
3-1	目標4	JXTGエネルギー株式会社	環境負荷低減活動	http://www.noejxtg-group.co.jp/csr/environment/reduce/index.html
3-1	目標9	丸紅株式会社	コンパクトかつ低コストでオペレーションが可能なパラスト水処理装置の普及を通じて、海洋生態系保護の取組みに貢献している。	アニュアルレポート2017 P.85 http://www.marubeni.co.jp/ir/reports/annual_report/data/ir2017_jp_06.pdf
3-1	目標7	凸版印刷株式会社	森林資源の持続可能な利用のため、トップグループ「森林資源の持続可能な利用に配慮した用紙調達ガイドライン」を2011年9月に策定しました。同ガイドラインに基づき、紙の原料となる木材が合法的に採取されたものであるか取引先に確認をしています。また、森林認証制度FSC CoC認証やPEFC CoC認証の取得範囲拡大に取り組んでいます。	TOPPAN CSRレポート2017 P32「CSR調達の推進」 http://www.toppan.co.jp/csr/environment/biodiversity.html
3-1	目標7	レンゴー株式会社	板紙用パルプ原材料の持続可能な森林資源からの調達とFSC認証パッケージ製品の供給体制の確立	環境・社会報告書2017 27頁参照 http://www.rengo.co.jp/news/2016/16_news_009.html
3-1	目標6	(株)極洋	MSC, ASC認証製品の製造販売	弊社「CSR報告書」2017(13頁左下参照) http://www.kyokuyo.co.jp/environment/report/
3-1	目標5	九州電力株式会社	○阿蘇・くじゅう国立公園区域内を中心に保有する社有林(4,447ヘクタール)を適切に維持・管理(2005年3月、国内の電力会社で初めてFSC(森林管理協議会)の森林管理認証取得)	2017九州電力環境アクションレポート(P32) http://www.kyuden.co.jp/environment_booklet_action-report17.html
3-1	目標1	三井化学株式会社	「田んぼには、害虫以外に多くの生きものが生息していることを、より多くの方に知ってもらいたい」との思いから、当社関係会社の三井化学アグロ(MCAG)は、2012年から自社製品を使用した水田で「田んぼの生きもの調査」を実施しています。	http://www.mitsuichem.com/jp/csr/rc/environment/biodiversity.htm
3-1	目標5	住友商事株式会社	主に中南米での生物多様性保全への貢献を目的に、渡り鳥に優しい「バードフレンドリー@コーヒー」の日本向け輸入を推進。認証によりトレーサビリティを確立し、消費者が認証農園を指名買収できる仕組みを構築することで、木陰栽培かつ有機栽培にて森林農業を守り、渡り鳥を保護していく活動に貢献。2016年10月、環境省・農林水産省後援の「第5回いきものにぎわい企業活動コンテスト」で審査委員特別賞を受賞。2017年3月、「くじゅうまるプロジェクト」に登録	(弊社HP参照) http://www.sumitomocorp.co.jp/business/article/id=245
3-1	目標11	清水建設株式会社	岡山県瀬戸内市錦海塩田跡地の瀬戸内Kirei太陽光発電所建設プロジェクトでは、汽水域特有の生態系を有する環境の中、敷地490haのうち発電用地は265ha、残りは公有水面とヨシ原からなる保全エリアに設定。そのうち16haの乾燥化が進んできた既存湿地を、当社開発のエコジカル・ランドスケープ手法を活用し、かつての湿地に復元するだけでなく、これまで以上の環境を創出することを旨とした生物多様性空間「錦海ハビタット」として創出した。	https://www.shimz.co.jp/company/about/report/pdf/report2016.pdf ジスコレポート2016 p50-51
3-1	目標5	西松建設株式会社	施工現場では、伐採を最小限に抑えるほか、様々な生物多様性保全活動を実施しています。2016年度は、203現場(全現場の84%)で活動しました。2020年度までに全ての現場での実施を目指しています。また、NPOを連携し毎年、特定外来植物の駆除活動を行っています。	https://www.nishimatsu.co.jp/csr/environment/ecofirst.html 2017年コーポレートレポートp32
3-1	目標1	東亜建設工業株式会社	水域の底質浄化による生物棲息域の確保「覆砂工法の調査・設計・加工」 内湾や湖沼での水質環境悪化を抑える底泥の改善方法として、浚渫(取り除く)と覆砂(封じ込め)が行われてきましたが、超軟弱な底泥を対象とするため、対象底泥の特性を考慮した工事の設計、施工管理が不可欠となります。当社では覆砂工法について、現在までの知見と研究成果を取りまとめ、沿岸域の干潟や浅場の再生に不可欠な砂の投入、施工に関するノウハウを提供しています。	コーポレートサイト http://www.toa-const.co.jp/techno/civileng/environment/h11/

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
3-1	目標7	王子ホールディングス株式会社	適切に管理された森林から伐採された木材を原料とすることが認証された、森林認証製品(印刷用紙、衛生紙等)を製造・販売している。	"王子グループレポート2017";P43
3-1	目標6	新日鐵住金株式会社	当社は、近年環境問題として全国的に危惧されている"海の磯焼け"の改善に向けた"海の森づくり"も推進しています。"磯焼け"現象の原因のひとつに、森林の伐採や川の上流の開発などによって、河川を通じたコンブやワカメなど藻類の生育に必要な"鉄分"の供給が減少したことが挙げられています。この課題に対し、当社は2004年から鉄鋼スラグと廃木材由来の腐植物質を混合した鉄分供給ユニットを開発し、藻場の造成に取り組んでいます。	http://www.nssmc.com/csr/env/sea.html 環境・社会報告書2017 p32・33
3-1	目標4	サントリーホールディングス株式会社	サントリーは「水のサステナビリティ」実現のために、「天然水の森」整備活動を基幹事業として取り組んでいます。2016年時点でおよそ8,000ha超の面積で森林保全・再生活動を展開しており、2020年までに12,000haに拡大することを目標としています。これは国内自社工場で使用する地下水量を育む面積の2倍に相当します。	http://www.suntory.co.jp/eco/forest/
3-1	目標1	東レ株式会社	東レグループの事業活動と生物多様性との関係性マップを作成し、生物多様性への影響の把握と、生物多様性保全に貢献する製品を特定した。	http://www.toray.co.jp/csr/activity/safety/biodiversity.html 東レグループCSRレポート2017(P64)で公開
3-1	目標5	株式会社大林組	自社ホームページ上の、つながるいきもの、及び、大林組の取り組み「生物多様性の保全」にて、事業活動や顧客の事業への協力などを通じた、当社の取り組みについて紹介しています。(トピックが多数あり、愛知目標5、7、10、12、行動指針3-1、5-2、5-3、6-2、7-2に該当)	http://www.obayashi.co.jp/eco/biodiversity/ 及び http://www.obayashi.co.jp/csr/environment/biodiversity%okuyama
3-1	目標7	㈱ニチレイ	「北カリマンタン海と森の保全プロジェクト」への参画。インドネシア/カリマンタン島で、「海」と「森」の両方で活動を展開しています。「海」の活動では、「ASC認証」取得に向け養殖の改善を行い、2017年、ブラックタイガーの養殖としてはインドネシア初となるASC認証を取得しました。「森」の活動では、ボルネオゾウ等の野生生物の生息地保全やゾウと地域住民の衝突回避のために、普及啓発やトレーニングを実施します。	http://www.nichireifresh.co.jp/environment/ニチレイフレッシュHP
3-1	目標7	総合警備保障株式会社	ALSOKでは、生物多様性の保護に貢献する有害鳥獣対策サービスを提供している。本サービスは、ICTを活用したわな監視装置から、わな(箱・囲いわな)の作動を関係者にメール配信するもの。捕獲従事者の負担軽減や鳥獣被害の拡大防止などにより、里山の生態系維持に貢献している。	https://www.alsok.co.jp/company/society/env/ironment/
3-1	目標5	東日本旅客鉄道株式会社	「鉄道沿線からの森づくり」として、1992年から鉄道沿線での植樹活動を開始。現在は鉄道沿線の枠を超えて、地域との連携による植樹も行っており、累計約34.3万本を植樹、約5万人が参加している。	JR東日本グループCSR報告書2017(WEB版p.121) http://www.jreast.co.jp/eco/report/2017.html
3-1	目標4	キリンホールディングス株式会社	【紙・印刷物への対応】2017年に「行動計画」を改定し、2020年までに紙容器をすべてFSC認証紙に切り替えていく活動を開始した。2017年6月末時点でビール6缶パック250ml、350ml、500mlでFSC認証紙使用率100%、清涼飲料用紙パックで使用率60%である。2017年10月よりビールギフト箱もFSC認証紙に切り替えた。	http://www.kirinholding.co.jp/csw/env/bioresouce/print.html
3-1	目標12	株式会社三井住友フィナンシャルグループ	わたりグリーンベルトプロジェクトと連携し、東北の防潮林の再生支援をボランティア活動として継続的に実施。	http://www.smfgroup.com/responsibility/whatsnew/2017/2017_04.html
3-1	目標4	住友林業株式会社	グループとして「調達方針」を設け、生物多様性にも配慮した調達を推進している。また、2020年度を目標達成年度としたCSR中期計画では、森林認証材、植林木、国産材など持続可能な木材の使用・取扱いを拡大する目標を設定して取り組んでいる。	http://sfc.jp/information/society/social/business_partner/index.html
3-1	目標6	積水化学工業株式会社	排水先の水生生物にとって安全な水環境を確保し、排水による悪影響を未然に防止することを目的に、2013年度よりWETによる排水評価を実施しています。2016年度は新たに2事業所で評価を実施し、これまでの4年間で生産事業所から公共用水域に排出される水の96%の確認が完了しました。	http://www.sekisui.co.jp/csr/eco/env_return/biodiversity/index.html
3-1	目標5	アズビル株式会社	アズビル京都株式会社での取組み アズビル京都は、山々に囲まれた地域に立地しています。まわりの自然とどのように共生していくか、認定NPO法人アースウォッチ・ジャパン、京都大学とともに、斜面の木々の調査や整備に取組んでいます。	http://www.azbil.com/jp/csr/basic/environment/biodiversity.html
3-1	目標7	(株)アレフ	持続可能な仕入れ調達を維持するコーヒー	
3-1		オムロン株式会社	オムロンオートモーティブエレクトロニクス株式会社: 飯田市の天然記念物「ギフチョウ」の保護に協力 オムロンオートモーティブエレクトロニクス(株)飯田事業所は桐林環境産業公園内に位置します。工場を建設するにあたり、太陽光に弱いギフチョウに配慮した壁の色としたり、連絡用道路の整備を断念して市道を利用するなどしています。ほかにも、ギフチョウの調査研究を続ける市民団体の開催する観察会への駐車場貸し出しなどを行っています。	http://www.omron.co.jp/sustainability/environment/reduce/biodiversity/

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
3-1	目標11	三井住友海上火災保険株式会社	駿河台ビルは、1984年のビル竣工時から、都心の本社ビルのあり方として、「周辺環境との調和」を理念の一つとし、既存樹の活用や高木の植栽に耐えられる構造を供えた屋上庭園の築造等を実施し、企業の緑化取組の先駆けとして、外部から高い評価を得ている。新館の緑地管理及び駿河台ビル改修に際し、新しい技術を用いた緑化や地域の生物多様性に配慮した緑化等、「緑のもつ力」を最大限表現することを目指した。都市緑化機構「みどりの社会貢献賞」を受賞。	http://www.ms-ins.com/company/csr/environment/afforestation/
3-1	目標11	凸版印刷株式会社	2014年3月に竣工した群馬センター工場の緑化計画は、土地開発における生物多様性配慮の社内規定により、第三者評価を実施し、都市緑化機構が認定する社会貢献緑地「都市開発版SEGES」の認定を受けました。	http://www.toppan.co.jp/news/2013/04/news_release0412.html http://www.toppan.co.jp/news/2015/05/news_release150522_1.html
3-1	目標12	ライオン株式会社	大阪工場では、2010年から和歌山県みなべ町千里浜海岸にて、NPO法人日本ウミガメ協議会などと協働で「ウミガメ保護活動」を行っている。産卵地ではためぎによる食害に悩まされていたが、防護柵の設置・改良が成功し、2016年に被害"0件"を達成した。さらにはウミガメの生態を把握するための孵化率調査や海浜生態系保全のため、海岸漂着物の除去活動も行なっている。	http://www.lion.co.jp/ja/csr/biodiversity/report/category/126
3-1	目標8	ウシオ電機株式会社	飲料水ディスペンサー向け水処理UVユニットの開発	http://www.ushio.co.jp/jp/news/1003/2017-2017/500232.html
3-1	目標11	九州電力株式会社	○2005年の台風14号により、宮崎県の耳川流域で土砂に起因する甚大な災害が発生したことを受け、当社は県主催の「耳川水系総合土砂管理に関する委員会」に参加 ダム貯水池に流れ込む土砂を下流に流す「ダム通砂運用」により、川底上昇に伴う浸水被害の低減をはじめ、下流河川や沿岸域における川底低下や海岸浸食の抑制、河原の洗浄効果の促進など、生態系を含む流域環境の改善への取組みを推進	2017九州電力環境アクションレポート(P30) http://www.kyuden.co.jp/environment_booklet_action-report17.html
3-1	目標7	三井物産株式会社	国内の社有林(4万4千ヘクタール。日本の民有林で4番目の広さ)全てを対象に、日本独自の森林認証SGEC(2006年取得)と国際森林認証FSC®(2009年取得)を保持。FSC®認証取得を機に、森林区分に生物多様性保護林を追加(全社有林面積の1割)し、生物多様性の保全により踏込んだ森林管理を推進。(愛知目標18にも該当)尚、SGECは16年、FSCと並ぶ国際森林認証PEFCと相互承認されたことにより、当社として二大森林認証を保持。	(三井物産WEBサイト)三井物産の森 http://www.mitsui.com/jp/ja/sustainability/contribution/environment/forest/
3-1	目標5	住友化学株式会社	オイスカと共同で、タイ・ラオーン県で、住友化学の森マングローブ植林活動に取り組んでいる。	https://www.sumitomo-chem.co.jp/csr/report/docs/SDB2017_p54-71.pdf サステナビリティデータブック2017 P.66、74
3-1	目標1	東亜建設工業株式会社	カルシア改質材(製鋼スラグのリサイクル材料)を用いた藻場・浅場・干潟造成 港湾等の粘土・シルト分の多い軟弱な浚渫土砂にカルシア改質材を混合したカルシア改質土を用いて濁り抑制、強度付与による土砂性状の改質を行い、藻場・浅場・干潟造成、窪地の埋戻し等に利用します。カルシア改質材に含まれるカルシウム分の作用により、浚渫土に含まれるリン酸や硫化物の発生抑制効果が確認され、水質改善も期待できます。	コーポレートサイト https://www.toa-const.co.jp/techno/civileng/recycling/g10/index.html
3-1	目標9	日本郵船株式会社	パラスタ水管理条約(海洋環境に影響を及ぼす水生生物の越境移動を防止するための条約)の発行前から国土交通省の型式承認を受けたパラスタ水処理システムの搭載を進めており、2017年3月末現在、計70隻に搭載完了し、今後も搭載を順次進めていきます。	NYKレポート2017 P.70 http://www.nyk.com/ir/library/nyk/pdf/2017_nykreport_all.pdf
3-1	目標5	ユニ・チャーム(株)	2017年10月の「SDGsとFSC認証に関するバンクーバー宣言」に賛同し、世界57社の1社となり認証材の生産拡大を促した。	https://jp.fsc.org/jp-jp/news/id/433
3-1	目標12	前田建設工業株式会社	■絶滅危惧種昆虫の保護 東日本大震災で被災した宮城県名取市閉上(ゆりあげ)水門の撤去・新設および護岸築堤工事の際、掘削土仮置き予定地に絶滅危惧1類に指定されているハンミョウ科昆虫の巣が確認されました。このハンミョウ科昆虫の保護を目的に、専門家の指導を受け、隣接した同環境の場所へ巣を移すこととしました。移設後の巣の状態も発注者・研究者に確認していただき、適切な処置であると評価を受けました。	http://www.maeda.co.jp/csr/report/pdf/2017/2017_report.pdf 2017年CSR報告書P43
3-1	目標4	富士フイルム株式会社	富士フイルムグループは、「環境に関する社会課題の解決への貢献」を目指し、環境配慮設計に基づく「環境価値の高い製品・サービスの開発・普及」を進めている。2010年には「生物多様性方針」の具現化取組として、環境配慮設計に「生物多様性保全」の観点(*)を組み込み、設計段階より生物多様性も考慮し製品開発を進めている。 (*)「製造での生態系への影響回避・最小化」「生物資源の持続的供給に関するリスクマネジメント」の2点。	http://www.fujifilm.co.jp/corporate/environment/preservation/design/index.html
3-1	目標12	中日本高速道路株式会社	【地域環境への配慮】当社では、高速道路の建設における動植物の生息・生育基盤の消失や移動経路の分断などを最小限におさえるため、エコロード(自然環境に配慮した道)づくりに取り組んでいます。希少な動植物の移植や、高速道路内への動物侵入対策など、地域環境へ配慮した高速道路事業を展開しています。	https://www.c-nexco.co.jp/corporate/csr/csr_download/NEXCO中日本レポート2017 P50

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
3-1	目標12	株式会社大林組	当社が建設工事を進めているニュージーランド最大規模の高速道路建設プロジェクト「ウォータービューコネクショントンネルおよびグレートノースロードインターチェンジ建設工事」では、地元の市議会や住民の合意のもと、3か所で小川を移設し、1,000匹を超えるウナギの捕獲再放流、固有種の生息保護区域の整備・拡張のほか、希少な植物の移植を行いました。この取組は、環境保護先進国である同国において、高い評価を受けています。	コーポレートレポート 2016 P.48 http://www.obayashi.co.jp/uploads/File/ir/report/2016/ir2016.pdf
3-1	目標7	㈱ニチレイ	「あさりの持続供給を目指した黄海エコリージョンの保全活動」黄海は水産資源の過剰漁獲が進むとともに埋め立てや干拓などの沿岸開発によって沿岸湿地が大幅に減少しつつあります。この活動はニチレイの生産現場や渡り鳥の中継地として重要な地域の一つである鴨緑江河口域沿岸であり漁業の改善活動を展開していきます。環境に配慮した水産物であることを保証する「MSC認証」取得を目指し、黄海沿岸の自然や生物多様性の保全に向けて取り組んでいきます。	http://www.nichireifresh.co.jp/environment/ ニチレイフレッシュHP
3-1	目標5	東日本旅客鉄道株式会社	「鉄道林の整備」として、鉄道を雪や風等から守るために設けられた鉄道林を整備する活動を行っている。現在JR東日本では、約1800カ所に約3900ヘクタールの鉄道林を保有しており、JR東日本で排出するCO2(2016年度実績)の0.7%にあたる1.5万トンを吸収するなど、沿線の環境保全に貢献している。	JR東日本グループ CSR報告書2017(WEB版p.121) http://www.jreast.co.jp/eco/report/2017.html
3-1	目標12	キリンホールディングス株式会社	【ピオトープ】キリンビール横浜工場では2011年4月に策定された生物多様性横浜行動計画「ヨコハマプラン」に賛同した取り組みとして地域のNPO法人と連携しピオトープを整備。絶滅が危惧される地域在来のメダカや、ホトケドジョウを生息域外保全している。キリンビール神戸工場でも、場内のピオトープにおいて地域の研究機関と協働し、絶滅が危惧されるカワバタモロコの定着に成功している。これらは地域のこどもたちの環境教育プログラムにも活用されている。	http://www.kirinholding.co.jp/csr/inv/bioresour/stakeholder.html
3-1	目標1	カシオ計算機株式会社	生物多様性に与える影響を調査するために、グループの主な拠点の生物多様性調査を実施しました。	http://www.casio.co.jp/csr/inv/biodiversity/
3-1	目標7	(株)アレフ	資材の取組み(FSCミックス紙ナフキン、カーボンニュートラル原料を意図した作業用ゴム手袋、木製ディッシュ皿の素材選定およびリユース)	
3-1	目標9	ライオン株式会社	2014年よりライオン・スペシャリティ・ケミカルズ 四日市工場では、地元NPOが主催する、伊勢湾流域の吉崎海岸における砂浜植生の保全活動に参画しています。ウミガメが産卵できる良好な砂浜生態系の保全を目標として、NPO、地域まちづくり協議会、地域住民などと連携しながら、コマツヨイグサなどの外来植物の駆除活動および海岸清掃活動に取り組んでいます。	http://www.lion.co.jp/ja/csr/biodiversity/report/category/237
3-1	目標6	株式会社ファンケル	【製品開発】マイクロプラスチックビーズへの対応 2016年5月以降、日本で販売している洗い流し化粧品には「マイクロプラスチックビーズ」の配合を廃止。	http://www.fancl.jp/csr/inv/biodiversity.html
3-1	目標5	住友商事株式会社	2015年9月に完工したマダガスカル共和国の鉱山開発事業「アンバトビー・プロジェクト」は、操業期間約30年間、年間生産量はニッケル6万トン、コバルト5,600トンの世界最大級。レアメタルの安定供給に寄与するだけでなく、生物多様性をはじめとする徹底した環境保全を通じて、現地社会の持続可能な発展に貢献。国連環境計画、国連人道問題調整事務所、GCIの共催で、2015年、「Green Star Award」を受賞。2017年、国連SDG Industry Matrix での事例に採択。	(弊社HP参照) http://www.sumitomorpc.co.jp/business/article/id=235
3-1	目標1	東亜建設工業株式会社	生物多様性簡易評価ツール「いきものプラス™」の開発 本ツールは、CASBBE(建築環境総合性能評価システム)における生物多様性関連評価項目に着目し、生物多様性への取組みを簡易に評価するものです。設計者が敷地情報や取組み内容をパソコンに入力するだけで、建築環境総合評価システム「CASBBE」に準じた生物多様性に関する評価を点数で示します。 ※同業8社と開発	①リリース(2014年) http://www.toa-const.co.jp/company/release/2014/140226.html ②コーポレートサイト http://www.toa-const.co.jp/techno/construction/sound/1101/
3-1	目標12	日本郵船株式会社	当社では昨年度より認定特定非営利活動法人アースウォッチ・ジャパンと協働し「紀州みなべのアカウミガメ調査」プログラムを立ち上げ、今年2017年7月には当社グループ社員13人がボランティアとして参加しました。夜間に産卵のため上陸したアカウミガメの個体識別標識の確認や装着を手伝い、また測定器を使い甲羅の長さ・幅を計測しました。事業に密接な関わりがある海洋環境、生物多様性の保全活動を通じて、より豊かな海の実現に向けて貢献していきます。	NYK webside ニュースリリース http://www.nyk.com/news/2017/1188357_1521.html
3-1	目標5	ユニ・チャーム(株)	生物多様性や人権に配慮した認証油を購入出来るようにRSPO準会員となった。	http://www.unicharm.co.jp/csr-eco/environment/biodiversity/index.html
3-1	目標12	日本電信電話株式会社	NTTグループでは生物多様性に与える影響を最小限化する活動に継続的に取り組んでおり、通信設備の設置方法の工夫や緑地化などに取り組んでいます。一例としては、新規データセンタの構築時には地域固有の植生を活かした緑化や「建築環境総合性能評価システム(CASBBE)」で最高評価のSランク取得をめざした提案に努めています。	http://www.ntt.co.jp/csr/pdf/sustainability_report_2017_046-076.pdf NTTサステナビリティレポート2017
3-1	目標4	(株)日立物流	・従業員用手帳や社内報、アニュアルレポート用紙は、森林環境保全に配慮したFSC認証パルプを使用しています。	http://www.hitachi-transportssystem.com/jp/ir/library/annual/

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
3-1	目標14	近鉄グループホールディングス株式会社	近鉄不動産㈱と㈱大京が建設したマンション「ライオンズ港北ニュータウンローレルコート」が、2015年2月に、一般社団法人いきもの共生事業推進協議会(ABINC)の「いきもの共生事業所認証(集合住宅版)」を集合住宅として初取得しました。	http://www.kintetsu-g-hd.co.jp/csr/csr_report.html CSRレポート2016 P.54
3-1	目標4	イオン株式会社	イオンモール多摩平の森がABINC特別賞を受賞。店舗が周辺の自然環境や生態系におよぼす影響を出来る限り少なくするため、生態系の保全と創出に配慮した店舗を開発。2013年度から、東員、多摩平の森、常滑、四条畷、堺鉄炮町、長久手の6店舗で「いきもの共生事業所認証」を取得。2016年10月には、多摩平の森の屋上ビオトープや雨の庭設置などが評価され、第1回ABINC賞特別賞を受賞しました。	http://www.aeon.info/environment/environment/ecostore/
3-2	目標14	株式会社 イトーキ	当社が販売するチェア1機種と環境社会報告書をインドネシアの泥炭地保全により創出されたREDD+「Katingan Peatland Restoration and Conservation Project」でオフセットを実施 ※チェアのREDD+のオフセットは今年1月から実施	https://www.itoki.jp/sustainability/carbon_offsets/
3-2	目標4	住友ベークライト株式会社	住友ベークライトの事業活動は、自然からの恵みに依存しており、生物多様性の保全が重要であることを認識し、環境負荷低減の推進や調達方針に反映しています。	CSRレポート2017 http://www.sumibe.co.jp/csr/report/files/csr2017.pdf
3-2	目標7	スズキ㈱	「法人の森林」制度への参加 スズキは、国有林を活用した「法人の森林」制度に参加し、国と1996年から2028年まで分取林契約(約4.3ha)を結んで森づくりに協力しています。分取の際には純収益をさらに森づくりに役立てることにしています。	スズキ環境・社会レポート2016(森林保全活動) http://www.suzuki.co.jp/about/csr/report/2016/pdf/2016_envj_06_05.pdf
3-2	目標14	鹿島建設株式会社	環境アセスメント、猛禽類の保全、調整池の多自然化、造成地の森林創生、ビオトープ、ポータル水路、生物共生型護岸、環境配慮型ポーラスコンクリートの利用、石倉かごによる河川生態系保全、アマモ場・サンゴ礁再生技術等を実施し、事業活動を通じた生態系の保全再生	http://www.kajima.co.jp/tech/eco_tech/biodiversity/index-j.html
3-2	目標6	マルハニチロ株式会社	完全養殖クロマグロ事業の取組みに2010年民間企業として初めて成功し、2015年6月から商業出荷を開始。そして2016年8月、完全養殖クロマグロの新ブランド「BLUE CREST」を本格商業出荷。	http://www.maruhanichiro.co.jp/csr/feature/index.html
3-2	目標10	スズキ㈱	「先進環境技術」の追求 スズキは、環境保全に貢献する先進環境技術を「SUZUKI GREEN Technology」と位置付け、低燃費・低排出ガス・省資源などの小さなクルマに適した環境技術を追求しています。	スズキ環境・社会貢献ホームページ SUZUKI GREEN Technology http://www.suzuki.co.jp/about/csr/technology/
3-3	目標5	株式会社フジクラ	フジクラ 木場千年の森:東京都江東区に在来種100%の森を作り、数百年前の自然を復活、また二つの池には荒川流域の魚類、水生生物を導入、カワセミ、カルガモ等の生息場になっている。	フジクラグループCSR統合報告書2016 http://www.fujikura.co.jp/csr/web_report/environmental/creature.html
3-3	目標5	ANAホールディングス株式会社	沖縄で「チーム美らサンゴ」を2004年に立ち上げ、死滅しかけているサンゴを甦らせる活動に取り組んでいる。チームは拡大し、18社の企業、環境省・沖縄県の行政の支援を受け、これまでに約7000本の植え付けを実施。2012年「全国豊かな海づくり大会」農林水産大臣賞(漁場・環境保全部門) 2015年「グッドライフアワード」環境大臣賞・最優秀賞を受賞	http://www.ana.co.jp/group/csr
3-3	目標14	セコム株式会社	社員のボランティア活動 公益財団法人オイスカの活動に賛同し、宮城県名取市で行われた「東日本大震災復興海岸林再生プロジェクト」に、社員ボランティアを募り、参加しました。	
3-3	目標5	出光興産株式会社	【工場緑化の取り組み】当社で初となる徳山製油所建設(1957年竣工)にて市街地と装置の間に西洋風の庭園を模した大きなグリーンベルト(緑地)を設置しました。その後の建設にも継承され、現在、北海道、千葉、愛知、徳山の事業所全体で約240ヘクタール(東京ドーム約50個分)の緑地を管理しています。	http://www.idemitsu.co.jp/csr/wp_csr/environment/biodiversity.html 生物多様性への対応
3-3	目標13	日本新薬株式会社	日本新薬「山科植物資料館」は、1934年に開場以来、世界中から集められた薬用・有用植物など約3千種の植物を栽培・保存しています。 当資料館で保存、栽培している植物のなかには、140種におよぶ日本薬局方収載生薬の基原植物をはじめとして、キンウテンガイなど世界的にも絶滅が危惧されている植物や環境省指定の絶滅危惧種も多数含まれており、生物多様性保全に貢献するという観点から植物栽培研究に取り組んでいます。	① http://www.nippon-shinyaku.co.jp/herb/ ②日本新薬 社内報「みぶよもぎ」No573(2017 summer):記事:(公社)日本植物園協会(総裁:秋篠宮文仁親王殿下、会長:岩科司・国立科学博物館筑波実験植物園前園長)の平成29年度の「Aboc-CULT A賞」を受賞
3-3	目標10	オリックス株式会社	サンゴ礁が持つ高い生物多様性の保持能力を守り、美しい海を次世代へ残すため、2008年に沖縄サンゴ礁再生プロジェクト「SANGO ORIX」を開始しました。沖縄県海域でサンゴの移植活動を行い、サンゴ礁の成長状況などの確認調査を含めた保全・再生活動を続けています。移植は合計で10,000本を予定しています。	http://www.orix.co.jp/group/pdf/sustainability/environment/ER2016J.pdf 2016年11月発行環境レポートp6

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
3-3	目標5	スズキ㈱	「スズキの森」植林 スズキは、2006年に林野庁天竜森林管理署と「ボランティアの森」協定を結び、浜松市北部の「スズキの森」で森林保全活動をスタートしました。 2008年からは社員やその家族、友人による植林や下草狩りの作業だけでなく、春には椎茸の菌打ちの体験、秋には収穫イベントを行っています。楽しみながら森林保全に取り組む活動が継続しています。	スズキ環境・社会レポート2016(森林保全活動) http://www.suzuki.co.jp/about/csr/report/2016/pdf/2016_envj_06_05.pdf
3-3	目標5	三洋化成工業株式会社	京都モデルフォレスト運動の趣旨に賛同し、京都府和東町で「三洋化成の森」づくり活動を行っている。資金提供による間伐と、従業員等によるボランティアで遊歩道整備・間伐などを実施。	「三洋化成の森」づくり活動: https://www.sanyo-chemical.co.jp/csr/boscage.html CSRレポート2017 P37: https://www.sanyo-chemical.co.jp/csr/report.html
3-3	目標11	東京電力ホールディングス	尾瀬国立公園全体の約4割、特別保護地区の約7割を水源涵養林の一部として保有しており、約半世紀にわたり、尾瀬の自然をまもる取り組み(湿原の回復、木道やトイレの整備、外来種予防のための種子落としマットの設置等)を続けています。	http://www.tepco.co.jp/oze/mamoru/index-j.html
3-3	目標5	東北電力株式会社	当社企業グループは、東日本大震災の津波で壊滅的被害を受けた海岸防災林の復活活動へ取り組んでおり、2017年5月には福島県相馬市磯部の大洲地区において、当社企業グループから約60名、近隣の小・中学校から約130名が参加し、約2,000本のクロマツを植樹しました。	東北電力HP http://www.tohoku-epco.co.jp/enviro/bousairin/index.html
3-3	目標5	株式会社 日立製作所	マングローブの種苗集めと植林活動	http://www.hitachi.co.jp/csr/environment/nature_symbiosise/ecosystem/index.html
3-3	目標12	武田薬品工業株式会社	薬用植物園において、絶滅危惧種を含む重要な薬用・有用植物資源を収集し、生息域外保全として育苗している。	http://www.takeda.co.jp/csr/reports/index.html CSRデータブック2016 p.49
3-3	目標5	株式会社セブン&アイ・ホールディングス	そごう・西武が提供している「グリーンラッピング」では、ギフトご注文の際に、リーフマスコット付きリボンを100円(税込み)をご購入いただくと、1件につき50円が植樹・育樹活動に寄付され、80件で1本の植樹につながります。また、お中元、お歳暮ギフトでは「簡易包装」へのご協力4,000件で1本の植樹を行っています。	http://www.7andi.com/csr/theme/theme5/ethical.html
3-3	目標1	株式会社 安川電機	環境首都100万本植樹プロジェクトに参加している。 どんぐり銀行の仕組みを利用して、どんぐりから植樹まで苗を約2年間育成し、約100苗/年を植樹会で植樹している。	http://biojema-net.or.jp/Japanese/env/biodiversity_db/search.php http://www.yaskawa.co.jp/company/csr/env/bio
3-3	目標15	野村総合研究所	NRIは、2016年2月に只見町の豊かな森林の保全を目的とした「ただみ豪雪林業 体験・観察の森」(以下、観察の森)のプロジェクトに賛同し、寄付を行った。 また、2016年度、2017年度の2回、役職員による間伐などのボランティア活動を只見町で行っている。	http://www.nri.com/jp/csr/greenstyle/greenof/activity.html http://www.nri.com/jp/ir/library/pdf/AR2017_4.pdf 統合レポート2017 p49
3-3	目標12	アズビル株式会社	福島県南会津町での「ひめさゆり」保全活動 ※2016年2月、この活動が、公益財団法人日本自然保護協会から「日本自然保護大賞 入選」として表彰されました。	http://www.azbil.com/jp/csr/basic/environment/biodiversity.html http://award.nacsj.or.jp/result_2015.php
3-3	目標12	株式会社アドバンテスト	アドバンテストは、自然との共生をテーマに、失われつつある昔ながらの関東平野の原風景の復元を目指し、2001年に研究開発拠点である群馬R&Dセンタに、国内企業では最大級のビオトープを創設しました。アドバンテスト・ビオトープは、社員が地球環境の大切さを学ぶ環境教育の場として、また、地域住民とのコミュニケーションの場として活用されています。	https://www.advantest.com/biotope
3-3	目標4	マルハニテロ株式会社	「日本経団連生物多様性宣言」の趣旨に賛同し、2009年より同宣言の推進パートナーズに参加。また日本経団連自然保護基金 活動趣旨に賛同し、同基金に毎年寄付金を拠出。	http://www.maruhanichiro.co.jp/csr/environment/biodiversity.html
3-3	目標5	株式会社日立ハイテクノロジーズ	JHEP認証を取得した「日立ハイテクサイエンスの森」において自然再生活動を実施(人工林から自然林への移行等)	http://www.hitachi-hightech.com/jp/about/csr/environment/mini_management/bio.html#sec01

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
3-3	目標12	株式会社富士通ゼネラル	当社(浜松事業所)敷地内に家電リサイクル工場とピオトープを併設し、大学専門家の指導のもと、地域に於ける希少動植物の保全活動を行うと共に見学受け入れなどにより地域社会への生物多様性啓発活動を実践しています。	http://www.fujitsu-general.com/jp/corporate/eco/business/biodiversity.html 、環境報告書2017 p11 http://www.fujitsu-general.com/jp/resources/pdf/environment/report/environmental-report-2017-jp-all-01.pdf
3-3	目標5	伊藤忠テクノロジーソリューションズ株式会社	被災地での復興支援と環境改善を目的に、社員が宮城県岩沼市「千年希望の丘」での植樹・補植活動に取り組んでいます。	http://www.ctc-g.co.jp/about/csr/environment/index.html#anc_biodiversity 生物多様性保全への取り組み
3-3	目標12	マツダ株式会社	2016年度、マツダは三次事業所(広島県)で生態系調査を初めて実施。専門家の協力を得て、年間17回の調査を実施した結果、オオタカ、エビネ、タガイといった希少生物が見つかった。この調査結果を踏まえた今後の活動は、専門家と引き続き連携しながら、地域行政や地域の方々との関わり合いを考慮して計画していく。	マツダサステナビリティレポート2017【詳細版】(生物多様性保全・生物多様性への取り組み:P83) http://www.mazda.com/globalassets/ja/assets/csr/download/2017/2017_all.pdf
3-3		株式会社ディスコ	SEGES認定 広島事業所	http://www.disco.co.jp/jp/csr/environment/green_c.html
3-3	目標5	イビデン株式会社	岐阜県、揖斐川町、NPO法人揖斐川自然環境レンジャーと「生きた森林づくり」を締結し、東横山地区内「イビデンの森 東横山」、鶴見地区内「イビデンの森 ふじはし」において10ヵ年計画での持続可能な森林再生活動に継続的に取り組んでいる。また、当地に植栽する苗木は周辺の土地から採取した種子から育成したものを利用している。	http://www.ibiden.co.jp/csr/contribution/forest/index.html
3-3	目標11	株式会社NTTドコモ	社員やその家族が、下草刈りや枝払いなどの森林整備を通じて、自然とふれあひながら環境保護やボランティアに対する意識を高めることを目的とした「ドコモの森」活動を推進しています。2017年3月末現在、全国47都道府県、49カ所に設置しており、総面積は野球場約146個分に相当する約190haとなります。豊かな自然に育まれた大地は、雨水をろ過し、きれいな地下水を生み出してくれます。今後もこの活動を継続し生物多様性の保全に貢献していきます。	NTTドコモグループ サステナビリティレポート2017
3-3	目標11	九州電力株式会社	oramサール条約に登録されている「くじゅう坊ガツル湿原(大分県竹田市)」一帯の希少な生態系の保全に向け、地域と連携した環境保全活動(野焼き、外来種駆除、隣接する平治岳(ひいじだけ)のミヤマキリシマ植生保護)を実施	2017九州電力環境アクションレポート(P35~36) http://www.kyuden.co.jp/environment_booklet_action-report17.html
3-3	目標5	古河機械金属(株)	当社グループでは2009年より社内ボランティアを募集し、日光市足尾町の社有地に桜千本植樹を目指す「足尾さくら植樹会」を年1回開催しており、2017年3月に第8回の植樹会を開催しました。今後も引き続き開催していきます。	http://www.furukawakko.jp/pdf/CSR/2017.pdf 参考資料:CSR報告書2017 P27
3-3	目標5	三井化学株式会社	当社関係会社の本州化学工業は、2010年より同社の環境保全活動の一環として、和歌山県の「企業の森」事業に参画している。日高川町の森林用地に、「本州化学の森・日高川」と命名、植樹や下草刈りを行っています。	http://www.mitsuichem.com/jp/csr/rc/environment/biodiversity.htm
3-3	目標12	住友商事株式会社	ロシア「チルネリス木材ビジネスプロジェクト」:年間伐採許容量を厳しく管理した持続可能な森林経営で、森林認証制度である「FSC認証を取得」、また、絶滅危惧種のアムールウの生息数増加に貢献した木材ビジネスプロジェクト	(弊社HP参照) http://www.sumitomorpc.co.jp/csr/issue/resource/cs02/
3-3	目標13	大阪ガス株式会社	当社製造所では、地域本来の生物多様性を有し、高い生態系機能を備えた緑地を創出することを目標に緑地管理計画を策定しています。地域性種苗による植栽やチガヤ草地等の導入、定期的な生物多様性モニタリング調査を実施・検証しています。	http://www.osakagas.co.jp/company/csr/charter02/biodiversity.html#4
3-3	目標5	大同特殊鋼	創業100周年を記念し、当社が里親になった「だいの森」(長野県南木曾町)の森林整備を支援すると共に、社員が参加して植樹などの森林保護活動に取り組んでいる。	2017年CSR報告書P10
3-3	目標14	株式会社 椿本チエイン	弊社の一海外生産拠点のタイ国にて毎年、地球温暖化の原因となるCO2削減に向けて、森林への植樹を実施しています。その際、野生生物の生態系を回復、強化するべく塩土を加える活動や山から平野への洪水を遅らせるための堰を作る活動なども合わせて実施しています。	つばきコーポレートレポート2016 p33
3-3	目標5	日本航空電子工業株式会社	2004年に環境経営のシンボルとして「航空電子グループの森」を開設し、植林や下草刈りなどの森林保全活動に取り組んでいる。ここではグループ社員の森林保全体験による環境意識啓発の場とすることに加え、生物多様性の保全、温室効果ガス(CO2)の吸収並びに水源の涵養に貢献している。	http://www.jae.com/jp/env/2017/jaegroup.html 2017年環境報告/航空電子グループの森

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
3-3	目標12	関西電力株式会社	兵庫県豊岡市では、人工飼育された国の特別天然記念物コウノトリの自然放鳥が行われています。当社は、放鳥されたコウノトリが電線に衝突して怪我をしないように電線などにカラーリングを取り付けて送電線の視認性を高め、衝突を防止する対策を施しています。	http://www.kepco.co.jp/sustainability/kankyoku/report/region/seibutsu02.html
3-3	目標20	テルモ株式会社	2011年9月よりテルモ㈱、森林所有者、静岡県の3者で「しずおか未来の森サポーター協定」を締結して、森づくりに関して定期的に意見交換をしながら、森づくりを進めている。また近隣の中学校とも連携して次世代を担う子供達も一緒に森づくりに取り組んでいる。	http://www.terumo.co.jp/archive/ser/j/2017/SR_2017_J_05.pdf (P85)
3-3	目標12	NEC	NEC我孫子事業場敷地内には湧水池があり、絶滅危種IB類のオオモノサシトンボの生息が確認されています。手賀沼水性生物研究会の協力を得て、2011年秋より、オオモノサシトンボの保護を目的とした池周辺の生きもの観察会や外来魚の駆除活動を、NECグループ社員とその家族を対象に年3~4回開催しています。また、2017年より我孫子市と連携し、年1回、地域住民を招いた観察会も開催しています。	http://jpn.nec.com/community/ja/environment/tombo.html
3-3	目標5	KDDI株式会社	神奈川県真鶴町で「真鶴町魚つき保安林調査活動」を実施。真鶴町が公益財団法人オオスカと共同で実施している「魚つき保安林保全プロジェクト」の一環で、KDDI社員がボランティアとして参加し、KDDIのソリューションサービスとタブレットを活用して、お林と呼ばれる魚つき保安林の植生調査活動を実施しています。	http://media3.kddi.com/extlib/files/corporate/csr/csr_report/2017/pdf/report2017.pdf (上記URL:P92)
3-3	目標5	新日鐵住金株式会社	当社は、「自然と人間の共生」を目指して、国際生態学センターの宮脇昭所長(横浜国立大学名誉教授)のご指導のもと、製鉄所・製造所の「郷土の森づくり」を推進してきました。これは、その土地本来の自然植生を調べ、慎重に樹木を選定し、ポット苗をつくり、造成したマウンドに地域の方々や社員が一つひとつ丁寧に植えていくもので、日本で初めての生態学的手法に基づく企業による地域の景観に溶け込む森づくりとなりました。	http://www.nssmc.com/csr/env/forest.html 環境・社会報告書2017 p32-33
3-3	目標5	㈱日清製粉グループ本社	周辺地域の生物多様性に重要な役割を果たしている霧多布湿原の保全活動をしている霧多布ナショナルトラストの支援をしている。	Webサイト http://www.nisshin.com/csr/green/biodiversity.html
3-3	目標4	日本製紙㈱	【国内森林資源の保護・育成】 国内に所有する9万haの社有林において持続可能な森林経営を行うための指標として森林認証を取得・維持すると同時に、そのうち20%を環境林分に指定し、商業伐採を禁止している。このような取り組みのもと、国内林業の活性化を目的として、国産材利用率の向上に努めている。	2017年CSR報告書p28 http://www.nipponpapergroup.com/csr/download/report/2017/csr2017.html
3-3	目標5	富士電機株式会社	東京都日野市にある東京工場では、構内にある昔からの自然を「武蔵野の森」として残しています。2017年度より生物多様性の観点から日野市と連携してこの「武蔵野の森」の活用に取り組んでいます。森を整備し、樹木に鳥の巣箱を設置して、野鳥の保護を行うとともに、緑地を活かした生態系の保全に取り組んでいます。	
3-3	目標11	株式会社 丸井グループ	都心でありながら生物多様性をコンセプトとした緑地スペースを活用し、店舗近隣の皆様とのイベントや環境教育により、競合他社と差別化された地域エンゲージメントを実現。生物多様性のモニタリング調査も定期的実施。	http://www.0101maruigroup.co.jp/sustainability/pdf/s_report/2016/s_report2016_a3.pdf 2016年共創サステナビリティレポート・P35
3-3	目標15	東京海上日動火災保険株式会社	1999年からNGOと連携して「マングローブ植林プロジェクト」を継続実施している。これまで東南アジア等9カ国で約10,103haを植林(2017年3月末現在)している。2007年には「マングローブ植林100年宣言」を行い、継続的に生物多様性に係わっていくこととしている。また、三菱総合研究所に調査を委託し、1999年4月から2014年3月までの間に生み出された経済価値の評価を実施したところ累計約350億円に達しているとの試算結果を得た。	http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/world/mangrove/
3-3	目標14	日本通運株式会社	山形県飯豊町、鳥取県日南町、静岡県伊豆の国市の全国3ヶ所に「日通の森」を設け、地域住民の方々と協働で年2回の森林育成活動を実施している。そこで従業員とその家族に対し、環境意識の醸成を図っている。	https://www.nittsu.co.jp/corporate/csr/report/pdf/2017-Csr-report/2017-Csr2017-full.pdf 2017年CSR報告書p50
3-3	目標5	アンリツ株式会社	富士山「緑の募金の森」緑化活動:この活動は、1996年の台風で倒壊した富士山の森林をよみがえらせるという、国土緑化推進機構が中心となって進めているプロジェクトです。リコーリース㈱様の呼びかけに応じて、当社も2006年から毎年、ボランティアを募って参加しています。子供向けの森林教室も実施されます。	2017CSR報告p.53: https://dl.cdn-anritsu.com/ja-jp/about-anritsu/csr/2017/j-ar2017.pdf
3-3	目標14	アステラス製薬株式会社	アステラスは社会貢献を通じた生物多様性への取り組みとして、2016年度は5回目の開催となる筑波山の植樹を行いました。アステラスの社員、及びその家族ボランティアなど、延べ100名以上が参加し、筑波山に約600苗の植樹を行いました。今回植樹した約600苗の中には、社員がつくば研究センターの敷地で採取したどんぐりから育てた約100苗も含まれています。	アステラス製薬HP CSRサイト https://www.astellas.com/jp/csr/environment/biodiversity.html

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
3-3	目標12	コマツ	コマツキャストックス(富山県氷見市)では富山大学理学部、氷見市連携研究室「ひみろボ水族館」の協力を得て、工場敷地内ビオトープの池を活用して希少種であるミナミアカヒタビラの生息域外保全活動に取り組んでいる。	https://home.komatsu.jp/csr/environment/biodiversity/ 環境報告書2017
3-3	目標12	株式会社ジェイテクト	愛知県高浜市の田戸岬工場では、環境省および愛知県のレッドデータブックで絶滅危惧種に指定されているコアジサシの営巣地整備活動に2015年から取り組んでいます。2017年は西三河野鳥の会のご指導を受けながら、裸地の拡大、海水散布、声による誘引、デコイの設置を行った結果、500羽の飛来と営巣に成功しましたが、猛禽による被害で繁殖には至りませんでした。今後も活動を継続し、生物多様性の保全に貢献していきます。	https://www.jtekt.co.jp/csr/pdf/2017/04_CSR2017.pdf CSRレポート2017 pE_23
3-3	目標5	総合警備保障株式会社	当社では、創立50周年記念事業の一環として、2015年4月に千葉県山武市連沼において、東日本大震災で被災した海岸線の環境保全と防災林の再生を目的にNPOと協働し、社員で抵抗性クロマツ約2,000本を植樹した。植樹後は年に1度、維持管理活動として下草刈りを行い、維持管理活動を続けている。	https://www.alsok.co.jp/company/society/environment/
3-3	目標1	豊田合成(株)	「工場の森づくり」を世界各地で実施。2009年から「工場の森づくり」を続け、8年間で25拠点に約29万本を植樹	豊田合成レポート2017 P27
3-3	目標12	鴻池運輸株式会社	・アマモ苗の大阪湾への移植 非営利団体の「大阪 海さくら」と協働にて、小魚等を保護・繁殖させるべくアマモ種子の発芽より移植までを通して、藻場形成のためアマモ苗の移植を実施中。	
3-3	目標12	(株)東芝	(株)ジャパンセミコンダクター本社・岩手事業所および大分事業所では事業所内の部門が連携しての希少な花の育苗(岩手事業所)や構内排水処理水を利用してホタルの幼虫のえさとなるカワニナを飼育し、近くを流れる北鼻川へ放流することによるホタルの呼び戻し(大分事業所)など行っております。社員教育や地域の環境意識向上への貢献が評価され、環境省と環境人材育成コンソーシアムが主催する「環境 人づくり企業大賞2016」で奨励賞を受賞しました。	
3-3	目標5	オリックス株式会社	フィリピン ルソン島サン・ミゲル湾沿いのCagsao地区で、2012年よりマングローブの植樹活動を行っています。年2回以上行っている活動では1回に10万本の苗木を植え付け、植樹には社員だけでなく、行政や学生も参加しています。マングローブの植樹は、高波や土壌の浸食被害から地元の人々を守るだけでなく、豊かな海の生態系を育むことにもつながっています。	http://www.orix.co.jp/gp/pdf/sustainability/environment/ER2016J.pdf 2016年11月発行環境レポートp6
3-3	目標7	鹿島建設株式会社	社有林の間伐や広葉樹の活用により森林生態系保全・向上に努めるとともに、森林J-Verを取得して森林の価値を顕在化。管理時に発生した伐採材を場内利用や環境教育に活用	鹿島コーポレートレポート2016 P.68 http://www.kajima.co.jp/tech/mokuzou/eco/index.html
3-3	目標7	株式会社 日立製作所	日立グループの森づくり活動	http://www.hitachi.co.jp/csr/environment/nature_symbiosise/ecosystem/index.html
3-3	目標5	日本ガイシ株式会社	愛知県北設楽郡「オイスカの森」ヤマザクラ植樹活動	NGKレポート2016p.137 http://www.ngk.co.jp/csr/pdf/web2016.pdf
3-3	目標11	株式会社日立国際電気	富山市「企業の森づくり」に参画、工場近隣の2ヘクタールの市有地を企業の森とし、従業員のボランティア活動により、間伐、下草刈り、遊歩道整備を行い、里山として育てている。	同上 (当社インターネットサイト「生物多様性への取り組み」)
3-3	目標15	野村総合研究所	NRRIは、Elephant Paradeという団体がおこなっているチャリティ活動に賛同し、象の形をしたチャリティーアートを国内で初めて導入した。この活動は、チャリティーアートの収益を絶滅危惧種のアジア象の保護に充てることを目的に、世界規模で毎年行われている。	http://www.nri.com/jp/ir/library/pdf/AR2017_4.pdf 統合レポート2017 p50
3-3	目標15	アズビル株式会社	神奈川県藤沢市での緑地保全活動 NPO法人藤沢グリーンスタッフの会の指導を受けながら、市の所有地で、間伐や切った木を利用しての歩道の整備などを実施しています。	http://www.azbil.com/jp/csr/basic/environment/biodiversity.html
3-3	目標5	株式会社アドバンテスト	アドバンテストは、2007年から群馬県の「草津やすらぎの森」国有林で森林保全活動を毎年実施しています。この活動を通じて、社員に環境活動への意識づけの場を提供するとともに、森林荒廃の防止、水資源の保全、森林によるCO2吸収も図っています。	https://www.advantest.com/csr-2017/biodiversity
3-3		オムロン株式会社	オムロン株式会社 森林保全活動 国内を9拠点に分割し、森林保全活動を進めています。例えば、京都事業所では京都市右京区の「長刀坂国有林」での保全活動を実施しています。かつて、この森林はアカマツ林が広がる森林でしたが、マツクイムシの被害等によりアカマツ林が減少し、広葉樹林化が進みました。そこで社員やその家族らが広葉樹の除伐や地表の落ち葉の除去などをおこない、アカマツ林の再生や野鳥の森づくりに向けたボランティア活動に取り組んでいます。	http://www.omron.co.jp/about/social/environ/

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
3-3	目標5	田辺三菱製薬株式会社	大阪府による「生駒山系花屏風活動」に協賛すると共に、毎年、従業員と家族がヤマザクラ等を植樹し、無秩序に拡大する竹林などの「放置森林」を抑え、生物多様性を保全する取り組みを実施しています。また、東京都およびNPO法人自然環境アカデミーと共同で「東京グリーンシップ・アクション」に参画し、東京都指定の八王子滝山里山保全地域において、毎年、従業員と家族が里山を保全・復元する活動に取り組んでいます。	http://www.mt-pharma.co.jp/shared/show.php?url=../csr/report/csr_pdf/index.html CSR活動報告2017 (pdf: P48、P49)
3-3	目標9	株式会社日立ハイテクノロジーズ	外来種の駆除(2017年度も継続実施)	http://www.hitachi-hightech.com/jp/about/news/csr/2016/20161014-3.html
3-3	目標5	日立金属株式会社	森林保全活動への参画(島根CO2吸収認証制度) (日立金属(株)安来工場)	http://www.hitachi-metals.co.jp/csr/pdf/2017/detail_csr2017.pdf P.36-38
3-3	目標4	協和発酵キリン株式会社	事業場毎に河川の清掃、アマゴの稚魚放流、「秋吉台の草原を守り・育む活動(秋吉台・山口)」など、その地域の方々とともに生態系を守る活動に取り組んでいる。また、静岡県「リバーフレンドシップ制度」など行政と連携した新たな活動も実施している。	http://www.kyowa-kirin.co.jp/csr/environment/biodiversity/index.html
3-3	目標12	ライオン株式会社	ライオンケミカル(株)オレオケミカル事業所では、従業員が手作りでピオトープを造成し、2014年香川県絶滅危惧Ⅱ類指定「マイコアカネ」の誘致に成功。翌年には、ふ化と未熟成虫の生息を観察し、生態系を確立した。また、自然の大切さや素晴らしさを体感してもらう為に、近隣の幼稚園児、小学生を招いて自然観察会を行う他、小学校と協働で総合的な学習(マイコアカネを呼ぼう)を推進し、講師の派遣とピオトープを学習の場として提供している。	http://www.lion.co.jp/ja/csr/biodiversity/report/category/202
3-3	目標5	パナソニック株式会社	土地利用分野の取り組み: オートモーティブ&インダストリアルシステムズ社 松本工場にて、(公財)日本生体系協会 JHEP認証で「評価ランクA」取得し、継続中	http://www.panasonic.com/jp/corporate/sustainability/download.html サステナビリティデータブック2017
3-3		株式会社ディスコ	SEGES認定 DIC	http://www.daiichicomponents.co.jp/news/20170405.html
3-3	目標5	古河機械金属(株)	日光市足尾町松木地区の社有地のエリアを古河グループの環境保全活動の場とするため、2015年に「古河の森植樹会」を結成しました。以降、毎年開催しており、2017年4月に第3回の植樹会を開催し、栃木古河会の会員26社65名が参加しました。今後も引き続き開催していきます。	http://www.furukawakk.co.jp/pdf/CSR/2017/17.pdf 参考資料: CSR報告書2017 P27
3-3	目標15	三機工業株式会社	「三機の森」の苗木の成長を妨げる下草を除去するために、2016年9月と2017年7月に、社員有志とその家族による下草刈を実施しました。今後も森林保全のため、下草刈を継続していきます。	SANKI REPORT 2017 p69
3-3	目標12	大同特殊鋼	クツチャロ湖の社有地のエコキャンプツアーによる、社員とその家族がキャンプや植樹を通じて環境保全・自然愛護の意識を高める。	2017年CSR報告書P11
3-3	目標5	株式会社 東海理化	◆植樹による生物多様性保全 地域社会やNGOとの連携を通じた植樹活動をグローバル全体で継続的に展開しています。活動を通じ社員の生物多様性に関する意識を高めていきます。	東海理化レポート 2017 p47
3-3	目標14	日立建機株式会社	日立建機多田機工は2012年から身近な里山、森林の整備を進める目的で、定期的に「豊富どんぐりの森」の森林保全育成活動に参加し、不法投棄の廃棄物撤去・下草刈り・間伐を行い、広場や散歩道作りなど里山保全活動に努めています。多田機工第二工場は、野鳥や四季折々の野花や野草を見ることが出来る「豊富どんぐりの森」に隣接しています。本活動ははじゆうまる宣言に登録されています。	https://www.hitachicm.com/global/jp/environment-csr/csr/news/news-2017/csr1708-1j/
3-3	目標15	JNC株式会社	守山工場(JNCファイバース(株)、JNCフィルター(株))が、守山市のびわこ地球市民の森の育樹活動に参加している。	
3-3	目標12	日本ケミコン株式会社	岩手県の事業所にて絶滅危惧種である地元のメダカ(ミナメダカ)の域外保全活動を構内のピオトープにて実施している。地元の幼稚園、小学校、中学校に寄贈。また、北上川流域の他社企業に連携を呼びかけ、他社企業にメダカを寄贈し、保護のネットワーク化を推進中。	ケミコンレポートp32(統合報告書:2016年11月発行) http://www.chemicon.co.jp/ird_report.html
3-3	目標5	アサヒグループホールディングス株式会社	アサヒグループでは、持続可能な水資源を守ることをCSR重点テーマのひとつに掲げ、「水源地の森保全活動」を積極的に行っています。毎回、各工場やグループ会社の従業員、その家族などが活動に参加し、地域のNPOや森林組合、行政などと協働して植林や下草刈り、枝打ち、間伐などを実施しています。現在、グループ全体で13カ所の森で森林保全活動を行っています。2004年に開始以来、2015年末までに全国で140回行い、約6600人が参加しました。	http://www.asahigroup-holdings.com/csr/environment/preservation.html
3-3	目標5	三菱電機株式会社	「里山保全プロジェクト」:2007年10月から、事業所周辺の公園や森林、河川などの「身近な自然」を回復する活動「里山保全プロジェクト」を実施しています。多様な生命を育み、様々な恵みを与えてくれる自然へ「恩返し」するとともに、事業所のある地域に貢献することです。地域の方々とのコミュニケーションを深めていきたいと考えています。	http://www.mitsubishielectric.co.jp/corporate/philanthropy/case/field/ecology/satoyama/index.html

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
3-3	目標9	日本精工株式会社	国指定の天然記念物『宝蔵寺沼ムジナモ自生地』の近く(約4km)に工場があり、生息地周辺に生育する外来種(セイタカアワダチソウ)の草刈を、羽生市の指導の下2016年10月から実施しています。	2017年CSR報告書P.86 HP掲載予定
3-3	目標12	日本通運株式会社	北海道釧路管内の社有林にて、絶滅危惧種「シマフクロウ」の生息地拡大に向けた活動を実施している。	https://www.nittsu.co.jp/corporate/csr/report/pdf/2017-Csr-report/2017-Csr2017-full.pdf 2017年CSR報告書p50
3-3	目標5	アンリツ株式会社	2015年3月に完成したグローバル本社棟の中庭及び外周については、立地の神奈川県厚木市の気候や土、本来の植生(潜在自然植生)を意識した植物を植えています。	2015CSR報告p.69~70: https://d.cdn-anritsu.com/ja-jp/about-anritsu/csr/2015/j-ar2015.pdf
3-3	目標5	プリマハム株式会社	公益社団法人 埼玉県農林公社と埼玉県農林部寄居林業事務所の指導のもと、プリマハムグループ従業員参加による森林づくりを実施している。	https://www.primaham.co.jp/company/report/社会・環境報告書2017P32
3-3	目標15	大栄環境株式会社	社有林(三重)の治山事業地における自然林再生への取り組み～地元住民・森林組合・行政・学識経験者・大栄環境グループによる協働(プロジェクト期間:H29-H33)	2017年環境報告書 P.13-16
3-3	目標13	鴻池運輸株式会社	・地域清掃 川に生息する生物の環境整備のために、2回/年の淀川河川敷清掃を上記の「大阪海さくら」及び、地域住民、此花区役所の方々と実施している。	
3-3	目標5	株式会社リコー	森林生態系保全プロジェクト リコーは、生態系の中でも、特に生物多様性が豊かな「森林生態系」に注目して、1999年度から環境NGOや地域とのパートナーシップのもとに「森林生態系保全プロジェクト」を展開しています。 これらの活動は単なる植林とは異なり、土地固有の生物種の生息域や住民生活を守ることを主眼とするもので、持続的な森林管理の枠組みの構築を目的に行われています	https://jp.ricoh.com/ecology/biodiversity/contribution/forest_ecosystem.html
3-3	目標5	三井住友トラスト・ホールディングス株式会社	営業拠点で地域社会に貢献し、信頼関係を築く活動の一つとして「生きもの応援活動」を実施。①ナショナル・トラスト活動の支援・普及啓発活動 ②NGOと協力した各種イベントの実施・参画 ③生物多様性、絶滅危惧種をテーマとしたロビー展の開催 ④在来植物の保護などを目的とした森林、里山の保全活動の実施 他多数。	CSRレポート2016 (p.122-139) http://smth.jp/csr/report/2016/full/all.pdf
3-3	目標12	中国電力株式会社	水力発電に必要な水を継続して確保・利用するため、約1,700haの水源かん養林を保有し、枝打ちや間伐など適切な維持管理を行っているが、これらの森林は水源かん養機能やCO2の吸収、土砂流出の防止以外にも、野生動植物の生息環境保護にも貢献している。	http://www.energia.co.jp/corp/active/csr/kankyou/index.html 2017環境報告書p25
3-3	目標11	株式会社日立国際電気	札幌市円山動物園内の外来植物除去と植栽のボランティア活動に従業員が参加し、外来植物の駆除作業と新たな苗木の植栽を行った。	http://www.hitachi-kokusai.co.jp/csr/er/2017/er2017_012.pdf CSR報告書2017 p17
3-3	目標5	株式会社アドバンテスト	アドバンテスト研究所(仙台市)の敷地内には、樹齢約100年、樹高約30メートルのアカマツ約80本が自生しています。 このアカマツ林は、2007年から仙台市の保護樹林の指定を受けています。豊かな自然環境を残すため、アカマツとそこに生息する生き物の保全に努めています。	https://www.advantest.com/csr-2017/biodiversity
3-3	目標11	ブラザー工業(株)	ブラザーインターナショナル(U.S.A.)は、2010年から行っている「アーバー・デイ財団」との植樹活動など、全米12の拠点ごとに地元の環境保全活動を支援し、ともに活動。メキシコ、アルゼンチン、ブラジル、チリ、ペルーのブラザーグループ各社では、「熱帯雨林救済プログラム」を通じて、中南米の熱帯雨林の保護や回復活動に貢献。	http://www.brotherearth.com/ja/activity/usa.html
3-3	目標5	旭化成	あさひ・いのちの森:富士支社敷地内にある約1万㎡の緑地で、環境活動ゾーンとして2007年に造成した。原風景の再生(地域固有の植生の再生)を目指した森で、自然林だけでなく里山林や草地・湿地・池・流れ・田んぼなどを含めた多様な生態系を再生し、地域との結びつきに活用している	http://www.asahi-kasei.co.jp/asahi/jp/csr/rc/environment/diversity.html CSRレポート2017:生物多様性保全 http://www.asahi-kasei.co.jp/j-koho/environment/index.html 旭化成ホームズ(株):環境への取り組み
3-3	目標5	日立金属株式会社	①霞ヶ浦の保護活動(アサザプロジェクト)に参加(株SHカップーパープロダクツ)②答志島 奈佐の浜海岸 清掃活動に参加(日立金属(株)桑名工場)③鳥取砂丘の清掃活動に参加(日立フェライト電子(株))④岩沼市の千年希望の丘植樹祭2016に参加(東北ゴム(株))⑤ワウバカエコパーク(生態系保全)と社会貢献活動を実施(Waupaca Foundry, Inc.)	http://www.hitachi-metals.co.jp/csr/pdf/2017/detail_csr2017_11.pdf P.53

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
3-3		株式会社ディスコ	ひろしま森林づくりフォーラムへの参加	http://www.moridukuri.net/index.php
3-3	目標5	株式会社カネカ	滋賀工場に隣接する「木の岡ビオトープ」にはさまざまな生物が生息しており、この貴重な自然環境を後世まで残していくために、滋賀県や大津市、滋賀工場(運営委員)を含む地元自治会のメンバーで構成された「おにごるみの学校」では、定期保全活動(草刈り、歩道の整備、樹木の看板の更新等)や季節ごとの自然観察会を各々年3回程開催し、観察会は子どもたちの学習機会の創出とビオトープの大切さを伝える取り組みとなっています。	当社公式ホームページに掲載予定
3-3	目標3	株式会社SUBARU	中国の販売会社スバルオブチャイナは、2013年より31カ所の自然保護区に「SUBARU生態保護森林」を設置し、お客さまをお招きして植林活動や希少動物の保護活動を行っているほか、活動に必要な車両や物資の提供を継続的に行っています。2016年9月には、海南省最大の自然保護区にてお客様に巡視活動や保護活動等、生態保護の重要性を体感していただきました。	https://www.subaru.co.jp/csr/environment/090_biodiversity.html
3-3	目標11	三井化学株式会社	当社大牟田工場は敷地内に東京ドーム1.2倍(約5.4ヘクタール)の保存樹林を持ち、持続性のある保全活動に取り組んでいます。2009年には大牟田市からの要請により、敷地内樹木森林の自然環境調査に協力したところ、希少植物・生物などの生息が判明、『大牟田市自然環境調査報告書』に記載されました。	http://www.mitsuichem.com/jp/csr/rc/environment/biodiversity.htm
3-3	目標12	四国電力株式会社	徳島県鳴門市の電柱で集作りを始めた国の特別天然記念物・コウノトリのため、四国電力では、電線への接触による停電の防止と、安全な巣づくり環境を考慮して、巣のある電柱に電気が送られないよう、迂回のための仮設電線をひく工事を行い、無事3羽の成長のお手伝いをすることができました。1971年に国内の野生種が絶滅した後、コウノトリの野生復帰に取り組む豊岡市周辺以外での野外繁殖は初めてのことになります。	http://www.yonden.co.jp/corporate/b_esta/to_kushima/topics/1187248_1416.html http://www.yonden.co.jp/corporate/b_esta/to_kushima/topics/index.html
3-3	目標15	損害保険ジャパン日本興亜株式会社	「協働の森づくり」日本国内の市町村7カ所と森林協定を結び、地域の市民団体と協働で森づくりを行い、気候変動の緩和、災害に強い国土づくりに貢献し、生物多様性保全の理解を深めている。	http://www.sjnk.co.jp/csr/environment/eco/forests/
3-3	目標15	JNC株式会社	四日市工場(JNC石油化学㈱)が、四日市市の霞ヶ浦地区環境行動推進協議会の里山保全活動に参加している。	
3-3	目標12	日本ケミコン株式会社	宮城県の事業所にて絶滅危惧種であるシナイモツゴの域外保全活動を行っている。	
3-3	目標5	日本電信電話株式会社	NTTドコモでは、自然環境保護活動の一環として「ドコモの森」づくりに取り組んでおり、全国各地で森林の整備活動を進めています。2017年3月末現在、全国47都道府県、49カ所に設置しており、総面積は野球場の約146個分に相当する約190ヘクタールとなりました。2016年度は整備活動を45回開催し、約1,880名が参加しました。引き続き、自然環境保護や生物多様性の保全に貢献していきます。	https://www.nttdocomo.co.jp/binary/pdf/corporate/csr/about/pdf/csr2017w_all.pdf NTTドコモサステナビリティレポート2017、P141
3-3	目標12	伊藤忠商事株式会社	絶滅危惧種に指定されているアオウミガメの保全活動を、認定NPO法人エバーラスティング・ネイチャーを通じて支援しています。取組の一環として、アオウミガメを通して生物多様性保全の大切さを学ぶ「環境教室」を実施。	(弊社HP参照) https://www.itochu.co.jp/ja/csr/social/conservation/index.html
3-3	目標1	㈱資生堂	海外(タイ)における植林活動	http://www.shiseidogroup.jp/sustainability/env/diversity.html
3-3	目標5	日本精工株式会社	タイでマングローブの植林活動を毎年行っています。マングローブはCO ₂ を吸収し多く蓄えること、また、高波や津波等の自然災害から人々の生活や生態系を守る「みどりの防波堤」としての役割や、多数な生物の住処としての機能も果たしていることが知られています。今年は役員・従業員とその家族107名が参加しました。	2017年CSR報告書P.86 HP掲載予定
3-3	目標5	アンリツ株式会社	2013年に竣工した郡山第二事業所では、生態系ネットワークを考慮した池を設置し、潜在自然植生を意識した植物の植樹を社員の手によって行いました。	2014CSR報告p.47: https://dl.cdn-anritsu.com/ja-jp/about-anritsu/csr/2014/j-ar2014-detail.pdf
3-3	目標1	株式会社ジェイテクト	豊橋工場では、アカウミガメの産卵地としても有名な田原市表浜海岸(浜田海岸)にて清掃活動を2013年より毎年実施しています。当日は安形社長参加のもと、海岸清掃とともに地元NPO法人「表浜ネットワーク」によるウミガメ/海ゴミ講座を開催。ウミガメの種類や生態から、人工のゴミがウミガメにどのような影響を与えるか説明いただきました。このような海岸が身近にあることを子供たちに伝え、自然と触れ合う機会を提供する場としても継続して活動しています。	https://www.jtekt.co.jp/news/170629.html ニュースリリース
3-3	目標14	近鉄グループホールディングス株式会社	英虞湾における干潟再生事業 環境省は、国立公園の海域の景観、生物多様性の保全および創出を図る観点から、ホテル近鉄アクアヴィラ伊勢志摩内の沿岸休耕地(約1ha)において、2012年9月に水門を開放し、干潟の再生の取組を開始し、㈱近鉄・都ホテルズは土地所有者として協力しています。	http://www.kintetsu-g-hd.co.jp/csr/csr_report.html CSRレポート2016 P.54
3-3	目標15	鴻池運輸株式会社	・植樹 毎年6月の環境月間において、各拠点にて環境記念月間として植樹を実施。実施場所が無い場合も、「トトロの森 基金」への寄附を実施。	

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
3-3	目標1	株式会社リコー	環境ボランティアリーダー活動 地球環境を保全するには、社員一人ひとりが地球市民としての意識をもって、自主的に社内外で活動を実践することが重要です。 リコーは1999年6月から、社員を対象とする研修制度「環境ボランティアリーダー養成プログラム」をスタートさせました。これまでに、500人を超える環境ボランティアリーダーを養成し、各リーダーは、それぞれの所属する部署や地域を巻き込んで、環境ボランティア活動を展開しています。	https://jp.ricoh.com/ecology/biodiversity/contribution/05_01.html
3-3	目標19	東京急行電鉄株式会社	当社事業地域を流れる多摩川流域の環境浄化を図ることが重大な責務であると考え、水質調査・研究者への研究費助成を行うことを目的に、環境財団を設立した。研究助成事業では、2016年度末までに、1,209件の研究に、総助成金額 1,426百万円の援助を実施。また、1994年より、流域の小学校等に、環境学習副読本「多摩川へいこう」を配布、環境学習を支援している。	「公益財団法人とうきゅう環境財団」JHP: http://www.tokyuenvironment.org/
3-3	目標9	日本ガイシ株式会社	社有地(厚生施設)の生物調査	NGKレポート2017p.112 http://www.ngk.co.jp/csr/pdf/ngk2017environment_full.pdf
3-3	目標4	JXTGエネルギー株式会社	社有地管理における配慮や企業の森における保全活動	http://www.no.ejxgroup.co.jp/csr/environment/biodiversity/index.html
3-3	目標5	株式会社アドバンテスト	アドバンテストは、創立50周年を機会に2005年から2008年に熱帯雨林の再生を目的としたフタバガキの植林活動を実施しました。2009年以降、現地マレーシア・サバ州森林開発公社(SAFODA)を通じて、生育状況の調査や植林地の下草刈りなどの維持管理を継続しています。	https://www.advantest.com/csr-2017/biodiversity
3-3	目標5	凸版印刷株式会社	モデルサイト(深谷工場他)の敷地内緑地で、「生き物と共生できる森づくり」をテーマに社員とその家族が、生物多様性保全活動を行っています。深谷工場ではこれらの活動が評価され、2015年2月に生物多様性に配慮した施設を認証する「ABINC認証」を取得、第1回ABINC賞も受賞しました。その他にも、朝霞工場内に設置した保全池での地域希少種保全を行う等、事業所内外の生物多様性保全活動に積極的に取り組んでいます。	TOPPAN CSRレポート2017 P46「生物多様性保全の取り組み」 http://www.abinc.or.jp/articles/new_article/30
3-3	目標5	マツダ株式会社	マツダが命名権を取得している広島市民球場(愛称:MAZDA Zoom-Zoomスタジアム広島)で、ナイター照明用として16万5千kWh、CO2排出量にして約117トンを広島島の森林吸収量クレジット(広島県営林J-クレジット)でオフセット。	マツダサステナビリティレポート2017【詳細版】(マツダスタジアムでの社会貢献活動:P8) http://www.mazda.com/globalassets/ja/asset/csr/download/2017/2017_s_all.pdf
3-3	目標5	株式会社カネカ	高砂工業所では、2012年から兵庫県「企業の森づくり事業」に参画し、同県多可町にて「カネカみらいの森づくり」として、山林整備・保全活動を進めています。2016年4月には新入社員を中心に約73名が、また同年11月には社員およびその家族約52名が集まり、伐採作業等を行いました。伐採活動にあたっては、事前に多可町からレクチャーが行われます。当初5年間の活動を予定していた当事業は、更に5年間延長としました。	当社公式ホームページに掲載予定
3-3	目標5	三井化学株式会社	当社関係会社である下関三井化学は、2001年より「木屋川の水を守る森づくり交流会」に参加し、森林の持つ水源かん養機能の維持・増進を図ることを目的として、植樹や雑草木の刈り取り、枝打ちなどの森林管理を行っています。	http://www.mitsuichem.com/jp/csr/rc/environment/biodiversity.htm
3-3	目標15	三井物産株式会社	三井物産環境基金の助成先NPOと協働で、茨城県牛久市にて機械化が難しく、更に農業の担い手不足などから荒廃した谷あいの水田(谷津田)を無農薬での米作りを通じて再生するプロジェクトを実施。グループ企業を含めた社員や家族が多数参加して、田植え、草取り、稲刈り、さらに収穫した米を使った日本酒づくりなどを行っている。現場では生物調査により多様な生物の回帰状況を確認、豊かな生態系の着実な再形成に貢献。	(三井物産WEBサイト)三井物産環境基金助成先への社員参加プログラム「谷津田再生プロジェクト」 http://www.mitsui.com/jp/ja/sustainability/contribution/employee-participation/volunteer/1209414_7141.html
3-3	目標12	王子ホールディングス株式会社	高知県木屋一ヶ社有林におけるヤイロチョウ保護活動	http://www.ojiholdings.co.jp/news/2016/0824.html
3-3	目標3	株式会社竹中工務店	環境方針・生物多様性活動指針を実践し、街づくり総合エンジニアリング企業として、社会・地域課題解決のために、社有地で生物多様性に配慮した空間づくり推進に着手した。従業員の研修、環境教育、自主的な取組み、研究開発、情報発信、地域との連携などの多面的な取り組みの場とする。	
3-3	目標12	日本ケミコン株式会社	福島県の事業所にて準絶滅危惧種であるヒメサユリ、絶滅危惧種であるキキョウの育成活動を行っている。	
3-3	目標12	サントリーホールディングス株式会社	公益信託「サントリー世界愛鳥基金」は、新たな助成部門として「水辺の大型鳥類保護」部門を創設しました。コウノトリ、トキ、ツルなど水辺の大型鳥類の保護活動を行っている団体への助成を通じて、水田や湿原など日本の豊かな水辺の環境保護をいっそう推進していきます。	http://www.koueki-suntory-aityou.jp/gaiyou/sikumi.html

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
3-3	目標15	日本精工株式会社	群馬県県有林整備パートナー事業に賛同し、2015年10月～2020年10月の5年間協定を締結し、寄付金を提供するとともに、草刈や間伐を継続して実施しています。 このことでCO2 2.9 ton を吸収量として認証される見込みです。	2017年CSR報告書P.86 HP掲載予定
3-3	目標5	アンリツ株式会社	「緑の募金」活動：売上金の一部が「緑の募金」(かながわトラストみどり財団)に寄付される自動販売機を2006年から設置し、植樹等に使われています。	2014CSR報告p.38: https://dl.cdn-anritsu.com/ja-jp/about-anritsu/csr/2014/jar2014-detail.pdf
3-3	目標15	株式会社大林組	なんばパークスは、2003年に開業した国内最大級の屋上緑化庭園を備えた複合商業施設です。約500種10万株の樹木や草花を育成する緑地空間の環境保全のため、専属スタッフが従事しています。当社は、緑化が都市環境にもたらす効果を確認するため、鳥類・昆虫類の生息や樹木などのCO2吸収量、ヒートアイランド緩和効果など、多面的な調査・測定を行っています。これらの10余年にわたる取組が評価され、2016年日本建築学会賞を受賞しました。	コーポレートレポート 2017 P.44 http://www.obayashi.co.jp/uploads/File/ir/report/2017/ir2017.pdf
4-1	目標7	凸版印刷株式会社	用紙に間伐材を含む国産材を30%以上使用した紙製飲料容器である「カートカン」を製造しています。トッパンでは、間伐材を積極的に利用することにより、森林保全と木材の持続可能な利用に貢献しています。	http://www.toppan.co.jp/living-industry/cartocan/ http://www.toppan.co.jp/csr/environment/biodiversity.html
4-1	目標4	住友化学株式会社	開業から百年を迎えた住友化学グループは、次なる百年に向けてサステナブル(持続可能)な社会の実現に積極的に貢献していくため、人類の課題となっている気候変動対応や環境負荷低減、資源有効利用などに資する製品・技術(Solutions)を認定し、その開発及び普及を推進しています。	http://www.sumitomo-chem.co.jp/csr/process_product/ 当社HP
4-1	目標1	帝人株式会社	PETボトルやポリエステル製品をマテリアルリサイクル技術やケミカルリサイクル技術を用いてポリエステル繊維に再生し、ごみの増加や化石資源の消費を抑制しています。	https://www.teijin.co.jp/products/environment/
4-1		日本ユニシス株式会社	「ICTが地球のためにできること」を環境活動におけるスローガンとし、環境負荷の低減、資源の有効利用や、持続可能な社会の形成に寄与したいと考えています。電気や紙の使用量の抑制や3R促進に努めるとともに、可能な限り環境負荷の少ないシステム構成や備品などを購入しています。ICTソリューションを通じて、環境負荷を低減させるビジネスモデルの創出や、お客様の事業活動における業務効率改善や環境負荷低減にも貢献します。	(日本ユニシスグループCSR情報サイト) https://unisys.disclosure.site/ja/themes/29#94
4-1	目標10	ニッパツ(日本発条株式会社)	省エネルギー活動を継続し、CO2排出量原単位を中長期的に年率1%以上削減する事で、地球温暖化を抑制し、気候変動により影響を受ける脆弱な海洋生物の生態系を保全している。	http://www2.nhkspg.co.jp/csr/report/pdf/2016/2016.pdf p36,37
4-1	目標4	(株)奥村組	当社技術研究所では、管理棟の一部で太陽光発電や地中熱(空調)を利用しています。	
4-1	目標4	ルネサスエレクトロニクス株式会社	当社の環境行動指針・第1番目に、「研究開発・設計・調達・生産・販売・流通・使用・廃棄にいたる全ライフサイクルで環境に配慮した半導体製品を創出し、社会に貢献します」と掲げており、「エコプロダクト活動(環境配慮型製品の創出)」に関する内容を掲載しております。	https://www.renesas.com/ja-jp/media/about/company/csr/2017-environment-all.pdf 環境レポートP12からP14
4-1	目標4	ユニ・チャーム(株)	使用済み紙おむつの再資源化の技術開発を進めて、2016年2月はLCA学会会長賞を受賞した。2016年11月は鹿児島県志布志市と実証実験の協定を締結した。 CircularEconomy社会への実現に向けて対応を進めている。	http://www.unicharm.co.jp/csr-eco/special03/index.html
4-1	目標15	三井不動産株式会社	グループ会社所有の北海道約5,000haの保有林を森林の特性に応じ適切に保全・管理し積極的に活用する「森をそだてる・つくる・いかにす」のサイクルを構築。保有林材を下地材に活用した「スマートフローリングプロジェクト」は「国産材の活用」「生物多様性の保全」「CO2の長期吸収・固定」などが評価されグッドデザイン賞受賞。また「ららぽーと海老名」内に設置した木育施設「WOOD-CUBE」はウッドデザイン賞を受賞。	http://www.mitsufudosan.co.jp/corporate/csr/2017/pdf/mf_csr2017_dg_05.pdf
4-1	目標8	株式会社 高島屋	高島屋ファーム(横浜店・新宿店)の取組み:自然の力を大切に、「おいしい」を集めたセレクトショップ。農業・化学肥料不使用の米や野菜等の販売を行っています。	https://www.takashimaya.co.jp/corp/csr/environment/item.html
4-1	目標4	ミサワホーム株式会社	建築部材の生産工場及び住宅を施行する現場において、廃棄物の埋め立て及び単純焼却を行わない、リサイクル100%とした、ゼロ・エミッション化を実施。また、100%リサイクル素材でできた「M-Wood2」を開発、発売。	www.misawa.co.jp/corporate/csr/2017年CSRレポート p23,28
4-1	目標4	住友ベークライト株式会社	製品ライフサイクルの取り組みでは環境対応製品の開発をテーマに掲げています。	CSRレポート2017 http://www.sumibe.co.jp/csr/report/files/csr2017.pdf

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
4-1	目標4	北海道電力株式会社	【石炭火力発電所で発生する石炭灰の有効利用】 ほくでんの石炭火力発電所は、北海道内3カ所に立地しています。合わせて年間100万吨近くの石炭灰が発生しますが、95%以上が有効利用されています。有効利用の例としては、復元材、セメント原料、再生路盤材のほか、土木・建築分野や農業分野(パドック排水材)での利用があります。	北海道電力HP「石炭灰の有効利用について」 http://www.hepco.co.jp/corporate/environment/coal_ash/index.html
4-1	目標4	マツダ株式会社	「エネルギー」や水資源を含む「資源」を重点として生物多様性への影響度軽減のため、商品、生産・物流工程で取り組みを進めている。商品での取り組みは、「自動車の燃費向上(SKYACTIV技術等の開発・導入)」「資源リサイクル推進(リサイクル容易な部品や素材の開発・採用)」, 生産・物流工程での取り組みは、「地球温暖化防止(モノ造り革新、省エネルギー生産の取り組み)」「資源の有効活動の推進(リサイクル推進、グリーン調達推進)」など。	マツダサステナビリティレポート2017【詳細版】 【「商品・技術開発における取り組み エネルギー/温暖化対策:P65~66」、「生物多様性保全:P83」】 http://www.mazda.com/globalassets/ja/asset/s/csr/download/2017/2017_all.pdf
4-1	目標4	株式会社カネカ	当社の2016年度の最終埋立処分量は3.0トン、最終埋立処分率は0.005%となり、11年連続でゼロエミッションを達成しました。今後も最終埋立処分量の削減に向けて取り組んでいきます。	当社公式ホームページに掲載予定
4-1	目標4	ウシオ電機株式会社	高照度・高積算光量を実現した印刷用UV-LED乾燥装置の開発、販売	http://www.uschio.co.jp/jp/news/1002/2017-2017/500233.html
4-1	目標4	住友化学株式会社	健康農業部門の事業や、レスポンシブルケア活動等を通じ、SDGs(Sustainable Development Goals)に貢献しています。	http://www.sumitomo-chem.co.jp/csr/report/docs/SDB2017_p10-34.pdf サステナビリティデータブック2017 P.10-34
4-1		ニッパツ(日本発条株式会社)	資源循環型経営推進のため、廃棄物の分別を徹底しリサイクル率を100%に近づけて埋立廃棄物を削減すると共に、製品歩留まり向上や廃棄物のリユースにより、廃棄物量の年率1%削減を継続している。	http://www2.nhkspg.co.jp/csr/report/pdf/2016/2016.pdf p36,37
4-1	目標8	日本郵船株式会社	当社グループは、シップリサイクル条約で定められた、船上に存在する有害物質の量・設置場所などを記載したリストを作成し、船舶へ配備しています。「安定的な解撤スペースの確保」と「環境に優しい解撤実施」を基本に、独自の解撤方針を定め、環境だけではなく労働安全にも配慮した解撤ヤードを選定しています。当社独自の解撤売船契約書を用い、引き渡し後もその契約に基づいた、安全・環境への対応状況を適宜現場視察し確認しています。	NYKレポート2017 P.70 http://www.nyk.com/ir/library/nyk/pdf/2017_nykreport_all.pdf
4-1	目標4	KDDI株式会社	auショップでお客さまから回収した使用済み携帯電話を一台ずつ手作業によって、基盤、液晶、カメラ、プラスチック、ネジ、鉄、アンテナ、モーター、スピーカーなどに分解し、それぞれリサイクルしています。2016年度も、99.8%とほぼ100%に近い再資源化率を実現しました。	http://media3.kddi.com/extlib/files/corporate/csr/environment/pdf/report2017_p91.pdf
4-1	目標4	株式会社 三菱ケミカルホールディングス	三菱ケミカルホールディングスグループでは、中期経営計画にサステナビリティへの貢献度合いを可視化する経営指標としてMOS指標を導入しています。資源の有効利用と循環推進、環境負荷低減など企業活動を通じた定量可能なテーマを指標として策定し、進捗管理、改善を実施しています。	http://www.mitsubishichem-hd.co.jp/csr/download/pdf/17.pdf KAITEKI REPORT2017 p66
4-1	目標4	株式会社 高島屋	婦人・紳士・子どもウールスーツコートリサイクルキャンペーン(高島屋全店):2002年から実施。ウール衣料品の回収を行い、断熱材や自動車内装材に再利用されています。	https://www.takashimaya.co.jp/corp/csr/environment/recycle.html
4-1	目標4	株式会社 丸井グループ	リデュースの取組みとして、店舗を持つ強みを活かして、衣料品や靴を下取りし、店舗での再販売(リユースマーケット)をおこなうことで、モノを捨てない(=廃棄や製造のエネルギーを減らす)の促進や、お客様に包装のご要望をおうかがいすることで、過剰な包装を減らす取組み等を実施。	http://www.0101maruigroup.co.jp/sustainability/pdf/s_report/2016/s_report2016_a3.pdf 2016年共創サステナビリティレポート・P36
4-1	目標4	中日本高速道路株式会社	【資源の3R】当社では、工事で発生する建設副産物のリサイクルだけでなく、維持管理で発生した剪定枝や刈り草についても、堆肥やマルチング材としてリサイクルしています。また、休憩施設のお手洗いにおいては、雨水や中水の利用、節水型便器や無水型便器を積極的に採用するなど、資源の3Rに努めています。	https://www.c-nexco.co.jp/corporate/csr/csr_download/NEXCO中日本レポート2017 P49
4-1	目標15	高砂熱学工業株式会社	「脱炭素社会」への転換を当社の社会に果たすべき貢献と考え、省エネ・省CO2をはじめとする地球環境保全に関する技術開発を加速する。	Green Air Tech 2017 P. 4 https://www.tte-net.com/solution/pdf/gat_2017.pdf

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
4-1	目標4	JFEホールディングス(株)	「スクラップ再資源化」国内ではスチール缶のリサイクル率は90%を超えていますが、鉄スクラップとして品質がよく、エネルギー効率も高い日本の鉄鋼製品の再資源化は、地球規模での省資源・省エネルギーに貢献しています。JFE商事は輸送手段の多様化、効率化により、グローバルな資源循環拡大を図っています。	http://www.jfe-holdings.co.jp/environment 2017CSR報告書p33
4-1	目標4	株式会社セブン&アイ・ホールディングス	国内の森林資源保全を目的に、間伐材の活用に取り組んでいます。例えば、全国のセブンイレブンを中心に販売している「セブンカフェ」のホットカップの外側のスリーブ部に間伐材を導入しています。また、プライベートブランド「セブンプレミアム」の飲料やカップスープの容器にも、グループで保全活動を行っているセブンの森から伐採した間伐材を使用しています。	http://www.7andi.com/csr/theme/theme5/ethical.html http://www.7andi.com/csr/theme/theme3/invention.html
4-1	目標4	西松建設株式会社	建設副産物の3R推進策として、施工現場での分別を徹底することで混合廃棄物を減らし、建設廃棄物の最終埋立処分率3%未満を達成しました。また、産廃搬出時に使用する産業廃棄物管理票(マニフェスト)を従来の「紙」から「電子」に切り替え、2017年4月時点で電子化率100%となり、資源の有効利用に寄与しています。	https://www.nishimatsu.co.jp/csr/report/pdf/2016EnvironmentalPerformance.pdf https://www.nishimatsu.co.jp/csr/environment/ecofirst.html 2017年コーポレートレポートp32
4-1	目標4	日本航空電子工業株式会社	廃棄物処理技術の進歩や環境配慮(スcoop3)などを視野に入れ、時代にあった廃棄物ごとの処理内容の見直しを行い、リサイクルの質的向上及び処理費用の削減、有償売却率向上の取組みを行っている。2015年度よりゼロエミッション目標を99%から99.5%に引き上げ活動し、2016年度は99.9%となっている。	http://www.jae.com/jp/env/2017/zeroemission.html 2017年環境報告/ゼロエミッション
4-1	目標15	日立建機株式会社	日立建機ティエラはNPO法人菜の花プロジェクトネットワークを支援し、場内のビオトープで菜の花を育てています。菜の花からできるなたね油は料理に使われ、廃食油はバイオディーゼル燃料(BDF)にリサイクルできます。日立建機ティエラでは廃食油の回収しており、廃食油は処理業者で精製後、BDFとして場内のフォークリフトに活用しています。本活動はにじゅうまる宣言に登録されています。	https://www.hitachi.com/global/jp/environment-csr/csr/news/news-2017/csr1705-2j/
4-1	目標4	KDDI株式会社	通常の商用電力に加え、太陽光パネルによる発電、深夜電力により蓄電池に充電された電力を時間ごとに効率よく供給する電力制御技術を用いた「トライブリッド基地局」をau携帯電話基地局に導入。日本全国100カ所に設置。従来の商用電力のみを使った場合よりも、CO2排出量において最大約30%の削減が見込めます。	http://media3.kddi.com/extlib/files/corporate/csr/csr_report/2016/pdf/report2016_09.pdf (上記URL:P14)
4-1	目標4	三菱ケミカル株式会社	三菱ケミカルでは財務指標と同様に人と社会、地球のサステナビリティへの貢献度合いを可視化する新たな指標MOS指標を導入。MOS指標の目標を定め、達成に向け種々施策を実施 ・地球環境負荷削減への貢献 ・資源、エネルギーの効率的な利用 等	三菱ケミカルホールディングスグループ KAITEKI REPORT
4-1	目標4	味の素株式会社	地域とともに、いつまでもつくり続けられる仕組み: バイオサイクル(アミノ酸製造時に生じる栄養豊富な副産物(コプロ)を地域の肥料や飼料として活用する、資源循環型のアミノ酸発酵生産方式)	味の素グループ サステナビリティデータブック2017 特集2: 地球との共生 P29 https://www.ajinomoto.com/jp/activity/sustainability/sideproduct/
4-1	目標4	株式会社 高島屋	食品リサイクルによる発電(新宿店): 食料品、レストラン等から発生する生ごみをリサイクル施設に持ち込み、微生物が分解するメタン発酵システムにより、電気と都市ガスを作り出し、電力会社やガス会社に供給しています。	https://www.takashimaya.co.jp/corp/csr/environment/recycle.html
4-1	目標4	株式会社 丸井グループ	様々な業種(小売・クレジットカード・WEB・物流・システム・ビル管理等)が1つのグループ企業である強みを活かし、無駄な商品をつくらない・売らない(製造・輸送エネルギーの削減)や店舗のCO2削減など、環境経営を積極的に推進。	http://www.0101maruigroup.co.jp/sustainability/pdf/s_report/2016/s_report2016_a3.pdf 2016年共創サステナビリティレポート・P37
4-1	目標4	ナブテスコ株式会社	排水基準の厳格化 水質管理: 事業所地域の水質基準より厳しい自社管理基準を設け、排水のモニタリング・管理を行っている。	https://www.nabtesco.com/ir/pdf/2016_12/integrated_report_2016.pdf p116-117
4-1	目標4	レンゴー株式会社	バイオマス燃料などの再生可能エネルギー利用の促進。 2016年度の再生可能エネルギー使用量: 2,522,000GJ	環境・社会報告書2017 16頁参照 http://www.rengo.co.jp/environment/yashio.html
4-1	目標4	西松建設株式会社	使用済みのてんぷら油を原料としたバイオディーゼル燃料を軽油代替燃料として建設機械に使用しました。2016年度の実績は約15万リットルです。これにより資源の有効活用と併せて約400トンのCO2削減効果がありました。	https://www.nishimatsu.co.jp/csr/environment/ecofirst.html 2017年コーポレートレポートp31

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
4-1	目標4	KDDI株式会社	一般社団法人地球温暖化防止全国ネットが主催する「低炭素杯2017」において、全国951団体の中から、KDDIの「再生エネルギーを活用した『トライブリッド基地局』」が環境大臣賞金賞を受賞しました。	http://media3.kddi.com/extlib/files/corporate/csr/csr_report/2017/pdf/report2017.pdf (上記URL:P95)
4-1	目標8	三菱ケミカル株式会社	三菱ケミカルは、地球環境への貢献を目的として、温室効果ガス排出量の削減、省資源・省エネルギーの推進、大気や水、土壌などの汚染の防止、廃棄物の発生抑制・再利用・再資源化の推進、事業活動のすべての過程において環境負荷の低減に努めている。	三菱化学 CSRレポート2016
5-1	目標7	鹿島建設株式会社	都市農地と住宅が混在する都市部において、循環型農業、ミツバチプロジェクト、生き物除草など都市の様々な課題を解決するアグリビジネスを実施。地域コミュニティと連携した持続的で循環型のまちづくりを企画・提案・実施	http://www.kajima.co.jp/news/press/201511/9e1-j.htm http://www.kajima.co.jp/gallery/biodiversity/about/index-j.php http://www.kajima.co.jp/gallery/biodiversity/ikimachi/farm/index-j.html#farm_160627_01
5-1	目標10	タキロンシーアイ株式会社	生分解性プラスチックネット基盤を利用したサンゴ群衆再生への取り組み	CSR報告書2017 P31
5-1	目標12	株式会社緑生研究所	絶滅危惧種の保全に係る研究	
5-1	目標14	株式会社 安藤・間	当社はミャンマーでODA(政府開発援助)の一環としてマングローブの植林工事を行いました。植林面積は、1,154haと世界最大規模です。マングローブは沿岸域の防災機能を担うと共に樹木として地球温暖化抑制に寄与しています。また多様な生物が生息し生物多様性に富んでいます。しかし近年農地開発などによりその面積は減少し、持続可能な利用のための植林が求められています。今後の新興国での「グリーンインフラ」整備の先駆的企業です。	http://www.ad-hzm.co.jp/csr/csr_2017.html CSR報告書2017P29
5-1	目標19	戸田建設株式会社	学校ビオトープでの生物多様性の創出と調査	http://www.toda.co.jp/solution/ecology/symbiosis/index.html
5-1	目標19	大成建設株式会社	生物多様性向上に配慮した緑地の創出を実現する計画ツール「森コンシェルジュ」を開発。	http://www.taisei.co.jp/about_us/release/2017/1439249830586.html
5-1	目標4	株式会社竹中工務店	持続可能なまちづくりを目的として、雨水の貯留・浸透空間「レインスケープ」の実証を開始した。「レインスケープ」は、豪雨時に「雨水貯留・浸透空間」としてピークカットの機能を果たすだけでなく、平常時にも地上部が魅力ある植栽空間として機能し、集客力や企業価値の向上に寄与する技術である。さらに、水質浄化後の雨水利用の促進も図ること、施設の付加価値向上に貢献する。	http://www.takenaka.co.jp/news/2016/08/02/index.html
5-1	目標14	㈱日清製粉グループ本社	「フラクタルひよけ」の提供。 自然の木陰のような涼しさと快適さを作り出す「フラクタルひよけ」を発売しています。葉脈や樹木の枝分かれのように自然界によく見られる幾何学模様である「フラクタル」にヒントを得て、日差しをさえぎりながらも風通しのよいひよけが開発されました。従来のひよけに比べ輻射熱を緩和でき、省エネやヒートアイランド現象の緩和に貢献します。	参考資料： http://www.nisshin.com/csr/special/12/innovation.html http://www.nbc-jp.com/notification/20120501.html
5-1	目標6	中央開発株式会社	海域のサンゴ礁生態系、森林生態系、田園生態系、河川生態系などの保全・再生を地域の社会経済活動に組み込み、その好循環を促すような社会デザインのコンサルティングを行っている。	http://www.ckcnet.co.jp/technology/social-design/ev/
5-1	目標19	鹿島建設株式会社	都市緑化、農園整備、水辺再生、森林活用といった自然の有する防災や水質浄化、生態系サービスなどの力を積極的に活用し、施設整備や土地利用を進める環境配慮型の社会基盤整備グリーンインフラを推進	http://www.kajima.co.jp/tech/green_infra/index.html
5-1	目標14	住友林業株式会社	緑化事業において、生態系保全に配慮し自生種を中心とした緑化植物を「ハーモニックプランツ®」として提案している。また他社と協働した「エコアセット・コンソーシアム」などを通じ、生物多様性に配慮した都市再生、既存緑地改修、里山再生などのコンサルティング事業にも取り組んでいる。	http://sfc.jp/information/society/environment/performance/preservation/service.html
5-1	目標14	清水建設株式会社	バイオミメティクス技術を活用し、ハスの葉の表面構造をコンクリートの型枠へ付与した超撥水型枠「アート型枠」を世界で初めて開発。ハスの葉の超撥水機能に学んだ形状が、コンクリートの表面に生じる気泡痕や色むらの抑制効果をもたらす。表面品質の優れたコンクリート打設を実現。さらに、ハスの葉に水が付着しないように、コンクリートを付着させない性能を有することから、型枠の再利用回数の向上により、木材資源の有効利用も可能となる。	https://www.shimz.co.jp/company/about/report/pdf/report2017.pdf シズコーポレートレポート 2017 p54
5-1	目標4	富士フイルム株式会社	化学物質の生態系への影響を把握し、生物多様性を保全するため、GLP適合確認を受けた安全性評価センターにて、社内ルール「動物倫理規則」に則り、化学物質の生態系での分解性や生物(コイ)への蓄積性を評価する試験や、生態系の水生生物(藻類、ミジンコ、魚類)への影響を評価する試験を行い、生態系への影響を幅広く評価している。さらに、動物愛護の観点から、動物実験代替法の開発等に積極的に取り組んでいる。	http://www.fujifilm.co.jp/corporate/environment/preservation/chemicalsmanagement/evaluation/03.html
5-2	目標8	日本化薬株式会社	「クリーンエコテクノロジー(CET)プロジェクト」と称して、廃水処理技術の向上及び技術者の育成を図り、排水負荷の低減及び知識の共有化を実現している。	2014年CSR報告書 P.4、P.5 http://www.nipponkayaku.co.jp/csr/report/pdf/2014/web_jp3-5.pdf

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
5-2	目標13	株式会社ツムラ	生薬の品質は日本薬局方、日本薬局方外生薬規格等の規格に適合しなければ漢方薬の原料生薬として使用することができません。そのためにも、外部形態的特徴・遺伝子鑑定技術に関する研究を行い、これらに基づいて正しい基原の薬用植物を用いて栽培研究を進めています。	ツムラグループ コーポレートレポート2017 P60
5-2	目標4	株式会社竹中工務店	持続可能な森林管理サイクルに寄与できる木材の活用・利用 ・高い耐火性能を有する木造部材「燃(も)エンウッド」の開発・実用化により、都市部においても大規模な木造建築の建設が可能となりました。国産木材の利活用を通して、森林サイクルの維持・拡大などに寄与する。 ・国産材の利活用を図るため、LVL(単層積層板)およびCLT(直交集成板)による「木材を活用した耐震改修工法」の技術開発・製品化と実プロジェクトへの適用を行っている。	「燃エンウッド」: http://www.takenaka.co.jp/solution/needs/wood/index.html 「木材を活用した耐震改修工法」: http://www.takenaka.co.jp/news/2015/07/01/index.html
5-2	目標7	アサヒグループホールディングス株式会社	当社は「酵母細胞壁」を活用した農業資材の開発に着手した。試作した農業資材で稲・馬鈴薯・小麦・大豆・りんご等を国内外で試験をし、収穫量が従来の2倍以上に達することが分かった。今後、この農業資材を国内、東南アジアをはじめ世界規模での展開を目指し、農作物の生産性向上による持続可能な食料生産を実現するとともに、化学農薬の使用削減に結びつけ、生物多様性を確保した環境保全型農業に貢献していきたいと考えている。	http://www.asahigroup-holdings.com/news/2016/0418.html
5-2	目標5	中央開発株式会社	建設事業による自然環境への影響を低減・回避し、自然環境を復元・再生するための環境コンサルティングを行っている。	http://www.cknet.co.jp/technology/social-design/ev/
5-2	目標7	武田薬品工業株式会社	生物多様性保全のため、野生品の生薬は、栽培品への切り替えを進めるとともに、甘草の自社栽培に向けた研究に取り組んでいる。	http://www.takeda.co.jp/csr/reports/index.html CSRデータブック2016 p.49
5-2	目標14	大成建設株式会社	当社独自技術「エコロジカルプランニング」は、施設の計画地を調査・分析し、その地域に最適で豊かな環境づくりを計画・実現。札幌ドームでは、15年にわたるモニタリングにより、施設稼働後に鳥や昆虫の種類が増加することを統計的に確認。又、「UNDB-J認定連携事業」に認定。	http://www.sapporo-dome.co.jp/kankyo/tayousei.html
5-2	目標15	三菱ガス化学株式会社	三菱ガス化学グループの製品は、さまざまなところで社会の環境負荷を低減することに役立っている。そのような製品を、「MGCグループ環境貢献製品」として認定・公表している。	http://www.mgc.co.jp/csr/index.html CSRレポート2017 36ページ 環境貢献製品
5-2	目標19	野村ホールディングス株式会社	●大学発新産業創出拠点プロジェクト 野村ホールディングスと野村證券は、文部科学省の「大学発新産業創出拠点プロジェクト」における「事業プロモーター」として採択されており、大学の研究開発の事業育成をサポートしている。これまでに大学院発のバイオベンチャー企業の設立を支援した。	http://www.nomuraholdings.com/jp/csr/sustainable/services.html
5-2	目標15	関西電力株式会社	弊社と株式会社環境総合テクノス、株式会社松本微生物研究所の3社が共同で、菌根菌を活用した「樹勢回復手法」と、菌根菌をはじめとする有用土壌微生物を活用した「病害抑制手法」を開発しました。	http://www.kepco.co.jp/corporate/pr/2010/0430-1j.html
5-2	目標1	株式会社竹中工務店	自然との共生 人と自然が共生する建築やまちづくりを目指して、2012年3月に「生物多様性活動指針」を定め、設計提案による都市域等での生物多様性保全に資する先進的な都市再開発なプロジェクトの創出を推進している。 土地利用状況評価ツールを一般社団法人企業と生物多様性イニシアティブ(JBIB)の活動で当社研究員がリーダーとして開発し、産業界に普及したり、社内でも建物の計画・設計や自社土地の評価に利用している。	コーポレートレポート2014(33頁) http://www.takenaka.co.jp/corp/report/pdf/2014/p31_44.pdf サステナビリティレポート2013(11頁) http://www.takenaka.co.jp/enviro/es_report/pdf/2013/p11_16.pdf 生物多様性 http://www.takenaka.co.jp/solution/needs/ecosystem/index.html
5-2	目標5	中央開発株式会社	生物の生息・生育のための基盤である地形・地質・土壌などの資源の調査とその保全・再生、利活用についてコンサルティングを行っている。	http://www.cknet.co.jp/technology/design/social-pollution/ http://www.cknet.co.jp/technology/social-design/geopark/
5-2	目標8	日本ガイシ株式会社	自動車排ガス浄化用セラミックス製品 (ハニセラム、DPF、Noxセンサー)の開発・普及	NGKレポート2017 p.102~p.105 http://www.ngk.co.jp/csr/pdf/ngk2017environment_full.pdf
5-2	目標7	株式会社ツムラ	ラオスでは、7カ所の自社管理圃場で原料生薬の栽培をすすめています。農地開墾にあたっては、自然保護に配慮し胸高の直径が40cm以上の木は残すようにしています。先進的な農業技術のノウハウを指導し、従来の焼畑農業からの脱却をはかり、循環型農業を広く普及させることで、今後も地域へ貢献していきます。	ツムラグループ コーポレートレポート2017 P61

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
5-2	目標10	丸紅株式会社	洋上風力発電、大規模太陽光発電、小水力発電、地熱発電など、環境負荷の少ない再生可能エネルギーの利用。普及に、積極的に取り組んでいる。	三峰川電力(株)における小水力発電 http://www.marubeni.co.jp/csr/environment/topics/#anc_01
5-2	目標7	日本水産(株)	ぶりの人工種苗生産による事業化を確立し、天然資源への負荷を低減している。また、持続可能な養殖事業を証明するASC認証取得にも取り組んでいる。	http://www.nissui.co.jp/social/environment/products.html
5-2	目標19	野村ホールディングス株式会社	●野村イノベーションマーケット 企業のニーズと大学の知的財産情報とのマッチングを行う「野村イノベーションマーケット」を運営。大学の知的財産情報をHPで紹介。生物多様性の保全に貢献するような研究に取り組んでいる大学は多数あり、企業側のニーズとの橋渡し役を担うことで、研究の事業化を支援。	http://nim.nomura.co.jp/
5-2	目標8	イオン株式会社	トップバリュグリーンアイ:自然の恵みから生まれた素材を活かし、人と環境にやさしい商品「トップバリュグリーンアイ」を開発。①オーガニック:農薬や化学肥料などを使用しない有機栽培を行い、公的なオーガニック認証を受けている商品。②ナチュラル:化学合成された薬品や飼料の使用を可能な限り抑えて生産・飼育開発された商品。③フリーフロム:お客さまが購入の際に気にされる添加物と原材料の中の109種類※に配慮して開発した加工食品。	http://www.aeon.info/news/2016_2/pdf/161110R_3.pdf
5-2	目標7	日本水産(株)	「資源の持続的な利用について」をホームページに掲載している。	http://www.nissui.co.jp/social/environment/resource.html
5-2	目標14	野村ホールディングス株式会社	●コンソーシアムへの参画 藻類によるバイオ燃料の商用利用に向けた活動・研究開発を行っている藻類関連のコンソーシアムに参画。藻類油脂や藻類バイオマスを化石資源に替わる燃料や原料に利用することで、限りある化石資源を使わず、カーボンニュートラルで地球温暖化を進めない社会の実現を目指している。	http://www.nomuraholdings.com/jp/csr/sustainable/services.html
5-3	目標4	サラヤ株式会社	ボルネオサバ州でのアブラヤシ園の拡大により、熱帯雨林が減少し、自然林などの野生生物の生息域が減少、保護区も分断されている。生物多様性の鍵となる川沿いの森を保護区にして、ボルネオゾウが移動できるよう川沿いの土地の確保をする。この緑の回廊計画をサラヤが設立にも加担したNGOボルネオ保全トラストが進めている。サラヤは「ヤシノミ洗剤」、「ハッピーエレファント」などの主要ブランドの売上1%でボルネオ保全トラストの活動を支援している。	http://www.saraya.com/conservation/index.html?utm_source=saraya&utm_medium=banner
5-3	目標15	株式会社日立国際電気	宮城県沿岸部の震災ガレキを活用して築いた丘陵地に、従業員が防災林を植樹するプロジェクトにボランティア参加し、生態系の復元貢献している。	http://www.hitachi-kokusai.co.jp/csr/creates/index.html
5-3	目標5	株式会社豊田自動織機	愛知県が主導する、県内全域での生態系ネットワーク形成事業と連携し、生物の生息空間を緑地などでつないで、地域本来の自然環境の創出に貢献(大府市内遊休地)	https://www.toyota-shokki.co.jp/csr/environment/management/diversity/index.html
5-3	目標15	三機工業株式会社	創立90周年を記念して、2015年10月に山梨県甲斐市で合計1,000本植林し、「三機の森」と命名しました。三機工業グループの経営層と全国各地から集まった社員が、自らの手で植林を行いました。	SANKI REPORT 2016 p69
5-3	目標11	森ビル株式会社	アークヒルズ 仙石山森タワー及び虎ノ門ヒルズの外構において、生物多様性の保全と回復に向けた緑地を創り、生物多様性評価手法であるJHEP認証(開発・運営:(公財)日本生態系協会)で最高ランクAAAを取得している。竣工後は動植物モニタリングと、農薬低減など生態系に配慮した維持管理を実施している。	http://www.mori.co.jp/company/urban_design/environment/urban_nature/c05.php
5-3	目標12	味の素株式会社	工場と地域生態系の共生を目指す 「味の素 バードサンクチュアリ in 四日市」 (味の素(株)東海事業所内に設けられた緑地)	味の素グループ サステナビリティデータブック2017 環境 P106 https://www.ajinomoto.com/jp/activity/environment/bird/
5-3	目標7	株資生堂	長命草 原産地(与那国島)の環境保全活動	http://www.shiseidogroup.jp/sustainability/env/diversity.html
5-3	目標11	ソニー株式会社	ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ(株)幸田サイトは、1972年の創立当時から「緑豊かな公園工場」を目指し、敷地内の自然林を「ソニーの森」として保全しています。2008年からはフクロウが飛翔できる空間や餌場、巣箱の設置などの活動を行い、2016年にはフクロウが営巣し、雛が3羽生まれました。フクロウを頂点とし、メジロなどの小鳥、タヌキやネズミなどの小動物が生息する豊かな生態系を築いています。	http://www.sony.co.jp/SonyInfo/csr_report/environment/site/biodiversity/koda.html http://www.sony-global-mo.co.jp/csr/index.html
5-3	目標11	いであ株式会社	自然環境に関わる技術コンサルタントとして、生物多様性上重要な土地を特定し、効率的に保全することを目的とした、生物・生態系に関する統計モデルの技術開発等を行っています。	GIS環境解析によるクマタカ営巣可能性評価システム http://ideacon.jp/technology/leaflet/e1-08_hawk-eagle.html

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
5-3	目標5	レンゴー株式会社	事業所/工場敷地内でのビオトープ造成 自然と親しみ生物多様性の重要性を考える機会の提供として、工場にビオトープを設置し、地元の団体と協働で蜚の生育を行っている。	環境・社会報告書2017 24頁参照 http://www.rengo.co.jp/environment/biodiversity.html
5-3	目標15	関西電力株式会社	発電所では自然に近い森を短期間でつくるため、地域に適した植栽樹種の苗木を選定し、密植・混植しています。形成した森では外来種駆除を行い、地域本来の生物多様性を守るための環境づくりに努めています。	関西電力グループ レポートP57 http://www.kepco.co.jp/sustainability/csr/data/index.html
5-3	目標1	株博報堂DYホールディングス	FSCジャパンより博報堂社員へ、国際森林認証FSCの普及・啓蒙のためのコミュニケーション戦略の知見要請を受け提供。	
5-3	目標15	キヤノン株式会社	米国、オーストラリア、中国、マレーシアなど、世界各地のグループ会社で植林活動を継続的に展開しています。 キヤノンマーケティングマレーシアは、複合機の販売ごとに参加を表明された顧客企業とともに植樹を行う「One Canon, One Tree」プログラムを行い、2016年は社員、家族、顧客企業、地域の大学生など300人が参加し、1,000本の植樹を行いました。	http://global.canon/ja/csr/report/pdf/canon-sus-2017-j.pdf キヤノンサステナビリティレポート2017 P68
5-3	目標15	積水化学工業株式会社	京都研究所では、2015年度より、京都市の「京都市生物多様性プラン」に従い緑地の見直しを実施しています。緑地づくりのコンセプトを作成し、それを実現する第1弾として、野生の「藤袴」を中心とした10種類の植物で「京(みやこ)の草地」を再現したビオトープを創りました。	2016年CSRレポートp27
5-3	目標15	いであ株式会社	自然環境に関する技術コンサルタントとして、生物多様性を効果的に保全・再生するための技術開発を行っています。	サンゴ礁の再生と創造 -連結式着床具によるサンゴ種苗移植- http://ideacon.jp/technology/leaflet/e3-12_coral.html
5-3	目標15	株式会社SUBARU	埼玉製作所がある北本市の東光寺には、大正11年に国の天然記念物に指定された、日本五大桜のひとつに数えられる石戸蒲ザクラがあります。埼玉製作所では、この後継樹を2003年3月に譲り受け、敷地内で大切に育てています。工場見学にいらした小学生のみなさまに石戸蒲ザクラの由来と希少種保全の大切さを学んでいただきました	https://www.subaru.co.jp/csr/environment/09_0_biodiversity.html
5-3	目標15	関西電力株式会社	当社は自社の自然環境資源を環境教育や地域との連携・交流に活用することを目的として、発電所にビオトープを造成してきました。兵庫県奥多良木発電所のビオトープでは貴重なモリアオガエルの産卵を確認することができます。	http://www.kepco.co.jp/sustainability/kankyou/report/region/seibutsu02.html
5-3	目標5	株資生堂	パーム油課題への取組み	http://www.shiseidogroup.jp/sustainability/env/diversity.html
6-1	目標1	オリンパス株式会社	企業と地域の交流を深め新しいかたちの森林づくりをめざす、長野県の森林(もり)の里親促進事業に賛同し、辰野町および門前山林組合と「森林(もり)の里親」協定を締結しました。2014年度以降、春と秋の年2回、長野事業場の従業員と家族、地域住民が協力し、遊歩道の整備などの森林整備活動を実施しています。	https://www.olympus.co.jp/csr/activities/2016/csr00479.html
6-1	目標19	(株)ニコン	生物多様性復元と持続可能な地域づくりに取り組む「赤谷プロジェクト」を2005年から継続的に支援。これは群馬県みなかみ町を中心とした国有林「赤谷の森」で実施される、生物多様性の復元のための科学的かつ実証的な森づくりで、国、地域住民、公益財団法人日本自然保護協会により活動が推進されている。	http://www.nikon.co.jp/sustainability/contribution/earth/akaya-project/index.htm
6-1	目標5	(株)東芝	東芝テックヨーロッパ画像情報システム社(フランス)では、鳥類保護のために、現地NPO法人と連携し、工場敷地内に保護地区を設け、緑地の草刈り時期の変更や飛来数調査を行っています。このような生物多様性保護の取り組みや地域での環境活動が評価され、ノルマンディーで毎年開催される持続可能な環境貢献活動表彰の「審査員賞」(最優秀賞)を受賞しました。	
6-1	目標4	株式会社クラレ	(クラレ岡山事業所「クラレ岡山みらいの森」活動) 2008年に岡山県の「企業との協働の森づくり事業」に参加し、以降毎年、クラレ岡山事業所の従業員とその家族が町有林に植樹などを行い、「クラレ岡山みらいの森」として保全を行う森づくり活動に取り組んでいる。	http://www.kuraray.co.jp/release/2014/140903.html
6-1	目標10	積水化学工業株式会社	連結売上高に占める環境貢献製品の売上高比率を2016年度に50%以上に拡大することを環境中期計画の目標に掲げています。2016年度は、エスロート地中熱や大容量フィルム型リチウムイオン電池等を環境貢献製品に加え、売上高比率の年度目標の45.2%となりました。	2017年CSRレポートp25、 資料編p11
6-1	目標11	日産化学工業株式会社	2016年度より、埼玉県蓮田市のNPO法人「黒浜沼周辺の自然を大切にす会」への支援を開始しました。「黒浜沼周辺の自然を大切にす会」は、埼玉県のさいたま緑のトラスト協会のトラスト保全11号地に指定されている黒浜沼周辺における生物多様性保全活動を長年に亘り行っています。ジョウロウスゲ等の絶滅危惧種の育成、近隣の小中学生の環境学習にも貢献しています。	http://www.nissanchem.co.jp/csr/info/pdf/csr2017_p51-52.pdf
6-1	目標1	日本ガイシ株式会社	「MY行動宣言」への従業員参加	来年度のNGKレポート 掲載予定

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
6-1	目標11	旭化成	SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワーク:企業、行政、研究機関、NGO・NPOが連携して取り組みを進める「SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワーク」に発起団体として参加。各事業所の取り組みを活動事例集として掲載。また現地視察会その他、2016年度は第1回アジア生物文化多様性国際会議にも参加	http://www.asahi-kasei.co.jp/asahi/jp/csr/rc/environment/diversity.html CSRレポート2017:生物多様性保全 http://www.pref.ishikawa.jp/satoyama/ SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワーク
6-1	目標11	清水建設株式会社	他地域の植栽樹木による遺伝的なかく乱、遺伝的多様性の減少を防ぐため、植栽によく使われる3種の樹木(イロハモミジ、ヤマザクラ、ヤブツバキ)を対象として、中部大学応用生物学部と共同で、遺伝子解析による判別手法を開発。植栽樹木の由来調査(スクリーニング)に基づく供給体制やトレーサビリティの確立を目指している。	https://www.shimz.co.jp/company/csr/environment/pdf/report2014.pdf シミズCSR報告書2014 p42
6-1	目標1	東亜合成株式会社	愛知県「企業の森づくり」、徳島県「協働の森づくり」、富山県高岡市「伏木ふれあいの社」での間伐等活動 鶴見川クリーンキャンペーン、小矢部川サケの稚魚放流等活動への参加	http://www.toagosei.co.jp/csr/csr_report/ 東亜合成グループレポート2017の46ページの生物多様性保全を目的とした活動
6-1	目標14	日立建機株式会社	日立建機(上海)は2004年から10年間で、「日立建機の森」と称した10万㎡の造林事業を環境NGO緑化ネットワークへの委託事業として植林、緑化を行ってきました。続く2014年から日立建機(中国)も加え、新たな13万㎡の10年計画を立てて、中国国内の取引先14社とともに13万㎡の緑化を推進しています。	https://www.hitachim.com/global/jp/environment-csr/csr/news/news-2016/csr2016-11j/
6-1	目標7	富士フイルム株式会社	富士フイルムグループの主力工場の一つである富士フイルム九州は、九州・南阿蘇村の地下水の涵養・保全、休耕田が目立ち始めた山間地の水田や景観の維持の2点を目的に、南阿蘇村が主体となって活動展開している。南阿蘇村農家と企業・都市部の人々が共同で米を作り、水田を維持する取組みの「水田お助け隊」に2010年度より参加し、社員みずから田植、稲刈り作業を行うなど、地域と協働し生態系保全活動を続けています。	http://ffq.fujifilm.co.jp/csr/regional/?_ga=2.182414183.1766953690.1506412847-225037801.1445923924
6-1	目標9	伊藤忠商事株式会社	京都大学が国立アマゾン研究所と進めるアマゾンの熱帯林における生態系保全プログラム「フィールドミュージアム構想」の主要施設となるフィールドステーションの建設を支援。動植物長期モニタリング研究拠点となり、また、研究者以外の来場者にもアマゾンの熱帯雨林に生息する多種多様な動植物・豊かな自然と触れあう機会を提供し、地域住民や観光客の方々への環境教育に貢献。	(弊社HP参照) https://www.itochu.co.jp/ja/csr/social/amazon/index.html
6-1	目標7	株三越伊勢丹ホールディングス	岩田屋三越(福岡市)では、2017年度からJA佐賀、JAからつのご協力のもと、唐津市大浦の棚田を「岩田屋三越ファーム」と名付け、従業員が米づくりにチャレンジした。農家の高齢化、人手不足で減反が進む中、日本の棚田百選にも選ばれた美しい景観と生態系の保全、地域振興を目的に、春先の田作りから、育苗、田植え、月2回の草取りなどに取り組んできた。秋には20人が稲刈りをして1トンの米を収穫、店頭での販売も行った。	http://www.imhds.co.jp/csr/
6-1	目標12	三菱重工工業株式会社	当社グループは、認定NPO法人アースウォッチ・ジャパンの主催する「種子島のアカウミガメ調査」を2015年度より支援しています。アカウミガメは、世界的に絶滅が危惧されており、種子島は日本で2番目にアカウミガメの産卵が多い地域でありながら、これまで保全のための個体識別調査がほとんど行われてこなかったため、種子島での調査がアカウミガメの生態の解明と保全に繋がることが期待されます。この事業は「国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)」が推奨する事業として認定を受けています。	http://www.mhi.co.jp/csr/environment/biodiversity_turtle.html
6-1	目標7	大栄環境株式会社	社有林における皆伐の原則廃止と森林構造の複雑化(近自然化)に向けた試験施業	2017年環境報告書 P.13-16
6-1	目標14	株式会社 大垣共立銀行	岐阜県および揖斐川町と「恵みの森林づくり協定」を締結し、スキー場跡地にて、協働で植樹による森林再生活動を行うとともに、従業員の環境保全意識向上を図っている。	
6-1	目標13	日立キャピタル(株)	食、農事業のJ-GAP認証、グローバルGAP認証を産学共同で取得	http://www.hitachi-capital.co.jp/hcc/newsrelease/2017/20170822.pdf
6-1	目標1	三井製糖株式会社	当社は、砂糖事業と関係の深いさとうきび産業と共生した自然を守ることが社会的責任の一つであると考えております。さとうきび産業があり、貴重な固有種が数多く存在する鹿児島県徳之島で、島民の環境教育を主とした生物多様性保全活動を行うNPO法人「徳之島虹の会」と一緒に、徳之島全域のボランティア清掃活動へ参加しました。また徳之島の豊かな自然と、生物多様性保全活動の取り組みを紹介した写真展・講演会を東京本社で開催しました。	徳之島虹の会HP: http://www.shimaniji.net/ 弊社2017年CSR報告書 P15
6-1	目標1	エイビーピー・ジャパン株式会社	2014年APPIは自然林伐採停止に加えて、自社植林地と同等規模の「100万ヘクタールの熱帯雨林の保護・再生」を支援すると表明しました。現在、地元政府とNGO、地域社会など多くのステークホルダーとともに活動を開始しています。	2015年CSR報告書

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
6-1	目標1	オリンパス株式会社	海の自然に目を向け、親しみ、ふれあいを深めること、そして海の環境問題を考えるきっかけ作りとして「未来に残したい海プロジェクト」を2011年に開始しました。NPO法人OWSと協働し、小中学生を対象にした「海辺の生き物観察&カメラ教室」やクラブ教室、「未来に残したい海」をテーマとした子どもフォトコンテストを毎年実施しています。また、NPO法人美ら海振興会の協力のもと、沖縄における珊瑚の植付を実施しています。	https://www.olympus.co.jp/csr/activities/2017/csr00595.html
6-1	目標5	日産化学工業株式会社	Nissan Chemical America Corporationではアーモンドバイユー自然センター(ABNC)へのメンバーシップに参画しました。ABNCは米国テキサス州ヒューストン、ガルベトン地域にある約10平方キロメートルの広さを持つ自然豊かな大草原や湿地帯および森林帯であり、都市近郊における最大の自然保護区域の一つとなっています。	http://www.nissanchem.co.jp/csr/info/pdf/csr2017_p51-52.pdf
6-1	目標19	株式会社ツムラ	ツムラで絶滅危惧種を含む野生植物の調査・研究にかかわる国際的学術雑誌「植物研究雑誌」を刊行し2016年に100年を向かえました。これまで本誌には約9,000編の論文が発表され、また最近10年で植物・藻類・菌類の新学名が約750点発表されるなど植物分類学の日本の代表的なジャーナルのひとつとして評価されています。	ツムラグループコーポレートレポート2017 P61
6-1	目標14	ブラザー工業(株)	ブラザーインダストリーズ(スロバキア)は、2004年に発生した大規模な自然災害によって、12,000ヘクタールもの森林が破壊されたタトラ山脈の姿を取り戻すために、地元のNPO団体「ZASAD STROM」と共に植樹活動を開始。	http://www.brotherearth.com/ja/activity/slovakia.html
6-1	目標12	旭化成	湖東地域 生物多様性ネットワーク:当社グループを含む滋賀県湖東地域の企業4社が、トンボの調査・保全活動で連携した取り組みを実施。企業の持つ緑地が地域のエコロジカルネットワークの重要なポイントであるとともに、従業員や取引先など人のネットワークが生物多様性保全の主流化に向けた取り組みとなる事を目指して活動を展開している。	http://www.asahi-kasei.co.jp/asahi/jp/csr/rc/environment/diversity.html CSRレポート2017:生物多様性保全 http://bd20.jp/dantai/detail.php?id=4455 にじゅうまるプロジェクト
6-1	目標1	損害保険ジャパン日本興亜株式会社	「CSOラーニング制度」 大学生・大学院生を対象とする環境NPO/NGOでの8か月間の長期インターンシップ制度。2000年から開始し、1000人を超える方々に環境問題や市民社会について学ぶ機会を提供しています。	http://www.sompo-hd.com/csr/action/npoc/content5/
6-1	目標8	前田建設工業株式会社	■マエダベトナムにおける森林復旧活動支援 マエダベトナムでは、ベトナム戦争当時の枯葉剤によって枯死した森林の復旧活動に取り組むNGO Viet Nature Conservationに支援を行っています。 本プロジェクトでは、木材の生成および土壌改良を目的にまずは成長の早いアカシアを植樹し、その後、徐々に在来種を植樹しながら、元来の森の姿に戻していく計画です。いずれは、現地で植樹活動等を実践することも検討しています。	http://www.maeda.co.jp/csr/report/pdf/2017_2017_report.pdf 2017年CSR報告書P49
6-1	目標1	日本テクノ株式会社	年1回、沖縄県の自治体が開催するビーチ清掃に参加し、ビーチの清掃を行うことで、水質汚染の防止を行い、生物多様性の保全活動を行っています。	
6-1	目標1	㈱博報堂DYホールディングス	博報堂社員が、環境省の「つなげよう森里川海」の全国各地でのミーティングの開催支援、「国連生物多様性の10年日本委員会」のメンバーとして「生物多様性アクション大賞」の企画・運営を実施。	
6-1	目標9	伊藤忠商事株式会社	京都大学が国立アマゾン研究所と進めるアマゾンの固有種であり絶滅危惧種に指定されているアマゾンマナティの野生復帰事業を支援。事業を通じて、アマゾンの生態系保全への貢献、地域住民への環境教育・啓蒙に貢献。また、より多くの人々の生物多様性保全に対する意識向上を目指し、日本の各種メディアを通じた本事業の紹介、推進活動を実施。	(弊社HP参照) https://www.itochu.co.jp/ja/csr/social/amazon/index.html
6-1	目標4	参天製薬株式会社	当社の主力工場である能登工場では、石川県が里山里海保護活動などの取り組みを認証する「いしかわ版里山づくりISO」認証を取得し、地元の地方自治体と連携・協力して森林保全活動に取り組んでいる。	http://www.santen.co.jp/ja/csr/eco/eco003.jsp
6-1	目標15	(株)日立物流	①(公社)国土緑化推進機構 (東日本大震災復興支援に向けた「緑の基金」へ寄付) ②(公財)オイスカ「子供の森計画」 (子供達自身が学校の敷地に苗木を植えて育てる活動を寄付支援。)	http://www.hitachi-transportssystem.com/jp/ir/library/annual/
6-1	目標7	コマツ	コマツの粟津工場(石川県)は、石川県、かが森林組合と協働して、地域林業で未利用となっていた間伐材をバイオマスチップ燃料として利用することで、地域の林業活性化、森林整備、工場の購入電力及び重油削減、CO2排出削減等を目指した活動を行っている。	https://home.komatsu.jp/csr/report/ 環境報告書2016 P3-4
6-1	目標12	株式会社ジェイテクト	奈良工場では、すでに自然界で絶滅したといわれている淡水魚:ニッポンバラタナゴの里親活動を推進されている近畿大学の活動に賛同し、2017年から工場内にある池をビオトープとして生息環境を整え、繁殖活動を進めています。今後は生息域の清掃・維持活動のために社員の家族や地域の方々、近隣の学生にボランティアを募集し、多くの方に参加いただくことで活動を広げていきます。また、繁殖が成功したら近隣の小学校や施設へ譲り、保護活動の拡大を図っていきます。	https://www.jtekt.co.jp/news/170927.html ニュースリリース
6-1	目標12	㈱三越伊勢丹ホールディングス	生物多様性保全を象徴する「Kiss the Earth」のスローガンのもと、2016年8月に「テクノ・ブローチ・チャリティキャンペーン」を全国28店舗で開催し、シマフクロウなど絶滅危惧種の猛禽類保護を呼び掛けた。収益金の227万円余は、この取組みを推進する滝川クリステルさん主宰の団体に寄付し、ドクターカーの購入などに使われた。	http://www.imhds.co.jp/csr/

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
6-1	目標5	三菱重工株式会社	当社グループは各地の自治体などと連携して森林保全活動を推進しています。多様な生物が生息する森林を守るため、社員やその家族が中心となって植樹や間伐などの活動に継続的に取り組んでいます。また、NPOなどと連携し、日本の生態系に影響を与える外来生物の駆除活動にも積極的に参加しています。	http://www.mhi.co.jp/csr/environment/biodiversity_forest.html
6-1	目標12	株式会社 大垣共立銀行	木曾三川流域生態系ネットワーク(木曾三川流域の生物とヒトの共生を目指す取組)にエコネット応援団として参加。イタセンバラ(国指定天然記念物)やハリヨ(指定希少野生生物)の保護活動やその啓蒙活動に協力している。	
6-1	目標19	株三菱東京UFJ銀行	環境教育プロジェクト「守ろう地球のたからもの」・三菱UFJ環境財団と日本ユネスコ協会連盟と共同で、子どもたちが自然環境や生物多様性の素晴らしさを知り、「サステナブル」な感性を育むことができるよう「学び」「気づき」「行動」の機会を提供。	http://www.mufg.jp/csr/juten/community/hozen/
6-1	目標4	イオン株式会社	持続可能な調達:2014年持続可能な調達原則を策定し、2017年には水産物、畜産物、農産物、紙・パルプ・木材、パーム油について、各々調達方針及び2020年目標を定め取り組んでいる。定期的なリスクアセスメントの実施や情報共有のほか、生物多様性や持続可能性に配慮した生物資源の認証(MSC、ASC、FSC [®] 、オーガニックなど)商品積極的に開発し、売り場での展開を拡大。お客様には掲示物、動画やリーフレットなどで普及啓発に努めている。	http://www.aeon.info/environment/procurement/general.html
6-1	目標1	エイビービー・ジャパン株式会社	スマトラ島の絶滅危惧種であるスマトラ象の保護活動をWWFインドネシアなどの関係者と共に行っています。現在の対象地域はリアウ州のGSKとジャンビ州のプキット・ハツ国立公園の景観地域です。	2015年CSR報告書
6-1	目標1	サラヤ株式会社	2008年に生物多様性条約第9回締約国会議(CBD COP9)でドイツ環境省が立ち上げた「ビジネスと生物多様性イニシアティブ」に設立時に署名・参加した。2010年の名古屋開催COP10時点で日本の参加企業10社であったが、現在は弊社の他2社のみである。昨年のCOP13まで発表やサイドイベントの主催など実施。	http://www.business-and-biodiversity.de/en/about-us/members/saraya/
6-1	目標19	アジア航測株式会社	【地域との協働】アジア航測は、当社が有する環境や防災技術や知識を地域の防災意識・自然環境保全意識の向上に活かすため、環境教育活動、自然環境保全活動を推進しています。2016-2017年の活動では、本社のある神奈川県川崎市での環境・防災講座の実施、群馬県みなかみ町でのNPOと協働した森林保全活動等を実施しました。	http://www.ajiko.co.jp/article/list/CT3/SC2/ http://www.ajiko.co.jp/CSRLレポート2016p22-26
6-1	目標20	カシオ計算機株式会社	G-SHOCKとBABY-Gは「Love The Sea And The Earth」というテーマのもと、「アイサーチ・ジャパン」(国際イルカ・クジラ教育リサーチセンター)と「アースウォッチ・ジャパン」のふたつの環境保護団体の活動を、これらの団体の協賛モデルを通して支援しています。	http://www.casio.co.jp/csr/env/biodiversity/
6-1	目標12	キヤノン株式会社	1981年4月から、ナショナルジオグラフィック誌に環境広告「WILDLIFE AS CANON SEES IT」を掲載し、野生動物が直面する自然の状況を紹介しているほか、イエローストーン国立公園の貴重な野生動物たちをモニタリングする「Eyes on Yellowstone」の活動を継続するなどキヤノンの映像技術を活用した取り組みを各地で進めています。	http://global.canon/ja/csr/report/pdf/canon-sus-2017-j.pdf キヤノンサステナビリティレポート2017 P66
6-1	目標19	ミサワホーム株式会社	全国の学校生活共同組合や教育関連団体と連携し、極地研究所の協力を得て教育支援プログラム「南極クラス」を開催。	www.misawa.co.jp/corporate/csr/ 2017年CSRレポートp40
6-1	目標19	住友ベークライト株式会社	ピオトープを多くの方にご理解いただくために、従業員や家族・地域の方々とのかわりにも取り組んでいます。社内では、ピオトープ委員会を中心とした施設内の整備活動のほか、従業員とご家族をお招きした観察会では、自然との触れ合いの場を企画しています。社外へは、市役所とのコミュニケーションや近隣企業の方との情報交換に取り組んでいます。	CSRレポート2017 http://www.sumibe.co.jp/csr/report/files/csr2017.pdf
6-1	目標7	マツダ株式会社	2010年に広島県と森林保全活動に協力する「森林保全・管理協定」を締結し、広島県緑化センター(広島市東区)内の「マツダの森(愛称)」を中心に地域の森林保全活動に協力している。また同時に「ひろしま森林(もり)づくりフォーラム」に加入し、広島県内の森林関係団体などと連携し「企業の森づくり」を推進している。また、山口県では県が主催する「企業との協働による水源の森づくり」の活動に参加している。	マツダサステナビリティレポート2017【社会貢献版】(「地域の森林保全活動に協力:P8、P13」) http://www.mazda.com/globalassets/ja/asset/csr/download/2017/2017_s_all.pdf
6-1	目標15	三機工業株式会社	当社は、『SANKI YOUエコ貢献ポイント』制度を2010年10月より展開しています。当制度は、お客さまに省エネ提案が採用された場合、CO2削減量をポイント(1トンあたり100円)に換算して、環境保全活動に寄付するものです。	SANKI REPORT 2017 p66
6-1	目標17	森ビル株式会社	東京都と「江戸のみどり復活事業」で官民連携をし、アークヒルズ 仙石山森タワーは「江戸のみどり登録緑地」の最初の登録事例となっている。港区では「生物多様性みなとネットワーク」に参加し、協働して緑地でのワークショップ等を開催している。また、都市緑化機構や日本鳥類保護連盟とも連携している。	http://www.mori.co.jp/company/press/release/2017/09/2017092014000003503.html
6-1	目標14	大同特殊鋼	各工場の地域社会に対する取り組みに対して積極的に取り組んでいます。	2017年CSR報告書P19~20
6-1	目標12	王子ホールディングス株式会社	国内外の社有林において、絶滅危惧種(高山植物、魚類イトウ、鳥類ヤイロチヨウ、キウイ、ムトン等)、希少植物(スズラン)の保全活動をNPO等と協働で推進している。	「王子グループレポート2017」;P43
6-1	目標7	新日鐵住金株式会社	当社は、福島県相馬地域において東日本大震災に伴う津波被害農地の除塩対策に取り組まれる東京農業大学に対して、復興支援の観点で踏まえ、転炉スラグ肥料を約20トン無償提供し、研究に協力して参りました。2011年5月よりイチゴハウス、同年9月より水田1.7haに対して転炉スラグ肥料を施肥した結果、同肥料が迅速かつ効率的な除塩に極めて有効な方法であることが実証され、相馬方式(東京農大方式)を確立しています。	http://www.nssmc.com/product/slag/index.html http://www.nssmc.com/news/20130308_100.pdf

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
6-1	目標9	ダイハツ工業株式会社	・外来植物駆除ボランティア活動 2016年度から本社(池田)工場の西側を流れる猪名川河川敷において、地域の活動団体とグループ会社と連携し、外来植物「アレチウリ」を駆除する活動を行っている。	https://www.daihatsu.com/jp/csr/conservation/biodiversity.html
6-1	目標15	(株)日立物流	③NPO法人緑化ネットワーク (中国ホルチン砂漠日立物流「まごころ基金の森」の毎年1ha増林委託)	http://www.hitachi-transportssystem.com/jp/ir/library/annual/
6-1	目標5	コマツ	コマツ大阪工場では2016年3月「おおさか生物多様性パートナー協定」を大阪府、大阪府立大学、大阪府立環境農林水産総合研究所、枚方市とともに締結した。大阪工場内の緑地(コマツ里山)での生物多様性に配慮した管理を通じて、エコロジカルネットワークの構築を進めている。	https://home.komatsu.jp/csr/report/ 環境報告書2016 P21
6-1	目標11	積水ハウス株式会社	◆都心部での生態系配慮公開空地提供 本社のある梅田スカイビルでは大阪駅前の都心の中心部であるが、8000㎡の緑地に「新・里山/希望の壁」という生態系に配慮した在来種中心の雑木林や田畑を設けて地域の生態系に貢献する緑地を設け、地域に公開している。この緑地は都市緑化機構の「緑の都市賞」で民間企業としてははじめて最高位の内閣総理大臣賞を受賞している。	場所紹介 受賞リリース https://www.sekisuihouse.co.jp/company/topics/detail/1191341_1381.html
6-1	目標6	株式会社 熊谷組	・「生物多様性への取り組み」についての環境省地球環境審議官との意見交換会開催(2015.01.29 於環境省) ・生物多様性シンポジウム「ホルビトーフ技術」の事例発表及びパネルディスカッション参加(2016.05.30 経団連自然保護協議会主催)	CSR報告書2015p34 CSR報告書2016p40
6-1	目標19	株式会社ツムラ	高知県において生薬の契約栽培先である生産団体、県、町そして当社の4者による「土佐ツムラの森」協働の森づくり事業を実施しています。事業では、町内の森林の間伐など森林整備による仁淀川水系の水源保全を目的とした環境保全活動を実施しています。また、地元中学校との協働で森林や薬草園などのフィールドを活用した自然体験や実習を実施し、環境意識の高揚と参加者同士の交流を深めています。	ツムラグループコーポレートレポート2017 P62
6-1	目標19	ブラザー工業(株)	ブラザーインターナショナル(オーストラリア)は、国際的な環境NPOであるアースウォッチと共に2008年から海洋生物保全のサポートを開始。プロジェクトの目的は、オーストラリア海域に生息するマンタの生物学的特性を調査すること。	http://www.brotherearth.com/ja/activity/austrialia.html
6-1	目標10	マルハニテロ株式会社	水質浄化やCO2削減に役立つ「アマモ」を増やし、東京湾を豊かな海に再生する「東京湾UMIプロジェクト」の協力企業として、2015年度から「アマモ場再生活動」に参加。毎年春に行われる花枝採取活動には、NPOの指導のもとに、グループ従業員とその家族が参加し地域の環境保全に貢献。	http://www.maruhanihiro.co.jp/csr/environment/biodiversity.html
6-1	目標19	住友ベークライト株式会社	海外では希少植物の植樹など地域の取り組みに参加しています。さらに、経団連生物多様性宣言推進パートナーズに参加し、この宣言に沿って当社グループで可能な取り組みを行っています。	CSRレポート2017 http://www.sumibe.co.jp/csr/report/files/csr2017.pdf
6-1	目標12	パナソニック株式会社	市民ネットワークとの連携で希少種を保全 パナソニックエコリレージャパンとして保全活動 淀川のイタセンバラ(国の天然記念物)の野生復帰活動に参画(2016年10月「国連生物多様性の10年日本委員会」の連携事業に認定。	http://www.panasonic.com/jp/corporate/sustainability/downloads.html サステナビリティデータブック2017
6-1	目標14	森ビル株式会社	アークヒルズでは「ヒルズマルシェ」と称したマーケットを、NPO法人農家のこせがれネットワークと連携し週2回開催している。新鮮な野菜・果物などの生産物と、農業に携わる方々との楽しいコミュニケーションを通じて、自然の恵みを味わい体感することができる機会を提供している。	http://www.arkhills.com/hillsmarche/
6-1	目標7	三井不動産株式会社	今年度、以下の自治体(組織)と森林保全を核とした協定を締結した。 1. 7月に北海道下川町と、適正な森林管理と活用(終わらない森づくり)を基軸とした持続可能な地域社会の実現に取り組む連携協定を締結。 2. 6月には東京都水道局とも水道水源林の保全に関する協定締結。協定エリアにて共同で水源林保全活動を進める他、社員研修も実施の予定。 (右記サイト内に11月末、告知ページをアップ予定)	http://www.mitsui-fudosan.co.jp/and_forest/
6-1	目標15	株式会社 高島屋	タカシマヤローズセレクション(カタログ型ギフト)における社会貢献ギフトの展開:①NPO法人ドングリの会(広葉樹の森を育て、緑の地域へ)②公益法人オイスカ(東日本大震災により被害を受けた海岸林再生プロジェクトの一環として育苗を通じた農家の支援等を行っています。	https://www.takashimaya-rs.jp/dcatalog/17RS_WR/_SWF_Window.html
6-1	目標19	中央開発株式会社	社員の自主的な自然環境の保全に関する社会貢献活動を技術的に支援している。	
6-1	目標11	東レ株式会社	社会貢献活動を通じた生物多様性保全を進めている。荒川クリーンエイドを開催し、NPO法人「荒川クリーンエイドフォーラム」から生物多様性を含む環境保全教育を受講後、「調べるゴミ拾い」を継続しています。	http://www.toray.co.jp/csr/activity/safety/biodiversity.html 東レグループCSRレポート2017(P63)で公開
6-1	目標5	株式会社ジェイテクト	徳島工場では、2011年に徳島県と「とくしま協働の森づくり事業」に関するパートナーシップ協定を締結し、森林整備活動に継続的に取り組んでいます。本事業は企業や一般家庭が排出するCO2のうち、自身で削減できない部分を間伐や植林など森林整備による吸収で削減する「カーボンオフセット」の仕組みを取り入れた活動です。	https://www.jtekt.co.jp/csr/pdf/2017/04_CSR2017.pdf CSRレポート2017 pE.22

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
6-2	目標5	キヤノン株式会社	2015年に活動を開始したキヤノン(株)下丸子本社では、事業所内の広大な緑地「下丸子の森」に巣箱や水浴用「バードバス」を設置し、野鳥の生育環境を整備するとともに、ネットワークカメラによる定点観測や、あらかじめ設定したルートに沿って鳥類を観測する「ルートセンサス」の実施など、継続的な鳥類調査を行っています。	http://global.canon/ja/csr/report/pdf/canon-sus-2017-j.pdf キヤノンサステナビリティレポート2017 P24
6-2	目標1	㈱博報堂DYホールディングス	博報堂のクリエイティブボランティアで「にじゅうまるプロジェクト」のロゴおよび、愛知ターゲット20の個別目標を分かりやすく伝えるコピーとイラストを制作。	
6-2	目標5	㈱資生堂	椿の森 植林保全活動(和歌山、長崎、横浜)	http://www.shiseidogroup.jp/sustainability/env/diversity.html
6-2	目標19	アジア航測株式会社	【自然災害発生時の情報提供】アジア航測は、自然災害発生時に、被災エリアの空中写真自主撮影を行い、関係機関等への情報提供を行っています。2015年は阿蘇山噴火など4件、2016年は熊本地震など2件、2017年度は九州北部豪雨災害の空中写真撮影を行い、被災地への情報提供を行いました。また、エコファーストの一環として、2013年から2020年までの計画で、東日本大震災での被災エリアのモニタリングを行っています。	http://www.ajiko.co.jp/csr/ecophoto.html http://www.ajiko.co.jp/CSRレポート2016p33-p43
6-2	目標4	カシオ計算機株式会社	2016年度から、電機・電子4団体の生物多様性ワーキンググループに参加しました。WGの活動を通じて生物多様性保全に貢献するとともに、当WGに参加している先進企業の活動を参考にしつつ、生物多様性の取り組みの活動の幅を広げていきます。	http://www.casio.co.jp/csr/env/biodiversity/
6-2	目標4	いであ株式会社	生物多様性についての専門のコンサルティングサービスを提供する部署を設置し、企業による生物多様性の保全と持続可能な利用について、基本的な考え方や取組の事例について調査・研究を行い、要請があった場合には研修会等での発表、企業への支援業務を行っています。	生態系サービスを支える社会づくりー生物多様性の主流化ー http://ideacon.jp/technology/inet/vol44/vol44_tops.pdf
6-2	目標1	三井住友海上火災保険株式会社	企業と生物多様性イニシアティブ(JBIB)は、2008年4月に設立され、生物多様性に関する問題を研究しているが、当社は会長会社としてJBIBの活動に積極的に参加し、推進している。JBIBの特別協力を得て、企業が生物多様性の取り組みを行うための啓発活動としてシンポジウム「企業が語るいきものがたり」を毎年開催している(2017年3月に第10回目を開催)。なお、JBIBはイオン環境財団の第5回生物多様性日本アワードの優秀賞を受賞した。	http://www.ms-ins.com/company/csr/environment/maintenance/
6-2	目標12	トヨタ自動車株式会社	2016年にWWF(世界自然保護基金)と5年間のパートナーシップを開始。これは、自動車業界として世界初。生物多様性保全の取り組みとして、WWFが東南アジアの熱帯林と野生生物を守る活動(「生きているアジアの森プロジェクト」)に100万米ドルを助成し、支援を始めました。	環境報告書2017p39 http://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/report/archive/er17/pdf/er17_full.pdf
6-2	目標12	パナホーム株式会社	『つながりのひろば』を活用した環境教育(生物多様性)を年3回実施(約150名)	-
6-2	目標4	住友商事株式会社	鉱山開発における生物多様性の取り組みを「生物多様性の民間参画に向けた日本の取組」第2版に公表、更に他の事例も合わせて「生物多様性民間参画シンポジウム in 大阪」(2015年8月27日)で講演	(環境省HP参照) http://www.env.go.jp/press/101230.html
6-2	目標1	清水建設株式会社	当社技術研究所内に2006年に設置した都市型の大規模ビオトープ「再生の社」では、10年間のモニタリングの結果、植物種数が当初の200種から296種に増加。魚類総数は当初から2.5倍に増加。昆虫類、鳥類も安定的に飛来、採餌、繁殖を行うなど、都市部の人工的な緑地が生物生息環境を着実に形成。これまでに延べ16000人の見学者が訪れた他、毎年、再生の社を産卵・子育ての場としているカルガモや、魚を食べるカワセミの動画などをWEBで公開中。	https://www.shimz.co.jp/company/about/news-release/2016/2016020.html https://www.shimz.co.jp/company/about/sit/facility/facility13/
6-2	目標1	株式会社 安藤・間	当社は社内各部署のメンバーからなる生物多様性推進WGにおいて、「生物多様性に関するガイドライン」の制定・改定、生物多様性関連の着目現場・提案の選定、関連資料のデータベース化、社内外へのPR活動などの取り組みを行なっています。その一環として「にじゅうまるプロジェクト」における12項目の目標に向けた取り組みを宣言しました。	http://www.ad-hzm.co.jp/csr/csr_2017.html CSR報告書2017P31
6-2	目標13	㈱三菱東京UFJ銀行	世界遺産を保全する以下の活動を国内外で実施。 ・「白神山地」周辺地域の育樹活動 ・中国「武夷山」での環境保全活動 ・シンガポール「ボタニカルガーデン」での環境教育活動	http://www.mufg.jp/csr/juten/community/hoz/en/
6-2	目標4	株式会社三井住友フィナンシャルグループ	SMFGではCSRの重点課題のひとつに「環境」を置き、ホームページ上に環境への取り組みを「環境負荷軽減」「環境リスク対応」「環境ビジネスの推進」の観点で開示。	http://www.smfg.co.jp/responsibility/environment/
6-2	目標1	三井住友海上火災保険株式会社	2012年5月三井住友海上駿河台新館のオープンにともない、新館敷地内に、地域に開かれた環境コミュニケーションスペース「Ecomスルガダイ」を開設。環境や自然に関するさまざまな情報を発信し、また環境や自然、社会貢献に関するイベントや展示を開催し、地域の皆様と交流する場として活用している。	http://www.ms-ins.com/company/csr/ecom/
6-2	目標4	株式会社 丸井グループ	・環境データの積極的な情報開示や環境省セミナーでの取組み発表など、投資家を中心としたステークホルダーとの積極的なエンゲージメントにより、中長期的投資を調達するなど、企業としての持続的成長をめざしている。	http://www.0101maruigroup.co.jp/ir/pdf/i_report/2017/j/i_report2017_a3.pdf 2017年共創経営レポート・P91

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
7-1	目標15	北陸電力株式会社	北陸3県5地区で森林保全活動「水の恵みをありがとう！森に恩返し活動」を展開。水源涵養や土砂崩れ防止等の恩恵を与えてくれる森林に感謝し、従業員と家族が中心となり、苗木の植樹や下草刈り等を実施。	http://www.rikuden.co.jp/kankyo-ene/biodiversity.html
7-1	目標1	株式会社ヤクルト本社	「国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)」が呼びかける「MY行動宣言」に連動したヤクルトグループ全従事者向けの「ヤクルトCSRキャンペーン」を2017年6月に実施した。生物多様性を守るための5つのアクションから自分にできることを選び、宣言する「MY行動宣言」を募集した。その結果、15,706名が参加し、宣言についてはUNDB-Jに報告を行った。	ニュースリリース(2017年9月19日)
7-1	目標1	株式会社リコー	えなの森プロジェクト(所有林の保全活動) 2014年4月、地元住民の代表者、地元企業、地元NPO団体、リコー関連会社で構成される組織「リコーえなの森中山道里山協議会」を設置し、活動を開始しました。以来、協議会が主体となって、地元のボランティアとリコーグループ社員がともに森林の間伐や、木々と希少生物の保全を進めています。	https://jp.rioh.com/ecology/biodiversity/contribution/ena_forest.html
7-1	目標1	株式会社ヨロズ	ヨロズ栃木・小山第一工業団地での生き物調査 工場排水が流れる地域の生き物をサンプリングし、水質状況を地域住民、NPOと企業が共同で確認している。(年2回)	
7-1	目標1	日立金属株式会社	エコマインド教育(e-ラーニング)やイントラネットを活用した知識教育を実施。 環境情報(法令改定など)の展開(1回/月)を実施。	-
7-1	目標1	株式会社ファンケル	【教育】①従業員教育:ファンケルの森(山梨県道志村)で森林社員研修を1回/年実施。 植樹や間伐体験	http://www.fancl.jp/csr/env/enlighten.html
7-1	目標15	四国電力株式会社	四国電力では、平成18年より、高知県とパートナーズ協定を結び、「四万十よんでの森」の植樹活動等を行っています。直近では、小学生と共に、植樹活動や、しいたけの菌打ち体験などふれあい活動も行っていきます。	http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/030101/kyoudounomori-jirei04.html
7-1	目標1	新菱冷熱工業株式会社	生態系保全活動・啓発プログラム「環境ルネッサンス活動」 この活動は、生態系保全や環境教育に関わる活動を行った社員に図書カードを支給し、環境に関する書籍の購入を補助し、生態系保全への理解と継続的活動への意欲向上を目指します。また、1年間に支給した図書カード費の同額を、国際環境NGOに寄付するマッチングギフト制度となっています。	https://www.shinryo.com/environment/renaissance.html
7-1	目標1	西松建設株式会社	役職員の環境意識と知識の向上を目指し、環境社会検定(eco検定)試験の受験・取得を全社的に推進中。取組み開始から4年半で全体の82%に当たる約2,100名が合格(2017年10月現在)。2020年度までに2,300名(90%)の合格を目指しています。 また、e-ラーニングの実施、外部有識者を招いての環境セミナーの開催、NPOとの連携による生物多様性現地学習を毎年実施中。	https://www.nishimatsu.co.jp/csr/report/pdf/2016EnvironmentalPerformance.pdf 2017年コーポレートレポートp32
7-1	目標19	株式会社 東海理化	◆環境講演会 経営層や上級職、環境に携わる関係者を対象に「生物多様性」をテーマにした講演会を開催しました。 企業が生物多様性に取組む目的やメリットを明確にし、自然・地域との共生に向けた取組みの理解を深めました。	東海理化レポート 2017 p47
7-1	目標1	キヤノンマーケティングジャパン株式会社	「未来につなぐふるさとプロジェクト」の実施 国内10地域でNPOなどと連携し、生物多様性の啓発・保全活動を展開しています。2016年は36回のボランティア活動を実施し、728名の地域住民やグループ会社従業員、家族が参加しました。	http://cweb.canon.jp/csr/furusato/index.html
7-1	目標1	JNC株式会社	守山工場(JNCファイバース(株)、JNCフィルター(株))内に、ピオトープをもち、そこに生息するゲンジボタルの放中を含めた「ほたるのタベ」という地域住民との交流会を毎年6月に開催している。	
7-1	目標12	株式会社フジクラ	フジクラ佐倉千年の森PJ:千葉県佐倉市の事業所内緑地を整備し、緑地に存在する希少生物の保護を推進している。	フジクラグループCSR統合報告書2016 http://www.fujikura.co.jp/csr/web_report/environmental/creature.html
7-1	目標1	セコム株式会社	社員への啓発活動 社内イントラネットを活用した環境のホームページ・SECOMのECOでは、「生物多様性」についてわかりやすく解説するページを設置したり、クイズなどを出題して社員に興味を持ってもらうよう工夫しています。	セコムWebサイト CSRの取り組み>地球環境とともに < http://www.secom.co.jp/corporate/csr/report/hozen4.html >
7-1	目標15	富士通株式会社	熱帯雨林再生活動: 当社グループは2002年からボルネオ島のマレーシア サバ州にある「富士通グループ・マレーシア・エコ・フォレストパーク」で、熱帯雨林再生プロジェクトに取り組んでいます。16年間の継続的な活動により昨年、マレーシア サバ州の「保存林」に認定されました。	http://www.fujitsu.com/jp/about/environment/activities/global/rainforest/index.html
7-1	目標1	株式会社ファンケル	【教育】②学校と連携した環境教育(横浜国大、横浜市大、フェリス、武蔵野大)の実施。	
7-1	目標1	イビデン株式会社	イビデンの森に関する活動の一環として、従業員、OB・OG、地域住民・学生を対象に参加者を募り、環境保全の体験の場としている。 また、新入社員研修の一環としても森林整備活動を取り入れている。	http://www.ibiden.co.jp/csr/report/pdf/report17_07.pdf 51ページ

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
7-1	目標15	四国電力株式会社	四国電力では、平成15年より、香川県のフォレストマッチングで協働の森づくりにて協定を結び「香川・よんでん五色の森」の植樹活動を四国電力社員とその家族等で毎年行っています。	http://www.pref.kagawa.lg.jp/midoriseibi/moridukuri/forest/example/shikoku_katudou14.htm
7-1	目標1	NEC	NECグループ社員の環境意識の向上を図るため、2004年より認定NPO法人アサザ基金との協働で、稲作からお酒造りまでを一年を通じて体験する自然体験参加型プログラム「NEC田んぼ作りプロジェクト」を行っています。「IT・ネットワーク技術」を活用して生態系観測や生物多様性保全に貢献する開発・実証も目指しています。	http://jpn.nec.com/community/ja/environment/tanbo.html
7-1	目標1	ダイハツ工業株式会社	・社員による生物調査会 滋賀(竜王)工場内のビオトープにおいて、社員と家族による生物調査会を開催。滋賀地区の従業員が参加。従業員がビオトープに生息する植物、生物を観察し、「滋賀ビオトープ生物マップ」を完成させた。地域の生物多様性への関心と理解を深め、事業所内に地域本来の自然と生物がいることを知った参加者からは、この自然を未来の子供たちに残したい、もっと多くの人に知ってもらいたいとの感想が寄せられた。	https://www.daihatsu.com/jp/csr/conservation/biodiversity.html
7-1	目標14	セコム株式会社	エコツアーの推進 セコムグループ社員の福利厚生を担当する株式会社ワンダードリームと協力して社員向けの「エコツアー」の紹介の取り組みを行っています。このエコツアーをさらに推進するため、社内イントラネット上に特集「エコツアーに出かけよう」を設置しました。	セコムWebサイト CSRの取り組み > 地球環境とともに (http://www.secom.co.jp/corporate/csr/report/hozen4.html)
7-1	目標1	株式会社ファンケル	【教育】③一般市民参加型の体験学習(森林保全の実験)を実施。森の宝箱(横浜市水道局との協働等)	
7-1	目標1	三井不動産株式会社	当社グループ会社所有の保有林で社員参加の植林研修(1回/年)を実施。植林体験等を通じ森林保全および環境関係活動への意識向上を図っている。	http://www.mitsufudosan.co.jp/corporate/csr/2017/pdf/mf_csr2017_dg_05.pdf
7-1	目標4	三菱電機株式会社	「みつびしでんき野外教室」:2006年10月から、社員がリーダーとなり、親子を身近な自然に誘い、五感で生きもののつながりを感じる教室を開く教育活動を、全事業所で進めています。自然に親しむことで、暮らしと事業が生物多様性から受ける恩恵や、与える負担を意識し、環境負荷低減への決意を新たにします。	http://www.mitsubishielectric.co.jp/corporate/environment/policy/naturalsymbiosis/class/index.html
7-1	目標5	ソニー株式会社	ソニーネットワークコミュニケーションズは、長野県にある「So-netの森」において、地球環境と共生し、その保全に努めることを目的に、2010年より森林整備活動を行っています。「So-netの森」は、(1)身近な自然を育み、次世代へ維持・継承していくための活動の場、(2)環境保全や生物多様性について改めて考える場と位置づけています。	http://www.sonymetwork.co.jp/corporation/csr/mori/
7-1	目標1	ミサワホーム株式会社	「ミサワオーナーの森 釧路町」(北海道釧路郡釧路町)や「ミサワホームの森 松本」(長野県松本市川奈)及び「MISAWAオーナーの森 宮城」(宮城県宮城郡利府町)での森林保全活動	www.misawa.co.jp/corporate/csr/2017年CSRレポートp42
7-1	目標1	四国電力株式会社	eラーニングやイントラネットを活用した知識教育を本年を通して実施しています。	-
7-1	目標12	前田建設工業株式会社	■希少植物の保護 岩手県大槌町における震災復興整備事業にあたり、130万㎡に及ぶ工区内には準絶滅危惧種に指定されているミズアオイが自生しており、岩手県立大の平塚教授が種子のDNA鑑定を行ったところ、これらは除草剤を使用していない時代の種子であることが判明しました。震災により地中深くに埋まっていた種子が発芽したものと考えられています。前田建設は、日本ビオトープ協会による生息範囲調査に際し、現場内重機誘導等の協力を行いました。	http://www.maeda.co.jp/csr/report/pdf/2017/2017_report.pdf 2017年CSR報告書P43
7-1	目標1	ダイハツ工業株式会社	・工場公開行事における「生物多様性」啓発活動 各工場では年に1度、工場公開イベントを行っており、各イベントで生物多様性の紹介パネルを展示し来場者向けの啓発活動を行っている。地域に生息する昆虫の展示や、外来種問題に焦点をあてた「外来種すくい(体験型ゲーム)」等により、大人も子供も生物多様性への関心を持っていただけるよう働きかけている。	https://www.daihatsu.com/jp/csr/conservation/biodiversity.html
7-1	目標1	中日本高速道路株式会社	【環境コミュニケーション】当社では、お客さまや地域の皆さまとの環境を通じたコミュニケーションを大切にし、地元の学生や企業の皆さまと一緒に地域性苗木の植樹を行っています。また2017年3月に環境省と「国立公園オフィシャルパートナーシップ」を締結し、国立公園の魅力を活かした、地域間交流の促進や地域の活性化に取り組んでいます。	https://www.c-nexco.co.jp/corporate/csr/csr_download/NEXCO中国レポート2017 P50
7-1	目標7	積水ハウス株式会社	◆「企業の森」事業 和歌山県で、県の推進する「企業の森事業」に賛同し、2006年から森林保全活動に取り組んでいます。こうした植林は多くの場合、スギなどの針葉樹が中心であるが、当社では荒れて放置された斜面に昔のように命溢れる広葉樹の森を復活させたいという地権者の方の理解を得て、生きものの利用メリットの高い在来の広葉樹中心の植栽を企業としてサポートしている。10年を経て、累計4haで活動を進めている。	サステナビリティレポート(web版) https://www.sekisuihouse.co.jp/sustainable/social/citizenship_9/index.html
7-2	目標1	ソニー株式会社	ソニーでは、生物多様性を守るには、多くの人が自然を好きになることが大切という思いから「わお! わお! 生物多様性プロジェクト」を推進しています。「わお!」という言葉は、自然の面白さや不思議に触れたときの感動を表したものです。この「わお!」な感動を多くの人に伝え、みんなで共有することで「わお! わお!」という大きなムーブメントに育て、生物多様性の保全につなげていきます。	https://www.sony.co.jp/SonyInfo/csr/eco/spotlight/waowao/
7-2	目標1	ヒロセ電機株式会社	環境の取り組み、生物多様性の取り組みをホームページで紹介しております。	https://www.hirose.com/jp/csr/er/

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
7-2	目標4	株式会社三井住友 フィナンシャル グループ	子ども向けの環境情報誌 JUNIOR SAFEを無料で発行。子どもたちに向けて、環境とお金の関わりをわかりやすく説明した冊子。自らの消費行動と環境がどのようにつながっているかを子どもたちが考える視点で作成。	http://www.smgf.co.jp/responsibility/report/magazine/pdf/jsafe_002.pdf
7-2	目標1	いであ株式会社	当社は生物・生態系に関わる調査・解析、対策案の立案等を支援するコンサルティングサービスを提供しており、生物・生態系に関する深い知識を持つ職員が多く所属しています。そこで、これらの職員をNPO法人等の主催イベントに講師として派遣し、生物多様性に関する普及啓発に貢献しています。	環境教育活動 http://ideacon.jp/csr/social/education.html
7-2	目標5	ブラザー工業(株)	マングローブ林は、小魚、カニ、貝、エビの宝庫で、豊かな生態系を形成します。しかし、近年の塩田開発やエビ養殖の影響により、タイのマングローブ林は急速に減少しました。ブラザーコマース(タイランド)では、2009年度からマングローブ林の保護と再生を支援しています。2015年10月は、従業員、お取引先、学生、一般の方を含めて、総勢281人が植樹活動に参加し、マングローブの苗木300本を植樹しました。	http://www.brotherearth.com/ja/activity/thailand.html
7-2	目標1	三井物産株式会社	未来の担い手である子供たちが持続可能(サステナブル)な未来を創る力を育むための「サス学(サステナビリティ学習)」アカデミーを2014年以降毎年開催。「サス学」という学びの手法を通じ、世界中で展開する当社の事業と社会貢献活動を新たな角度から取り上げる。2016年は「未来のくらしとごこと」をテーマに、当社ロボット事業等を教材として子供たちに伝えると共に、課題解決力、チームワーク、チャレンジ精神を育てる場を提供した	(三井物産WEBサイト)「サス学」アカデミー http://www.mitsui.com/jp/ja/sustainability/contribution/education/sasugaku/index.html
7-2	目標1	損害保険ジャパン 日本興亜株式会社	「SAVE JAPAN プロジェクト」保険契約者がWeb約款を選択することにより、当社が環境NPOに寄付を行い、当該NPOと協働で、地域の希少生物種と触れ合う参加型の環境保全活動を開催。	http://savejapan-pj.net/
7-2	目標1	株式会社サンゲツ	2013年7月サンゲツでは、フロアタイルで初めて「カーボンフットプリントマーク」を取得しました。一般的な全厚3ミリのタイルに比べ、製品の原材料調達から製造、物流、廃棄に至るまでのライフサイクルで1㎡あたりのCO2排出量を3kg削減しています。(削減率14%)	https://www.sangetsu.co.jp/pdf/csr/stakeholders/environmental_report2017_a3.pdf 環境レポート「Environmental Report 2017」p22
7-2	目標1	日本テクノ株式会社	各ステークホルダーに対して、自社サービスの環境関市場新聞の発行を3ヶ月に1度、定期配信をおこなっております。その他法人企業の省エネの取り組み事例を掲載しています。	
7-2	目標1	森永製菓株式会社	社有地、伊賀・エンゼルの森を利用して「森のようちえん」を開催し、生物多様性や環境保全等を、お客様でもあり未来を担う子供たちに環境教育を実施。	http://www.morinaga.co.jp/company/csr/report/2016年CSR報告書p21
7-2	目標1	プリマハム株式会社	子どもたちに「食の大切さ」「食の安全性」を理解してもらうために、小学校への当社オリジナル教材の提供と、当社の従業員による小学校への出前授業に取り組んでいる。	https://www.primaham.co.jp/company/report/おいしさ、ふれあいBOOK2017 P26 社会・環境報告書2017 P29
7-2	目標1	ナブテスコ株式会社	朝日新聞環境プロジェクト「地球教室」への参画	https://www.nabtesco.com/ir/pdf/2016_12/integrated_report_2016.pdf
7-2	目標5	サラヤ株式会社	持続可能なパーム油及びパーム核油(RSPO認証油)をご家庭用商品に100%使用している。また、商品の広告を通して、日々の生活が生物多様性に依存し、インパクトを与えていることの理解を拡げている。	http://www.saraya.com/conservation/index.html?utm_source=saraya&utm_medium=banner
7-2	目標1	株式会社リコー	生物多様性保全:環境社会貢献活動 リコーグループの環境社会貢献活動は、「森林生態系保全活動」「グループ組織の社会的責任活動」「社員のボランティア活動」「環を拡げる活動」の4つの施策から構成され、世界各地の地域コミュニティと一体となって進めています。このうち、世界各地のグループ組織が実践している社会的責任活動は、環境行動計画に掲げた生態系保全活動の目標を達成するために、グループ各社で取り組んでいます。	https://jp.ricoh.com/ecology/biodiversity/contribution/02_01.html https://jp.ricoh.com/ecology/biodiversity/contribution/03_01.html
7-2	目標1	(株)アレフ	外来種セイウオオマルハナバチ不使用の生産者依頼と野外における駆除活動・市民への普及啓発	
7-2	目標1	三井物産株式会社	小中高生を対象に「出前授業」を実施。「森のめぐみと森の仕事」をテーマに、森林の役割や生物多様性の大切さ、日本の森林の現状や林業の仕事について紹介する意識啓発活動を継続。16年度は13回/837名に実施。又、「三井物産の森(社有林)にて、林業や森林環境について学ぶ体験型プログラムを実施。16年度は7回/226名が参加。	(三井物産WEBサイト)三井物産の森を通じた環境教育 http://www.mitsui.com/jp/ja/sustainability/contribution/environent/forest/env_edu/
7-2	目標1	森ビル株式会社	「街育」と称して年間1,000名以上の子どもとご家族に、弊社の街づくりにおける3つのミッション「環境・安全・文化」を六本木ヒルズ等の現場で体感し考える機会を提供している。環境面では田んぼやビオトープなど生物多様性に配慮した緑地を体感するため、クイズやバードウォッチング等を交えながら開催している。	http://www.mori.co.jp/machiiku/

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
7-2	目標1	日本航空電子工業株式会社	定期新入社員や新任管理職研修など階層別の一般環境教育の中に生物多様性の啓発に努めている。	http://www.jae.com.jp/env/2017/environmentaltrain.html 2017年環境報告/環境教育
7-2	目標1	キヤノンマーケティングジャパン株式会社	キヤノンでは2017年3月から、ホームページで、生き物や自然の不思議に触れることが出来る環境教育サイト「アニマリウム」を公開しています。ウェブサイト上の仮想空間(山、川、海、町)に、生き物や自然の不思議が隠れていて、それらをカメラで撮影するように、クリックして、豆知識を学ぶことができます。ウェブサイトでの疑似体験を通して生物多様性保全の啓発と普及を推進することを目指しています。	http://cweb.canon.jp/ecology/animarium/index.html
7-2	目標1	三井不動産株式会社	グループ保有林材を活用した森林保全啓蒙イベント「&EARTH DAY」を毎年、自社運営商業施設で開催。当社グループビジョン「&EARTH」のPRとともに「森を育てる大切さ」を伝えることを目的とし、NPO法人や木育インストラクター・パフォーマー・ボランティアの学生などに協力をいただき、親子が一緒に楽しく学べる木育ワークショップ等を実施している。	http://www.mitsufudosan.co.jp/corporate/csr/2017/pdf/mf_csr2017_dg_05.pdf
7-2	目標1	三菱ケミカル株式会社	生物多様性に貢献度の高い製品を選定し、HP等を利用して社内外へ広くアピールしている。また生物多様性貢献製品のさらなる改善や増加に努めている。	三菱ケミカルホールディングスグループ生物多様性貢献製品 http://www.mitsubishiche-m-hd.co.jp/sustainability/activities/environment/biodiversity.html
7-2	目標4	㈱日清製粉グループ本社	事業場の生物相調査により、生き物とのつながりを確認し、環境配慮行動の推進に利用している。	参考資料: http://www.nisshin.com/csr/report/ 「社会・環境レポート2017」 「社会・環境レポート2013」
7-2	目標10	日本電信電話株式会社	NTTぶららでは、環境保全活動の一環として、サンゴ礁が輝く美しい海を後世に残すことを目指し、お客様が楽しみながら環境保護への参加および重要性の認識ができる取り組みとして、お客さま参加型の「守ろう！沖繩のサンゴ再生プロジェクト」を推進している。2年目にあたる本年度は、本プロジェクトへの参加を表明(エントリー)いただいたお客さまの人数に応じて、NTTぶららがサンゴの保護団体へ寄付を実施。	http://www.ntt.co.jp/csr/report.html NTTサステナビリティレポート2016,P085
7-2	目標1	東京海上日動火災保険株式会社	環境啓発活動の一環として、「みどりの授業～マングローブ物語～」を実施。社員・代理店等がボランティアで講師となり、小学校・特別支援学校を訪問し、マングローブ植林と制服の再利用を題材に「地球温暖化防止・生物多様性」をテーマとした授業を行っている。2017年3月末までに、全国の小学校・特別支援学校で約760回実施し、約51,000名の児童・生徒の皆さんが本授業を受講した。	http://www.tokiomarin-e-nichido.co.jp/world/kids/midori/
7-2	目標1	オリンパス株式会社	オリンパスグループは全社員を対象とした環境意識の啓発活動の1つとして、「未来に残したい自然の恵み」をテーマとした環境フォトコンテストを2011年より実施しています。世界の4つの地域(米州、欧州、アジア・オセアニア、日本)より約1000点に及ぶ応募があり、優秀作品の表彰およびオリンパスグループ内での展示を実施しています。	https://www.olympus.co.jp/csr/effort/education/2017.html
7-2	目標13	東京急行電鉄株式会社	当社では、土地区画整理等を通じて、失った緑を街に返すことを目的に、2011年まで40年間で累計22万3千本の苗木を配布し、緑化を推進した。2012年からは公募で寄せられた緑化活動の中から、すぐれた企画に支援を行うことで、「みどりをきっかけにまちづくり・コミュニティづくりへ「リンク(つながり)」させています。2016年度末までに、51件の活動を応援している。	当社「みど*リンク」アクションHP: http://mido-link.com/
7-2	目標1	JXTGエネルギー株式会社	環境対応商品の開発・販売	http://www.no.ejxtg-group.co.jp/ecoproducts/
7-2	目標1	富士通株式会社	環境出前授業: 全国の小中学校、高校で環境出前授業として、「地球1個分で暮らすために～エコロジカル・フットプリントから考える～」(WWFジャパンと協働で開発、UNDB-Jが推奨する事業として認定)など2講座を実施し、子どもたちの環境マインド育成を支援しています。	http://www.fujitsu.com/jp/about/environment/activities/education/index.html
7-2	目標1	古河機械金属㈱	当社足尾事業所では定期的に地元の小中学校の生徒等を対象に同所の環境保全活動や足尾の歴史等についての勉強会を開催しています。2016年8月には足尾小学校の先生10名を対象に、当社の鉱山施設等を見学してもらい、産業遺産としての施設の重要性を理解していただきました。	http://www.furukawakk.co.jp/pdf/CSR/2017.pdf 参考資料: CSR報告書2017 P36
7-2	目標19	株式会社 東海理化	◆環境教育 環境に対する知識を深めてもらう為に環境月間イベントの一環として、環境クロスワードを作成・展開し、社員やその家族が生物多様性について学べる場を提供しています。	-
7-2	目標1	株式会社 三菱ケミカルホールディングス	科学的な根拠をもとに、グループ製品の中から生物多様性保全の貢献度が高い製品を選定し、お客さまとその価値を共有し、ともに市場での普及を進めています。	http://www.mitsubishiche-m-hd.co.jp/csr/download/pdf/17.pdf KAITEKI REPORT2017 p10, 68 http://www.mitsubishiche-m-hd.co.jp/sustainability/activities/environment/biodiversity.html 三菱ケミカルホールディングHP

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
7-2	目標1	トヨタ自動車株式会社	2005年に世界遺産の白川郷の近くに開校した「トヨタ白川郷自然学校」で、多くの一般の方々、子どもたちに、自然体験プログラムを提供し、自ら理解し行動できる人材の育成を目指しています。これまで延べ19万人に來校いただきました。	環境報告書2017p41 http://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/report/archive/er17/pdf/er17_full.pdf
7-2	目標1	サントリーホールディングス株式会社	貴重な水資源を未来に引き継ぐために、サントリー独自の次世代環境教育「水育」を事業として取り組んでいます。「サントリー天然水」のふるさとで開かれる自然体験プログラム「森と水の学校」には2004年開校以来約21,000名の親子が参加。小学校で先生方と一緒に「出張授業」には2016年までに約1,392校、約106,000名の児童に参加いただきました。	http://suntory.jp/mizu-iku/
7-2	目標1	アサヒグループホールディングス株式会社	アサヒグループの「生物多様性宣言」に示された3つの基本方針と9つの行動指針を具体的に実施するために、社有林「アサヒの森」の森林生態系に関するモニタリング調査を平成14年・21年そして22年～24年にわたり実施しました。この数回の調査結果を基に、適切な森林管理が生物多様性の保全の上でも重要な役割を担っていることを示し、情報発信に役立ててまいります。	http://www.asahibeer.co.jp/asahi_forest/summary/profile/bioreport.html
7-2	目標15	東京海上日動火災保険株式会社	2009年度より「お客様とともに環境保護活動を行うこと」をコンセプトに、「Green Gift」プロジェクトを通じて地球環境保護に取り組んでいる。具体的には、お客様に「ご契約のしおり(約款)」等を紙の冊子ではなく、ホームページ上で閲覧いただく「Web約款」等をご選択頂くことにより、紙資源の使用量を削減すると共に、紙資源使用量削減額の一部の寄付を通じて、マングローブ植林をはじめとした国内外の環境保護活動をサポートしている。	http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/world/greengift/about/
7-2	目標1	三井住友トラスト・ホールディングス株式会社	地域の生態系保全などをテーマに掲げた持続可能な開発のための教育(ESD)を全国の学校で展開。→Green TVと連携し映像教材を活用した先進的な授業を実施。次世代を担う子供たちに生態系や生物多様性の重要性を訴求。多様なステークホルダーを巻き込んで実施することで、地域の環境マインド向上にも貢献。	CSRレポート2016(ESDプロジェクト) http://smth.jp/csr/report/2016/full/all.pdf
7-2	目標1	株式会社セブン&アイ・ホールディングス	セブン-イレブン店頭に設置している募金箱に寄せられたお客様からの募金とセブン-イレブン・ジャパンからの寄付などで運営されているセブン-イレブン記念財団は、日本の貴重な自然や生態系の保護・保全について学ぶ「自然学校」を大分県の九重、東京都の高尾で運営しています。里山・里地の保全活動や森林整備・環境体験学習の場として、一般のお客様にご参加いただける多彩なプログラムを提供しています。	http://www.7midori.org/kokonoe/ http://www.7midori.org/takao/
7-2	目標1	株式会社日立国際電気	当社各事業所で、夏季節電運動の一環としてグリーンカーテン活動を実施し、地域保育園へのゴーヤ苗寄贈、園児へのゴーヤに関する環境教育、社内SNSによる社内情報共有を行った。	http://www.hitachi-kokusai.co.jp/csr/er/er2017/er2017_014.pdf CSR報告書2017 p21
7-2	目標1	富士通株式会社	持続可能な世界に向けたグリーンICTの研究開発として、生物多様性保全に向けた「自然資本評価技術」を開発、Webアプリケーション「EvaCva」上に搭載し、一部の生態系サービスの価値を地図情報や公開情報から算出し見える化するツールを一般公開しています。	http://www.fujitsu.com/jp/documents/about/resources/publications/magazine/backnumber/vol68-2/paper02.pdf
7-2	目標1	九州電力株式会社	○九州各地の森で「学ぶ」「守る」「楽しむ」の要素を織り込んだ環境イベント「Play Forest」を展開。間伐材での「マイ箸作り」など、家族で楽しみながら環境について学んでいただく取組を推進 ○山下池周辺(大分県由布市)の社有林「くじゅう九電の森」にて、子どもたちの環境意識の啓発を目的に、自然環境を活用した体験型の環境教育(林業体験、森林観察、木工教室)を実施	2017九州電力環境アクションレポート(P7~8) http://www.kyuden.co.jp/environment/booklet_action-report17.html
7-2	目標1	日立建機株式会社	環境教育を通じた地域貢献・環境啓発をめざし、日立建機は浦幌町教育委員会・浦幌町地域子ども会育成連絡協議会主催「少年リーダー養成講習会」一環としてエコスクールを開催しました。本活動はにじゅうまる宣言に登録されています。環境学習では、地球環境が抱える課題や、油圧ショベルの役割と環境配慮についての講義を行いました。本活動はにじゅうまる宣言に登録されています。	https://www.hitachicm.com/global/jp/environment-ment-csr/csr/news/news-2015/15125-2/
7-2	目標1	伊藤忠商事株式会社	環境問題への関心を高める取組の一環として、1992年より毎年夏に環境教室を地域の子どもたちを対象に開催。2016年までに累計約1,200名以上の次代を担う小学生に環境保全、生物多様性保全の学び場を提供。	(弊社HP参照) https://www.itochu.co.jp/ja/csr/social/conservation/index.html
7-2	目標7	㈱ニチレイ	当社グループでは、CSR活動の一環として、一般社団法人フォレストストック協会が発行する森林クレジットの購入を通じ、同協会が実施する森林保全活動を支援しています。お客様にお買い上げいただいた冷凍食品や水産品の売り上げの一部で、日本国内の森が吸収するCO2クレジットを購入し、その代金が間伐や枝打ちなどの保全活動資金となり、森に還元されています。	http://www.nichireifoods.co.jp/mori-good/vision/index.html ニチレイフーズHP http://www.nichireifresh.co.jp/product/fish/detail/?id=227 ニチレイフレッシュHP
		旭硝子株式会社	2013年にブラジル(サンパウロ州グアラティンゲタ市)において建築用・自動車用ガラスの工場を新設しました。工場建設にあたっては2011年から工場周辺の環境活動として、自治体とともに植生回復と野生生物保護のためのプロジェクトを展開しています。さらに同年から工場周辺への植林にも取り組んでおり、目標33,000本のうち、19,500本の植林を完了しています。	http://www.agc.com/csr/earth/ ブラジルの新工場に先進技術を導入し、環境負荷を最小化
		株式会社エンピロ・ホールディングス	『企業理念』に「活財:あらゆるものの命を生かして使い回す」を掲げ、それを実現するため、事業活動にあっています。産業・一般廃棄物をあらゆる手段を用いて資源化し、資源の持続的活用に努めています。	

行動指針	愛知目標	企業名	具体的な活動	参考資料
		菱電商事株式会社	生物多様性保全につながる社会貢献活動	http://www.ryoden.co.jp/csr/environment/sustainability/sustainabilityreport2017/P20_P21
	目標1	東京ガス株式会社	バリューチェーンごとに状況を把握し、生態系への影響を低減。例えば、原料調達先のガス田開発における配慮状況の確認、自社保有LNG船のバラスト水管理、LNG基地における生息物のモニタリング調査とそれを踏まえた緑化保全活動、ガス管理設工における掘削土の搬出を抑制することで山砂採掘による生態系損失を抑制、違法伐採をしていない紙原料を使うことなど。	東京ガスグループCSRレポート2017 (冊子:P.43) (WEB) https://tokyo-gas.disclosure.site/ja/themes/149
		昭和シェル石油㈱	環境フォトコンテスト開催。子供たちが身近な風景から視覚を通して環境保全について考え、行動するきっかけを創出している。さらに、コンテスト入賞作品を展示し、その作品を見た人も環境問題について、またその問題解決のために何が出来るのかを考えて行動する「きっかけ」を作る。	http://www.showa-shell.co.jp/csr/2017/cb2017_05.pdf 2017年CSR Book
	目標5	日本板硝子株式会社	木製梱包材のサプライヤーに、CoC認証の取得を求めている。	WWFジャパン「ビジネスと生物多様性 勝手にアワード山椒の実賞」受賞 https://www.wwf.or.jp/activities/2015/02/1249419.html
		(株)日立物流	当社グループは、社会貢献活動の一環として、日立物流「まごころ基金」を通して、生態系・生物多様性の保全を目的に、植林活動を展開する財団、NPOを支援しています。	
		旭硝子株式会社	AGC旭硝子千葉工場では、工場有志で「AGC里山の会」を結成し、日頃から市原市里見地区において森林整備活動を行っています。2012年から毎年、地元のNPO法人の協力を得て、千葉工場をはじめAGCグループの従業員および家族など多数参加のもと、同地区で「森林ボランティア活動」を開催し、竹が密集して荒廃している山際の斜面で竹の伐採などを行っています。	http://www.agc.com/csr/sitereport/factory_chiba/index.html 生物多様性の保全 森林ボランティア活動を開催
	目標4	東京ガス株式会社	東京ガスのLNG基地(袖ヶ浦・根岸・扇島・日立)では、従来から工場敷地の緑化に取り組み、「生物多様性保全の推進ガイドライン」を定めた2009年以降は、事業活動における生物多様性への影響を把握する目的で、環境NPOの協力を得て、生息する鳥類・昆虫・植生などのモニタリング調査を継続的に実施しています。調査で得られたデータを活用して、エリア内に草丈の異なる草地(ギャップ)を創出するなどの生物多様性に配慮した緑地整備を実践しています。	東京ガスグループCSRレポート2017 (冊子:P.43) (WEB) https://tokyo-gas.disclosure.site/ja/themes/149
	目標5	日本板硝子株式会社	One-way木箱をリターナブルスチールパレットに転換	
		旭硝子株式会社	AGC旭硝子は、経団連自然保護基金への寄付を通じて、アジア太平洋地域を主とする開発途上地域における自然環境の保全に関する非営利の民間組織が行うプロジェクトに対する助成、わが国のすぐれた自然環境保全のために行う保護活動、及び持続可能な活用に関するプロジェクトに対する助成を行っています。	https://www.keidanren.net/kncf/fund/cooperator/
合計 551 活動				

本活動事例の内容は、回答企業による記述・表現をそのまま転記しております。

以上